

長 薬 同 窓 会 報

Alumni Association

*School of Pharmaceutical Sciences*

*Nagasaki University*

第 59 号(2019年)

# 目 次

同窓会長挨拶……………佐々木 均（昭53）……………	1
薬学部長挨拶……………尾野村 治……………	2
令和元年度長薬同窓会定期総会・講演会・懇親会……………	3
令和2年度長薬同窓会定期総会のご案内……………	4
下村脩博士胸像の除幕式と懇談会のご案内……………	5
支部だより……………	6
関東支部，近畿支部，広島支部，山口支部抜天会，福岡支部浦陵会，大分支部，熊本支部， 佐賀支部若楠会，長崎県央支部，長崎支部ぐびろ会	
クラス会および近況だより……………	16
村木フクエ（昭33），富安一夫（昭34），浅井 武（昭36），本田 功（昭37），幹事一同（昭38） 谷 覺（昭42），広本淳子（昭44），原田克己（昭50），七條利幸（昭54），山口正広（昭56） 池田光政（昭57），森藤由香（昭59），金子富美（昭59）・徳永類子（平1）・池田久美子（平17） 山口綾子（昭60），田川千恵美（昭61），森川慎也（平2），下田寛子（平3），前田健次（平5） 松永隼人（平12），吉田さくら（平19），濱崎久司（平27），林田颯志（平28），谷口隼輔（平30） 岡見和哉（平31），海江田雄哉（平31），棚原悠介（平31） 池水文香・岡見和哉・末廣彩・棚原悠介・堤智寛・西川恵・野田万鈴（平31修1） 相沢里佳・押川友紀・土井絹華・中原美南海・照井海人・陣林幸紀（学4） 橋口啓吾（学3），安河内ゆうと（学1），池田朝美（平28）	
研究室だより……………	47
細胞制御学，創薬薬理学，薬化学，薬品製造化学，医薬品合成化学，ゲノム創薬学，天然物化学 機能性分子化学，衛生化学，薬品分析化学，薬物治療学，医薬品情報学，薬剤学，実践薬学 薬用植物学，臨床研究薬学，治療薬剤学	
クラブOB会だより……………	64
硬式テニス部	
庶務報告……………	65
物故者氏名……………	65
会則施行細則変更について……………	66
寄附のご案内……………	67
学内記事……………	69
長薬同窓会役員名簿……………	71
長薬同窓会支部一覧……………	72
会計報告（平成30年度決算，監査報告，2019年度予算）……………	73
編集後記	



## ご 挨拶

会 長 佐々木 均 (昭53)

昭和53年卒の佐々木 均（長崎大学病院 教授・薬剤部長）です。今年は、これまでにないほど強い風の台風や、各地で川の氾濫を起こす大雨をもたらした台風が続けざまに日本に上陸し、大きな被害がでました。現在も避難生活を続けられている方もいらっしゃる事が報道され、心を痛めております。被害にあわれました方には、心よりお見舞い申し上げます。

また2018年10月19日、ノーベル化学賞を受賞された下村脩博士が90歳で逝去されました。ご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。偉大な先輩がいなくなり、誠に残念です。ありがたいことに、生前、薬学部に胸像を建立することをご了承いただきました。今回、会員の皆様方には多額のご寄附をいただき誠にありがとうございます。令和2年3月23日（月）11時30分に薬学部本館玄関ホールにて、下村脩博士胸像の除幕式を執り行います。ご都合のつく先生はご参加いただければ幸いです。

長崎大学薬学部は1890年に創立された日本最古の薬学部のひとつです。独特な歴史と高い教育力・研究力を持つ長崎大学薬学部は、多くの優秀な卒業生を輩出し社会に貢献してきました。歴史のある薬学部ですが、現在、4年制と6年制の2つのコースになり、一緒に入学した

学生も主に薬剤師になるものと、行政、製薬、その他の道に進むものにと、大きく分かれております。しかし、長崎大学薬学部を卒業した同じ同窓生として一生付き合える関係が重要です。長薬同窓会はその要（かなめ）となる役割を果たす必要があります。

長薬同窓会では、会員同士の連絡体制を整備し、SNSや同窓会ホームページを通して、様々な情報を発信してまいります。Facebook, LINEなどのSNSを活用して、長崎大学薬学部や長薬同窓会の現状や活動を紹介していきます。同じ学年のグループや若手会員のグループでのSNSを通じた情報交換も支援していきます。一方、他大学同窓会の名簿発行状況を鑑み本会名簿の発行も5年に1回となりました。総会や各地区の支部会の開催に合わせ、同窓生の参加を呼びかけ、講演会など魅力的な運営に努めます。特に、同窓会への女性会員や若手会員の参加を積極的に進めていくとともに、各地で活躍される同窓生の情報交換を推進します。

長薬同窓会も同窓生に深く愛される存在ですが、さらなる活性化が必要です。優秀な卒業生とともに歴史を守り、相互の交流を増やし、若い卒業生や学生への積極的な支援や情報交換をしていきます。ご協力のほどお願い申し上げます。



## 長薬同窓会の皆様へ

長崎大学薬学部長 尾野村 治

長薬同窓会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。常日頃より皆様方には、長崎大学薬学部の教育研究に格別のご支援とご高配を賜り誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

改めまして、ご挨拶申し上げます。本年4月より黒田先生の後任として薬学部長を拝命しました尾野村と申します。研究室は医薬品合成化学です。不慣れな学部長業務ですが、微力ながら精一杯務めさせていただきますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。

さて、薬学部と同窓会では、昨年10月に逝去された下村 脩博士の御功績を讃え、後世に伝えるために下村博士の胸像製作を進めており、令和2年3月23日にお披露目できる予定です。薬学部本館エントランスに設置しますので、近くにお越しの折には下村脩名誉博士顕彰記念館と共に見学していただければ幸いです。本件につきましても、同窓会の皆様から多大なるご支援を賜り深く感謝申し上げます。お陰をもちまして、150名を超える方々から凡そ380万円のご寄附をいただきました。このご寄附は胸像制作に加えて、長崎大学薬学部教職員と同窓会会員の交流促進、長薬出身の長崎大学薬学部教職員の海外派遣事業にも活用させていただきます。

恒例に従い、この場をお借りして、人事異動の近況、国家試験の合格状況や就職状況について報告させていただきます。まず、3月末日に衛生化学研究室の中山守雄教授と創薬薬理学研究室の植田弘師教授が定年退職され、春山貴弘助教（感染分子薬学研究室）がご退職されました。また、8月1日付けで薬品分析化学研究室に福田瑞穂助教（平27）が採用されました。現在、空席となっています2名の教授を来年4月に補充すべく選考を進めていますが、近い将来には、少子化が進み人口知能AIが一

層発達する時代に対応した薬学部の在り方が求められてきます。そこに向けて、薬学部の新しい体制や入試に関しましては、検討しているところです。

続きまして、第104回の国家試験結果を紹介させていただきます。新卒者40名が受験し、40名全員が合格いたしました。この合格率は100%で全国平均を14.5%ほど上回る結果となりました。既卒・その他でも12名の合格者を出すことができました。今後も、高い合格率を維持するため、きめ細かな指導を行っていく予定です。

就職状況について紹介させていただきますと、薬学科の卒業生のうち、主だったところでは、30名が病院・調剤薬局に、4名が公務員、5名が製薬関連企業に就職し、また、2名が大学院に進学しました。一方、薬科学科では卒業生38名中25名が本学博士前期課程に進学しております。他大学進学が5名と編入学が1名、公務員が2名、他就職が5名となっております。博士前期課程修了者32名の進路は、博士あるいは博士後期課程進学者が6名、公務員1名、製薬・化学等の製造業20名、CRO等4名、帰国1名となっています。

大学では年々教育の一層の充実が求められ、薬学科ではコアカリキュラムに準拠した教育の提供や国家試験に対応した学生へのサポート、研究者・技術者を目指す薬科学科学生を活性化するための施策を実行しています。このためには相応のお金が必要ですが、国から大学を経由して薬学部に降りてくるお金は年々縮小し学部運営に日々汲汲としています。このような状況下、同窓会の皆様には今後ご支援をお願いすることも多々あるかと存じますが、どうぞご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、長薬同窓会の今後益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念いたします。

# 令和元年度長薬同窓会 定期総会・講演会・懇親会

本年度は近畿支部（末澤克己支部長・昭47）のお世話で、令和元年6月15日（土）にホテル阪急エキスポパーク（吹田市）で開催されました。94名の同窓会会員のご参加により、無事終了いたしました。総会後は、岡田 浩先生（平17・京都大学講師）より、「薬局薬剤師の日常業務をエビデンスに～COMPASS プロジェクトの経験から」に関する特別講演と高田充隆先生（昭52・近畿大学教授）による「ビッグ

データから見える薬の評価」に関する特別講演が行われました。その後の懇親会も近畿支部創立100周年記念ということで、伊藤 潔幹事長（昭59）による司会・進行のもと、趣向を凝らした演出等もあり、盛会のうちに終了しました。その模様を一部紹介いたします。近畿支部だよりおよび庶務報告も併せてご覧ください。



総会の様子



会長挨拶



講演会 1



講演会 2



薬学部長挨拶



懇親会



懇親会 1



懇親会 2



懇親会 3



懇親会 4



懇親会 5



懇親会 6

## 令和2年度長薬同窓会定期総会のご案内

日時 2020年6月20日(土) 17:00～総会, 講演会, 懇親会(予定)

場所 ホテルニュー長崎 (JR長崎駅徒歩1分)

〒850-0057 長崎市大黒町14-5      Tel 095-826-8000

万障お繰り合わせの上, 多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

## 下村脩博士胸像の除幕式と懇談会のご案内

長薬同窓会会長 佐々木 均

長崎大学薬学部同窓生および関係者の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。下村脩博士の胸像製作事業には、多大なお力添えを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、令和2年3月23日（月）11時30分に薬学部本館玄関ホールにて、河野学長立ち合いのもと、下村脩博士胸像の除幕式を執り行うことになりました。長薬同窓会会員の皆様におかれましては、ご参加頂けますと幸いにございます。除幕式終了後、日頃の皆様のご尽力に対するお礼と長薬同窓会会員間の親睦・交流を深める目的で懇談会を計画しております。当日はささやかな懇談会の席も用意して、にぎやかな会にする予定でございます。ぜひとも万障お繰り合わせの上、ご参加下さいますようお願い申し上げます。事前予約は必要ありません。

日時：令和2年3月23日（月）11時30分から

場所・除幕式：薬学部本館玄関ホール

・懇談会：薬学部本館2階多目的ホール

問い合わせ先：

長薬同窓会事務局

〒852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学薬学部柏葉会館内

TEL&FAX：095-844-6383

E-mail：jimukyoku@choyaku.jp

# 支部だより

## ●● 関東支部 ●●

支部長 原 正朝 (昭60)

今年の関東支部総会は10月26日(土) 15:00より、東京大手町のUOMAN DININGで開催しました。同窓会本部から、長薬同窓会副会長・医薬品情報学研究室教授の川上 茂先生(平7)にご参加いただきました。参加者は、昭和の卒業生21人と平成の卒業生16人の計37人です。平成31年平成最後の卒業生3人の参加もあり、平成27年以降の卒業生が6人というフレッシュな総会となりました。

総会は、加藤幹事長(昭62)の司会進行により進められ、物故会員6名への黙祷の後、川上先生から薬学部の近況報告、下村 脩博士の胸像製作事業が進捗し、来年薬学部校舎内に設置予定であることなどの説明がありました。事業計画では、若い卒業生の参加を図るため、若い世代の幹事を増員することが承認されました。

総会の後、森田さん(昭30)による乾杯により、懇親会が始まりました。喉も潤ったところに、森田さんのリードによる校歌斉唱を行い大いに盛り上がりました。その後、平成31年卒業生から順に全員近況報告を行い、最後は最年長の黒岩先生(昭30)の近況を伺いました。

関東支部は、若手の卒業生の参加者を増やすために、新卒の参加費は無料とし、昭和から平成一桁の卒業生の参加費と、平成二桁の卒業生の参加費に差をつけるなど、できるだけ若い卒業生も気楽に参加しやすい会にすることを第一の方針としています。夫婦で参加していただいた卒業生も2組あり、来年は夫婦割引を導入することも検討しています。平成31年同窓生からは、来年は関東に在住する同級生を連れてきますという頼もしい言葉もありました。いよいよ来年は令和の卒業生が生まれます。三世代にわたった卒業生により、長薬同窓会が発展していくよう活動を続けてまいります。なお、関東支部では、総会とは別に比較的若い世代の同窓生が気楽に集まる会、長薬関東の会、若手の会を開催しています。森

川慎也(平2)さんより今年の会の開催報告がありましたので併せて報告します。

### 参加者

長薬同窓会副会長 川上 茂(平7)	
黒岩 幸雄(昭30)	森田 和之(昭30)
中尾 哲朗(昭35)	白松 一良(昭36)
谷 覺(昭42)	藤本 正治(昭42)
西村 正邦(昭44)	多田 和子(昭48)
渡部クリ子(昭48)	平田美恵子(昭48)
梶村 博(昭50)	吉岡 優子(昭56)
濱本 知之(昭57)	鈴木ひとみ(昭60)
高橋 薫(昭60)	原 正朝(昭60)
長尾 公則(昭61)	武内 富紀(昭62)
坂本 繁(昭62)	加藤 恵介(昭62)
池澤 竜平(昭62)	小川 浩司(平2)
小川 あや(平2)	松下 陽子(平3)
鈴木 志保(平3)	中田 一成(平9)
中田 雅美(平11)	石橋 紀久(平11)
高橋 圭介(平13)	淵 靖史(平21)
淵上 由貴(平22)	山崎裕太郎(平27)
豊村 文恵(平27)	沖田 啓(平29)
小牧 浩幸(平29)	米澤 敬大(平30)
小林 周平(平31)	



令和元年10月26日 於 UOMAN DINING

## 第10回長薬関東の会

森川 慎也(平2)

本会は、比較的若い世代の同窓生が気軽に集まり、楽しく飲んで食べて話す機会として、有志の会、若手の会、練達の会、関東の会、等とその時々諸事情で名称・形式を変えつつ継続しています。昨年は東京で開催された本部定期総会に集合とすることとしましたが、本年は8

月24日(土) 18時より銀座一丁目のSAIKA銀座店にて開催しました。時代は令和へと遷ったこともあり、この度は時代忘れ“平成卒”の会として企画し、平成元年から今春卒までの28名が参加しました(内訳は平成元年: 4名, 2年: 5名, 3年: 3名, 4年: 4名, 7年: 1名, 11年: 2名, 14年19年20年21年27年30年: 各1名, 31年: 3名)。

参加メンバーについて、まずは30年31年卒の4名のご参加とそのハンパないフレッシュ感に“感謝”でした。



もしも彼らがいなかったら、おっさん、おばさんにあまりにも偏った会であったことでしょう(失礼)。このところ参加のなかった3年卒ですが、このたび参加された3名は卒業以来の再会だったとのことで今後の交流の良い契機となったことでしょう。元年卒4名と30年31年卒4名がちょうどよいアングルの座席に位置し、いろいろな観点で感慨深く30年の時の流れを見比べさせていただきました。

例年のような特段のイベントは行いませんでしたが、その分ざっくばらんな雰囲気の中で会話は弾み、平成年間の大学・学部の当時と現在(繋がる話/繋がらない話)、部活動(消滅/新設)、集会所(知る/知らない)、研究室名称(辿れば実は同じ部屋)、あのお店の今(ゴールデンボール×/フラワーメイト○)、付近のコンビニの変遷(マツハヤ?)、等々、平成長薬の今昔物語を楽しみつつ、この度も大変有意義な交流の時間となったように思います。

新たな時代の到来に合わせてそろそろ平成一桁あたりはお引き取り願おうかというところで、次回からは平成20年卒あたりの世代が中心になって新しい風を吹かせてくれそうな予感です。本来の若手の会としていろいろと仕掛けていただければよいと思っています。



令和元年8月24日 於 SAIKA銀座店

## ●● 近畿支部 ●●

支部長 末澤 克己(昭47)

「長崎大学薬学部100年史」(平成2年発行) 故遠藤武男先生の寄稿にあります。近畿支部の創立は大正7年卒、新津 秀先生が大阪府衛生試験所に就職された1919年(大正8年)に遡り、今年でちょうど百年目になります。そこで2019年度長薬同窓会定期総会については、近畿支部で担当させて頂き、令和元年6月15日(土)、大阪万博公園(吹田市)ホテル阪急エキスポパークにて開催の運びとなりました。

午後3時から近畿支部総会(40名出席)に始まり、続く長薬同窓会総会、講演会、近畿支部百周年記念・懇親会(96名超参加)の様子をここにご報告します。

支部総会では、森藤由香(昭59)幹事の司会のもと支部長挨拶に続き、伊藤 潔(昭59)幹事長からの年間活動報告(昨年10月支部総会の報告と今回総会準備につき)、それに対応する会計報告と次期計画案の説明について、広本淳子(昭44)・尾山 廣(昭60)両副支部長の監査報告、参加者拍手承認で迅速に進みました。

2019年度長薬同窓会定期総会の議事は、議長に近畿支部の小池正博氏(昭47)が選出され、佐々木 均(昭53)会長から事業報告と令和元年度計画等、川上 茂(平7)副会長から決算報告と監査報告、岸川直哉(平10)庶務幹事から庶務報告が行われました。2020年次回開催地は長崎市で行われる由、それを受諾される形で長崎支部グピロ会の澤勢瑞城(平15)会長からご挨拶がありました。総会議事終了後、休憩、移動をはさんで全員集合の記念写真撮影となりました。

講演会については、伊藤 潔先生が司会を務め、2題

の特別講演が行われました。

講演1: 岡田 浩先生(平17)・京都大学講師・「薬局薬剤師の日常業務をエビデンスに〜COMPASSプロジェクトの経験から」、薬局薬剤師の臨床研究領域での先駆者として知られている岡田先生のお話しは軽妙なトークで、会場が沸きました。

講演2: 高田充隆先生(昭52)・近畿大学教授・「ビッグデータから見える薬の評価」、昨年度の近畿支部総会の折にもご講演頂き好評でしたが、今回も直近にニュースで取り上げられた先進的な話題をわかりやすく興味深くご教示、ご紹介頂きました。

午後6時すぎ、懇親会場に移り、凡そ卒年順にA~Lの12テーブル(8人掛け)に分かれて、引き続き伊藤先生の総会司会のもと、支部長開会挨拶、尾野村 治薬学部長挨拶(薬学部の近況ご報告)、江村 遵長崎大学学長特任補佐のお話し(西遊基金に関するご紹介)に続いて、白石哲也氏(昭32)による乾杯のご発声、とくに冒頭に記述の新津秀先生による近畿支部創設の経緯などのお話しを頂きました。暫しご歓談、テーブルごとの正餐スタイルのディナーと並行して、吉岡優子氏(昭56)からドイツ薬学視察より先週戻られたというホットな海外報告があり、再び佐々木 均会長が登場、楽しい同窓会の話題や特別講演の演者のお二人への感謝状授与と岡田先生、高田先生からのそれぞれのスピーチがありました。各テーブルでも初めての挨拶あるいは旧交を



温める情報交換に花が咲き、また同窓会本部から頂いた長崎カステラなども賞品とした簡単なくじ引きも始まり、いつしか時間が経つのも忘れるほど大変賑やかな宴となりました。

最後に、再び、来年開催地、長崎支部の澤勢瑞城さん(平15)による万歳三唱で、再会を期して、定期総会懇親会・近畿支部百周年の会は盛会裏に終わりました。

今回総会(近畿開催)について、遠路長崎のほか全国各地からご参加して頂いた本部役員、会員諸氏、及び開催準備等、長葉同窓会事務局にもお世話になりました。

お土産用焼き菓子について、京のケーキ屋さん「森の小枝」の森 賢造さん(昭47)に100人分焼いて頂きました。記念キーホルダー、これも100個以上、ご好意により原価で寄贈頂きました。いずれも大変好評でした。感謝いたします。



伊藤幹事長はじめ近畿支部幹事、とりわけ会場設営や後片付けに献身的に動いて頂いた、山澤さん(平18)、迎さん(平24)らに感謝いたします。

スナップ写真提供：黒田 誠氏(昭36)



令和元年6月15日 於 ホテル阪急エキスポパーク

## ● ● 広島支部 ● ●

支部長 青野 拓郎 (昭52)

長葉広島支部同窓会を「即位礼正殿の儀の行われる日」の10月22日(火)に例年同様にホテルグランヴィア広島にて開催しました。

今年は、長葉同窓会副会長の中嶋幹郎先生(昭57)をお招きしての開催となりました。昨年は、18名と久しぶりに多い参加者でしたが、今年は、常連の方々の都合がつかず、少し減って13名の参加となりました。

今回は、曾根正勝先生(昭46)の司会で始まりました。支部長挨拶の後、出席者の中で最年長の左利龍彦先生(昭38)による乾杯挨拶があり、会食懇談となりました。

歓談の合間に来賓の中嶋幹郎先生の御挨拶があり、下村博士胸像制作事業をはじめ長崎大学薬学部の新況について、お話をお聞きました。

近況報告では、広島カープがBクラスに終わったため、例年と違い野球に関する話は全く出ませんでした。いつもの年と同様に現在の仕事の話やご自身やご家族の話等、様々な出来事の話をお聞きました。

左利龍彦先生は、ゴルフを精力的にされていること、白内障の手術したこと等を話されました。村上 剛先生(昭43)からは、奥様の村上郁子先生(昭43)が健康に気

遣われ、いろいろな病院の受診を勧められるので診察券が凄い枚数になっていると苦笑されながら話されました。曾根正勝先生は、会社を子供さんに任せることにした話、ダイエットして65kgになった話などをされました。林 奉権先生(昭55)は、職場の放射線影響研究所での研究について話されました。また、入船直美先生(昭57)は、今長崎へ介護のため帰省しながらの生活だと話されました。岸川映子先生(昭60)からは、御自身の介護支援事業所での仕事、ALS患者の話、看取り等の話をされました。最後に瀧口益史先生(院平5)が、勤務先の広島国際大学薬学部の卒後教育研修会の紹介を含め話をされました。

近況報告が終わったところで写真撮影に移り校歌を斉唱し、最後に村上 剛先生の閉会の辞で閉会・解散となりました。

### 出席者

来賓 長葉同窓会副会長 中嶋 幹郎先生(昭57)

左利 龍彦(昭38) 村上 剛(昭43)

曾根 正勝(昭46) 古屋 敏子(昭47)

松井 由子(昭48) 青野 拓郎(昭52)

後河内厚行(昭53) 林 奉権(昭55)

長柄 眞司(昭57) 入船 直美(昭57)

岸川 映子(昭60) 瀧口 益史(院平5)

手島 賢二(平8)



令和元年10月22日 於 ホテルグランヴィア広島

## ●● 山口支部抜天会 ●●

野村 由子 (昭60)

山口県下関市で「第52回日本薬剤師会学術大会」が実施されるのに併せ、山口支部が担当して「長崎大学薬学部同窓会」を、令和元年10月13日(日)19時から、プラザホテル下関で開催しました。

山口県から20人、北九州市から3人、東京都から1人の計24人の参加者がありました。初めて会う同窓生も多かったことから、参加者同士が少しでも話しやすくなるよう、最初に「他者紹介ゲーム」を行いました。これは、2人1組のペアになり、お互いが自己紹介した後、相手方を他の人へ紹介するというゲームです。

ゲーム後、神代良彦先生(昭42)の乾杯の発声で、歓談に入りました。他の同窓会と重なったため出席できなかった、山口支部の今村明久支部長(昭49)から、山口県宇部市の地酒「貴」(スパークリング)や山口県産のワインの差し入れがありました。また、学術大会役員のため出席ができなかった中川明人下関市薬剤師会理事(平1)からも、下関市の薬剤師がプロデュースした日本酒「薬師(くすし)」の差し入れがあり、参加者全員で、山

口県のお酒を味わい、大いに親睦を深めました。

さらに、鬼山幸生先生(昭59)が、学術大会でPMD A共催シンポジウムにおいて、「医療用医薬品の添付文書等の記載要領改正について」の演題で講演するとの紹介に、「おっ！」と、参加者から歓声が上がりました。

翌日も早朝から学術大会のプログラムが予定されていることから、増田和久北九州支部長(昭50)の万歳三唱で、別れを惜しみながら、終了となりました。

参加者(敬称略)

佐々木恵子(昭33)	神代 良彦(昭42)
森重 徹洋(昭48)	増田 和久(昭50)
末田 淳子(昭53)	廣野 善昭(昭54)
伊藤 弘範(昭55)	久保 正樹(昭56)
瀬戸久美子(昭56)	江本 佳子(昭56)
大川内英生(昭59)	鬼山 幸生(昭59)
岡 幸夫(昭59)	白井かおり(昭60)
野村 由子(昭60)	松井 恵子(昭63)
長澤美智子(昭63)	津次 智子(平7)
西島 恵(平7)	白木 陽英(平9)
西 美帆(平10)	黒瀬 恵(平11)
山口 隆(平12)	渡邊亜由子(平13)



令和元年10月13日 於 プラザホテル下関

## ●● 福岡支部浦陵会 ●●

～浦陵会報告と松本先生を偲ぶ～

会長 池田 光政(昭57)

今年度の長薬同窓会福岡支部浦陵会は、日本中がラグビーワールドカップの熱気に包まれていた10月6日の日曜日、福岡市天神の西鉄グランドホテルにて、総会に結

いて、12時から懇親会が開かれました。

最年長の昭和24年ご卒業の松本康裕先生から、最年少の平成30年卒業の野村紗希子さんまで、幅広い年齢層、そして、男女比も男性18名、女性14名、平成の卒業生4名を含む総勢32名にご出席をいただきました。

長薬同窓会からは副会長であり、医薬品情報学研究室の川上 茂教授(平7)に長崎からお越し頂き、長薬の今年3月の薬剤師国家試験合格率が100%だったことをはじめ近況のご報告がありました。また我々の世代の卒

業生は大変お世話になった有吉敏彦先生、石黒正恒先生など特別会員の先生方にもご出席賜り、松本康裕先生の乾杯のご発声から岸川 良先輩(昭25)の中締めのお言葉まで、和気あいあいと、楽しいひと時を過ごさせていただきました。

また、今年も中津在住の中島徳子さん(昭59)、熊本の山本喜一郎(院昭55)さん、北九州支部の池田千加子さん(昭55)など、遠くからも駆けつけていただきました。ご出席いただいた皆様に、浦陵会幹事一同、改めて感謝申し上げます。

乾杯のご発声の際に、松本康裕先生から原爆投下後の長葉のお話があり、皆熱心に耳を傾けていました。当時を知る松本先輩や岸川先輩の体験談を聴かせていただける貴重な機会である、浦陵会の集まりは大切だと今年も感じました。

と、この報告を締め切り間際に書いていた最中に、まさかの訃報が届きました。10月のこの写真でもお元気なお姿を見せてくださっている、浦陵会の最年長の松本康裕先生が11月21日にご逝去されたということです。

岸川先輩には、11月1日に肺炎で入院されたという電話が少し前にあり、その後連絡がつかず心配で病院への確認を取ろうとされていた矢先の訃報でした。浦陵会の日いつものようにお元気に話しされ、お酒も楽しまれ、二次会にも参加して下さったのに、突然のことで

言葉を失います。スポーツ万能で、ジョークがお好きで、福岡で長葉同窓会があった際には真剣を携えてご登壇いただきました。毎年浦陵会に欠かさず来てくださっていた、いつもおしゃれな松本先生にお目にかかれなくなったことは本当に残念です。

会員一同より、謹んでご冥福をお祈りします。

#### 参加者

川上 茂(平7)	石黒 正恒(特)
有吉 敏彦(特)	松本 康裕(昭24)
岸川 良(昭25)	井口博太郎(昭38)
小寺 信(昭47)	倉田 啓二(昭50)
山本喜一郎(院昭55)	池田千加子(昭55)
田尻(原)眞由美(昭55)	時枝(平井)紀子(昭55)
中野(横山)美奈子(昭55)	杉山 翠(昭56)
植田 龍子(昭56)	池田 光政(昭57)
池田 直美(昭57)	首藤 英樹(昭58)
川原 賢二(昭59)	金子 富美(昭59)
中島 徳子(昭59)	中垣 春美(昭59)
藤澤 晶子(昭59)	上村 義子(昭59)
清澤 聡(昭60)	久松 貞義(昭60)
富永 伸明(昭60)	市村 清隆(昭60)
林 直樹(平12)	濱本 太二(平13)
池田久美子(平17)	野村紗希子(平30)



令和元年10月6日 於 西鉄グランドホテル

## ●● 大分支部 ●●

上田 由貴(平28)

平成31年1月26日(土)、アリストンホテル(大分市)にて、長葉同窓会大分支部総会及び新年会が開催されました。来賓として本部から岸川准教授(平10)をお招きしました。今年度の出席者は28名であり、大変賑やかな

会となりました。

総会は、陸丸幹事(院平15)の司会進行により進められました。

議事に入る前に恒例の写真撮影があったのですが、公共交通機関の遅延のため、大分支部で最年長の会員でいらっしゃる西川恭夫先生(昭26)が記念撮影に間に合わないハプニングがありました。依頼していたカメラマンさんにギリギリまで待って頂いたのですが、あいにく次のお仕事があるとのことで、西川先生不在のまま集

合写真の撮影となってしまいました。

その後は支部長挨拶があり、来賓の岸川准教授からご挨拶及び近況報告が行われました。総会ではまず、ご逝去された渡辺浩二先生（昭38）、高野順子先生（昭32）のご冥福を祈り黙祷を捧げました。その後、収支決算や会員の異動等の報告がありました。私は卒業後から毎年大分支部の同窓会に参加していますが、なかなか後輩卒業生に会えなくて寂しく思っています。来年こそはと期待を込めてまた参加しようと思います。

会員の皆様は、三列に長く並べられた宴会テーブルにそれぞれ分かれて座り、世代の垣根を越えて料理やお酒を楽しみながら学生時代や現在の仕事の話に花を咲かせていました。毎年恒例の近況報告では、卒業年度の若い順に全員がスピーチをします。今回一番印象に残ったのは、西川先生が、現在も週2回ほど調剤薬局で薬剤師として働かれているというお話を伺ったことです！西川先生は笑顔が豊やかで背筋もびんと伸びていらっしゃいます。私も生涯現役の薬剤師を目指して頑張りたいと思いました。

会の最後にはいつも巻頭言、校歌斉唱、万歳三唱と続きます。堤先生（昭62）の巻頭言はこれまでも2回拝聴していますが、今年も例年以上にすばらしく、堂々たる声に聞き惚れながら、全員で校歌を熱唱しました。そして最後に締め挨拶を急遽私が拝命いたしました。緊張しつつ、ときどきつまりながら、「最後に一本締めで会の締めとさせていただきます。よーっ、パン！」で挨拶を終わりとさせていただきます。会が終わったあと

に、先輩の一人から「さっきの締めの挨拶は一本締めではなくて、一丁締めが正解よ。」とこっそり教えて頂き、このとき初めて「一本締め」と「一丁締め」の違いを知りました。自分の未熟さを痛感しましたが、さりげなく私の間違いを指摘していただけたことが嬉しかったです。（これで今後は間違えずに済みます！）

この同窓会報への原稿を依頼された際、支部長より「好きなように若い人の特徴ある文章を」とのことだったので大分支部会員の一人の近況として報告させていただきます。現在私は大分市にある病院で薬剤師として勤務しています。当院には薬剤師が31名在籍しており、大分県の中では薬剤師の在籍人数が多く、いつもにぎやかな雰囲気職場です。同僚にも恵まれ毎日楽しく仕事に励んでいます。私の担当する業務の中に、ポリファーマシー対策チームでのカンファレンスがあります。医師と薬剤師が協働し、多剤服用患者さんの処方内容の妥当性を検討し、処方内容の適正化を図っています。カンファレンス前には薬のことを色々調べ、カンファレンス中は医師や先輩薬剤師から、病態や薬物治療に関する情報を得られるので大変勉強になります。今後は老年薬学会の認定を取得して、高齢者の薬物治療にもっと深く関わっていけるようになりたいと思っています。

最後になりますが、大分はとり天、別府冷麺、関あじや関サバなどの美味しいご飯や、別府、由布院などの温泉郷もあり旅行にピッタリの県です。ぜひ一度遊びに来てみてください。



平成31年1月26日 於 アリソンホテル大分

## ●● 熊本支部 ●●

松尾 富士男（昭59）

新年号の令和最初の熊本支部例会は、9月7日（土曜日）午後7時から、熊本市内の上通にある「熊本和数奇

司館」で開催いたしました。今年の参加者は12名でした。

支部長の山本喜一郎さん（院昭55）からの開会ご挨拶に続き、同窓会本部からは今年も諫早記念病院七種 均先生（昭56、長薬同窓会副会長）にご出席いただきました。2013年から連続でお越しいただいていますので、最早熊本支部のレギュラーといっても過言ではないかもしれません。今回は学部の最新の教育環境と同窓会活動に

関する包括的な話題でした。ありがとうございました。

今回もご出席の皆さんのほとんどが常連の方々でしたが、近況報告ではこの一年の様々な経験や環境変化を聞かせていただきました。一部ご紹介いたしますと、平野さん（昭52）は今年老齢年金をいただく年齢になりましたが、現役薬剤師を続けられ大変ありがたいとのことでした。古川さん（昭54）は職をリタイアされて3人のお孫さんの世話で楽しい毎日を送っておられるとのことでした。木山雄一さん（昭59）は、あのAppleのスティーブ・ジョブズと同じ臓器の病にかかり手術をして快気された話題でした。ついでに、私は、天草パールラインハーフマラソン初参加の経験談をご紹介しました。

また、今年もご欠席の皆さんからは、返信葉書で近況をご報告いただきありがとうございました。仕事や行事が重なって参加できなかった方々、体調不良が続いてなかなか参加できないと残念がっておられる方、出産・育児休暇を経てやっと職場復帰された方など、本当に様々な近況をご連絡いただき、ご出席の皆さんと情報を共有

させていただきました。

最後になりましたが、この原稿を書いている時に、過去の記録を見直したところ、熊本支部の幹事を拝命して丁度20年が経過していることに気づきました。1年に1回の会合ですが、年代に関係なく同窓の皆さんが集い、昔話や近況の話題に花を咲かせる楽しい会がずっと続くように、支部長の山本さんと二人三脚のできる限りお手伝いさせていただきたいと思っています。今後もよろしくお願い申し上げます。

以下に今年の出席者を列挙させていただきます。

来賓：七種 均先生（昭56）

平野 玲子（昭52）	岩下 淑子（昭52）
古川 真一（昭54）	山本喜一郎（院55）
田中 久子（昭56）	木山 容子（昭57）
木山 雄一（昭59）	松尾富士男（昭59）
矢田 道代（昭60）	山内 秀樹（平2）
雑賀みどり（院平13）	（以上12名、敬称略）



令和元年9月7日 於 熊本和数寄司館

## ●● 佐賀支部若楠会 ●●

三宅 秀明（平17）

令和元年度の佐賀支部若楠会総会及び懇親会は11月17日に佐賀市内にあるニューオータニ佐賀において開催されました。今年の参加人数は13名でした。

総会では、長崎大学薬学部校歌斉唱に続き、藤戸 博支部長（院昭52）から今年の佐賀豪雨や台風等の被害に触れた挨拶があり、また、来賓の佐々木 均先生（昭53）から長崎大学薬学部同窓会や長崎大学薬学部の近況のお話を交えて開会の挨拶をいただきました。

その後、議長に木寺健司先生（平15）を選出、議事を終え、参加者の写真撮影を行い、懇親会へと移りました。

懇親会では、乾杯の音頭を檜崎妙子先生（昭36）にとつていただきました。

私たちのテーブルでは、例年の山合宿（湯布院で開



催?)がいつまであったか?が話題になり、どうやら三宅の代からないことが分かりました。また、公立・公的医療機関等の再編・統合の話、オンライン服薬指導はどうなるかといった話、佐賀豪雨の浸水被害等の真面目な話をしつつ、ふと、出身研究室を聞くと、末安正典先生(昭52)、志岐寿子先生(平4)、小野文子先生(平6)、三宅とみな薬剤学研究室出身でして、中村先生(長崎大学名誉教授)、西田先生との思い出話に花が咲きました。

個人的な話で恐縮ですが、佐々木先生には、学部4年から修士2年までセミナーや臨床実習で大変お世話になりましたので、改めてお礼を伝えるとともに、いろいろなお話をさせていただき、同期の黒崎助教や里助教の活躍ぶりなども伺うことができ、励みになりました。

最後に、今年は参加者が少なかったのですが、来年はもっと参加者が集まるように期待も込めて、大間賢一先生(昭47)の万歳で散会となりました。

新卒者の方は、懇親会費が無料です。同窓会は参加してみると、意外な発見がありますし、様々な職場にいる方々とお話できるいい機会です。今年は都合が付かず参加できなかった方も来年は是非同窓会に参加して、旧交を温める有意義な時間を過ごしませんか。来年もよろ

しくお願いいたします。

#### 出席者

佐々木 均(昭53)	橋崎 妙子(昭36)
大坪 美穂(昭47)	大間 賢一(昭47)
池田 知子(昭49)	八谷 緑(昭50)
藤戸 博(院昭52)	末安 正典(昭52)
志岐 寿子(平4)	中山 智美(平4)
小野 文子(平6)	木寺 健司(平15)
三宅 秀明(平17)	



令和元年11月17日 於 ホテルニューオータニ佐賀

## ●● 長崎県央支部 ●●

支部長 西村 昇(昭50)

令和元年 即位礼正殿の儀(祝日)の祝賀ムードが冷めやらぬ10月27日正午、21名の同窓生に出席を頂き、諫早駅前通りにあるイタリアンレストラン「スプーンフルカフェ(Spoonful Cafe)」において、同窓会本部から山口副会長(昭56)を迎え令和最初の県央支部総会及び

懇親会を開催しました。

毎年出席メンバーが固定化の傾向にあり、出席者の高齢化がみられ昭和卒がほとんどだった支部総会も、今年は平成卒の新たな出席者が増えたことをまずは喜びたいと思います。これがさらに令和卒業生の出席へとつながり、昭和・平成・令和の三世代が集う会になればと思います。

総会では、まず副会長にご挨拶とともに大学や同窓会の近況や活動についてお話をいただきました。最近の薬学部の状況、国家試験、卒業生の進路、同窓会の活動状



況等について説明を頂き、久しぶりに出席者も往時と重ね合わせ、なつかしく拝聴しました。このあと県央支部の会務報告に続いて懇親会へと移りました。

乾杯の発声は恒例により最年長者にお願いしましたが、ご挨拶のなかに今度米寿を迎えるとの話があり、今なお矍鑠たる御姿に驚きながら、総会の盛会とともに今後のご健康を折り杯をあげました。

途中で出席者お一人おひとりの近況報告等を聞いているうちに瞬く間に時がすぎ、閉会の時間となりました。最後は最年少者の挨拶で締めさせていただくのですが、今回は最年長者と64年差で今年平成最後の卒業生のたのもしい一言で会を閉じました。

県央支部同窓生の皆さん、同窓会は、家族的で大変和やかな雰囲気です。狭い地域ですのでいろいろな繋がりも感じられます。年に1度の会合ですが長薬同窓生として年代

を超えての話がはずみず。ぜひ一度ご参加ください。

次回はより多くの方々の参加をお待ちしております。

(出席者) 敬称略

来賓、同窓会副会長	山口 正広 (昭56)
山本 勲 (昭30)	熊本 公子 (昭33)
坂本 滋子 (昭34)	松村 祐子 (昭40)
小松 芳文 (昭41)	早崎 義信 (昭41)
平山 文俊 (昭41)	内田 民子 (昭44)
中村 和子 (昭44)	香月幸一郎 (昭46)
田中 秀二 (昭46)	宮崎 信子 (昭46)
西村 昇 (昭50)	藤原 正晴 (昭51)
佐藤 恵子 (昭52)	石居 敏文 (昭56)
高良 真也 (昭57)	藤原 晶子 (平2)
池田 理恵 (平13)	狩峯 寧 (平31)



令和元年10月27日 於 スプーンフルカフェ

## ●● 長崎支部ぐびろ会 ●●

会長 澤勢 瑞城 (平15)

昨年の総会においてぐびろ会会長に就任して以来初となる今回の総会において、準備の段階からあれこれと大変手配にバタついてしまいました。

まずは役員会で日程、内容等を決定し、それから大山要先生 (平12) の旗振りの下に皆で集まって案内状の封入作業を行いました。これまでただ受け身であった立場から見て、先輩たちのご苦勞が思い諮られました。大山先生いつもありがとうございます。

今年度のぐびろ会総会は、6月29日 (土) 16時より、

ホテルニュー長崎3階の真鶴の間にて行われました。総会では、はじめに前会長の中嶋誠一先生 (昭49) にご挨拶頂き、秋吉隆治先生 (平3) を議長にお迎えし6つの議案について審議しました。全ての議案が無事承認されました。皆様に改めて感謝申し上げます。

総会に続いて、長崎大学生命医科学域 (薬学系) 岸川直哉 准教授 (平10) による特別講演「薬学部の近況と薬品分析化学研究室の研究紹介」が行われました。現在の変わっていく薬学教育の状況や、現在の薬品分析化学研究室の取り組みについて大変興味深いお話しをして頂きました。

さて来年は長薬同窓会の定期総会がここ長崎にて行われます。皆様ぜひお誘い合わせの上ご参加頂きますようお願い申し上げます。

# クラス会および近況だより

## 令和元年度参楽会報告

村木 フクエ（昭33）

毎年6月には長楽同窓会定期総会に出席して、友達に会うのを楽しみにしています。今年も吹田の千里迄出かけましたが、参楽会の出席は小島さん（東京）、佐々木さん（下関）、千原さん（門司）、村木（長崎）の4人で「ほかの人もっと来ているよね」という期待は外れてしまいました。そのうえ、先輩の出席者も少なくなり、寂しい思いをしました。

折角大阪まで来たのだからと、四国のほうへ足を延ばす事にしました。まず、大阪から高速バスで鳴門へ。大塚製薬が設立したという大塚国際美術館へ行き、素晴らしい陶板名画を鑑賞。バスで徳島へ移動し宿泊。

翌日「徳島というとかずら橋よね」と駅前からタク

シーで、運転手にいろいろ説明を受けながら走る。右手に祖谷の深い溪谷を見下ろしながら進み、かずら橋へ。帰りは国道へ出て大歩危、小歩危を過ぎ、琴平神社の入り口でタクシーを下車。さすがに琴平さんの上まで登るといわけにいかず、上まで行ったのは元気な千原さんだけ。その夜は観音寺温泉に浸り、最後の疲れをいやした。結局、自分の足で歩いたのは美術館の中の2～3時間と琴平さんの階段だけでした。

最終日は家に帰るだけ、岡山でまた来年遭うのを約束して東西に。来年は地元の長崎なので西脇さんが計画を立ててくださるそうで楽しみにしています。



(写真左から佐々木さん、千原さん、小島さん、村木)

## 三葉会（昭和34年卒）の60回目の開催と山下和昭君追悼

富安 一夫（昭34）

今年2019年は長崎大学薬学部を卒業してから60年目に当たります。卒業年に因んで命名した今年の三葉会<sup>さんようかい</sup>は幹事の松尾幸子さんのお世話で10月19日に長崎市常磐町の「ホテルニュータンダ」で行われました。昭和30年当初の入学者は男女それぞれ20名の計40名でしたが、そのうち

今回参加できたのは男子6名、女子9名の計15名でした。近年としては多数でした。

卒業後間もなく同級の山下和昭君からの提案でクラス会が始まり、第1回は彼の出身地である茂木で開催され魚料理を堪能した記憶があります。山下君は茂木に住み

ながら長崎東高校に通学し、徒歩通学しながら大学をめざしたと言っていました。その後社会人となった我々の生活は大きく変化しましたが毎年開催されるこの集まりでの自由な意見交換が大きな助けになり貴重な情報を得る場となりました。途中では参加者が減少し、幹事の引き受け手がないなど会の運営が困難な時期もありましたが、山下君は一貫して開催を主張し継続されました。

この三葉会を盛り上げて支えてくれた山下和昭君が本年6月17日に逝去しました。励まし続けて60年の歴史を刻んでくれた山下君に一同心からの感謝の気持ちを捧げ、懇親会の開始にあたり黙とうをささげました。今回は互いに彼の思い出を語り合う偲ぶ会となりました。

山下君は晩年、鳥栖市に在住していましたが、8月15日御遺族の手作りの精霊船がふるさとの茂木港から送り出されました。当日は長崎に台風がきて心配されたそうですが、幸い船出の時刻には雨もやみ無事に故郷の海に旅立ったそうです。ご冥福を心からお祈りします。



黙とう後、いつもの懇親会が始まりましたが、参加できなかった仲間たちの分も含めて健康に関する話題が多く、各人それぞれに健康問題を自分のこれまでの人生に重ねて話し合う場面が多かったと思います。

懇親会後はいつものように一室に集まり自由懇談となりました。参加者のなかには足、腰が不自由となり、娘

さんの介助で出席した方もおられました。ここでも本人だけでなく配偶者や家族を含めて、深刻な現状が報告され老後の在り方に関心が集まりました。また、関連して断捨離といいますか身の回りの整理も話題になりました。自分では価値があると思っていたものが今は社会に受け入れられない時代になったと嘆く人もいました。もちろんまだまだ元気で趣味や運動に励む方もいますが、全体的に威勢いい話題は減ってしまいました。高齢者の運転免許証の返納も話題になりました。すでに返納した人が多かった半面、家庭の事情から手放しにくい人もいました。学生時代のことも話題になりました。今だから話ができるとの雰囲気です。初めて聞く話題が飛び出し面白かったです。特に各先生とのやり取りは興味があり面影が浮かびました。各人それぞれの思い出があるのですが、物故者や欠席者がその場にいればもっと話が聞けたのにと残念に感じました。

翌日はホテル前にある「水辺の森公園」を散策し、「出島」に入りました。立派になった出島では資料館、植物園を見学し「内外倶楽部レストラン」で昼食をとりました。この時から坂本さんが合流されました。これまで三葉会もそろそろ最終回かと意見も交わされていましたが、昼食会で井上、安永さんが幹事を名乗り出てくれて来年は大宰府で行うとの案が実行されそうで安心しました。楽しみですがこちらもそれまで元気でいたいものです。

(今回の参加者 男子：浦山、片岡、北島、田崎、富安、松林 女子：荒川、井上、上野、小川、坂本、田中、松尾幸、松尾昌、安永 の計15名です。集合写真はいつものように田崎三郎君が用意してくれました。)



令和元年10月19日 於 ホテルニュータンダ

## 80歳になったの毎日

浅井 武 (昭36)

63歳で会社（武田薬品）を辞めて、既に17年以上が過ぎました。昨年1月から3月は間質性肺炎で入院するなど、昨年から体調不良が多くなりました。現在は、63歳半ばから始めた水泳も、最近はすぐ疲れるので、マスターズ大会に出場できるような練習が出来なくなっています。マスターズ大会に出場したのは、69歳から76歳までの7年間で、金銀銅あわせて12個のメダルをもらいました。しかし、スポーツジム（プール）が歩いて4～5分の所にあるので、現在でも週5～6回はプールに通っています。プールでは、自分より25歳前後若い女性と親しくなり、たまには泳ぎ方についてアドバイスしながら2人で楽しく泳いでいます。泳ぐスピードは私のほうが速いので、50m泳いでは、少し休みます。一緒に泳いでいる女性は何往復も連続で泳いでいます。やはり若さには勝てません。

80歳過ぎてバタフライなど4泳法をこなしている人はいないので、私が最高齢のスイマーです。しかし、バタフライを泳ぐと、すぐ脹脛がつるので、最近、バタフライはあまり泳げなくなりました。殆どはクロールで泳ぎ、時々背泳ぎと平泳ぎをしています。連続で200m以上泳ぐと筋肉（上腕）が痛くなるので、50m泳いだ後しばらく休んでから、次の50mを泳ぐことを繰り返しています。水泳の後は、女性とジャグジーでしばらくお話をしてから帰ります。昨年、間質性肺炎での入院以来体力が落ちて、脚（大腿）もすぐ疲れるので、遠く（2km以上）まで歩くのは難しくなっています。

その他には、4年ほど前からコーラスを始めました。会社に入社した初めの数年間、会社の混声合唱団に入り唄っていましたが、転勤したことなどで50年近く合唱か

ら離れていました。63歳半ばからパートタイマーとして週2～3回勤務していた小さい会社を76歳半ばで辞めましたが、その時から近所の混声合唱団に入会しました。パートはテナーで、若い時のように、高い声を出すのはやや苦しくなっていますが、月1回の練習を楽しんでいます。高齢者が多い30人ほどの合唱団で、もうすぐ81歳になる私が男性では最高齢です。年に1～2回は発表会があり、ステージで唄います。

先週土曜日は、公民館での文化祭に出場して、4曲唄いました。

指導者は70歳の女性で、女性には厳しく男性には優しく指導して頂くので、私は楽しく練習しています。

私は、細身で貫禄がなく、いつも7～8歳若く見られます。70歳の人からは同じくらいの年齢と思われることが多く、80歳であることが分かると驚かれます。

しかし、体力は徐々に落ちており、遠くまで歩くのが困難になっています。そして、耳も聞こえにくくなってきて、泳ぎ終わってジャグジーに入っているときの会話では、時々聞きなおすことが増えてきました。

一方身体の方では、10数年前から前立腺痛をかかえており、今まで何回も薬を変えてきましたが、最近、効く薬が少なくなっており、現在の薬（注射）が最後の薬だそうです。ですから今の薬がいつまでも効いてくれることを、祈っています。

このように、徐々に弱ってきているので、残り何年水泳やコーラスを続けられるだろうか？と考えてしまっていますが、身体が動ける間は水泳やコーラスを楽しみながら過ごしたいと思っています！

## カンザス 便り

本田 功 (昭37)

この度、青木さんから突然、母校の同窓会誌に投稿する機会を頂きました。

同窓会誌に書く程の内容が分かりませんが、米国在住に至るまでの経緯ならばと思ひ出すままに書いてみました。以下ご覧下さい。

長崎大学薬学部長兼、生薬学の高取治輔教授の教室に私1人が在籍し、何とか無事に卒業出来ましたことを、高取先生に感謝します。

振り返れば当時は就職難時代でした。武田、三共、第一、中外等は高い人気がありました。私は塩野義製薬

を受験しました。入社試験の折、面接官の「どうして我が社を選ばれましたか？」との質問に、諫早市の片田舎で実家が雑貨店を営んでおり「サンスター菌磨き」（メーカーが塩野義製薬の製品）も扱っております事が御社選定理由ですと述べました。長崎大学薬学部から、確か6名が受験したと思われます。果たして誰が受かるか？と心配して結果を待ちました。全員別室に呼び出されて人事部長の採用結果発表です。長崎大学薬学部出身者は“全員合格”——採用決定。皆が喜ぶ一方で九州の某大学出身者が全員不採用になっていた事が判りました。さて

入社後、私は人事部から大阪本社勤務でなく、関東地区病院担当部門勤務を命じられました。東京支店（当時、日本橋本町3丁目）から慶応大学附属病院担当チームに加えられました。通称プロパーと呼ばれ慶応班、東大班などと称していました。慶應病院担当期間が数年経過して、販売業績が全国1位に向上していた頃、塩野義製薬が米国Elly Lilly社内のカプセル部門を買収しShionogi USA社事務所をIndiana州に立ち上げました。その時期に、私もUSAチームに加入した次第です。当時の塩野義は抗生剤の“セファロスポリン”発売時であり塩野芳彦社長の時代でした。



（塩野芳彦社長—右隣、とホワイトハウス前にて）

Elly Lilly社内、Shionogi Qualicaps社（カプセル）工場に数年間米国勤務をした後、私は定年を迎えました。

それ以後、私は日本に帰国せず、アメリカの永住権を得ていましたので、“米国中西部の、ミズーリ州カンザスシティー”に居を構えました。カンザスと言えば有名な物語「オズの魔法使い」が有ります。可愛い女の子ドロシーと犬のトトが大きな竜巻“トルネード”で天空の世界を駆け巡る物語です。物語の通り私の住むカンザス地方では度々、“トルネード”が発生します。その為、各家庭には必ず地下室に窓の無い部屋“シェルター”が有ります。

晴天から急に異様な空模様となり、野鳥の大群が大騒ぎだし、雨風がどんどん強くなり木が吹き飛ばされそうになります。「今、どこの地域（通り）に何時何分頃に、竜巻が発生する可能性が非常に高いので、地下のシェルターに隠れてください。」とTVにてレーダーを見ながら嵐の進行方向を町単位、分単位で逐一解説するプロフェッショナルなお天気キャスターが言うと同時に町の防災サイレンも鳴り響き、自宅にいる人や犬や猫もシェルターに隠れ30分から1時間くらい嵐の通過を待ちます。通過後は、ご想像の通りで樹木はなぎ倒されて禍根を残しますが、その後は一転して“カラカラ天気”になるものです。そのような環境にも慣れてしまいました。



“米国独立記念日にバルーンの飾りとカンザスの自宅玄関前にて”

最後に、私が過ごした会社員時代はインターネットがあったわけでもなく国際電話、FAXや手紙での通信のため時間もお金もかかりました。当時は、紅白歌合戦や日本のドラマのビデオを録画して親戚に送ってもらい観ていたものです。今、私がここ米国で老後も楽しく過ごせるのは安い衣食住を含めインターネットで日本の情報やテレビを容易に見聞き出来る時代になったからです。来年度の東京オリンピック放送はカット無しで見たいですね。東京の会場で直接、観戦出来れば最高でしょう！

（2019年10月現在、米国カンザスシティー在住中）

## 昭和38年卒同期会開催報告

幹事一同（昭38）

令和元年10月18日（金）12時30分より福岡市博多区で開催しました。平成29年開催時に次回は博多または長崎が候補に挙がっていましたが、参加しやすいとの理由により福岡で開催することになりました。同期は40名卒業し50数年経過の間に8名の方が亡くなられています（合掌）。今回は11名が参集いたしました。

入学時の奇跡的な出会いと薬学を学ぶ気持ちや楽しかった日々が懐かしく蘇ります。今までは宿泊しながら観光との組み合わせで企画していましたが、今回は初めて昼間の開催を試みました。参加者には意外と好評で、中には毎年開催希望の声も出ていました。

博多での開催は前回と同じで引き続きとなりました

が、食事中心の会としても同様でした。年齢的にたくさん食べることはできないとの心配も、今回は焼き肉が加わりステーキを初めて堪能できたとの声もあり良かったと思います。開催場所の博多石焼「大阪屋」の心遣いもあり、昼間で3時間余りの大宴会となり大いに満喫出来ました。

次回2年後の開催予定地は、長崎・福岡が候補に挙がっていますが地理的に博多を望む人が多くありました。

今回の出席者順不同

女性：小隈・梶村（伊藤）・久保（今井）・城（平方）

男性：青木・井口・大坪・左利・高橋・土田・渡部



## 下村 脩先生の切手が欲しい

谷 覺（昭42）

趣味は？と聞かれ答える時、何となく一呼吸する。美術館巡りですとか、ピアノを少しとか、陶芸で茶道具を作っています。などと言えれば尊敬されるかもしれないが、切手を集めていますという、聞いた方も一呼吸する。

小学生の頃、切手収集ブームがあり、隣に座っていた女子が外国の切手を持って羨ましく思っていた。高校の時、「郵便友の会」という全国組織のクラブに入り、専ら外国のペンフレンドと文通をしていた。英語はからきしダメで、長い時間をかけて手紙を書いていた。インドのペンフレンドには、タゴールに触発され韻を踏んだ「詩」を送った覚えがある。それから随分間があり、大学に勤めてから、何となく収集を再開した。しかし、持っただけでも使い道が無く、それではと薬用植物切手に切り替えた。切手を集めていくと、これは何に効くのか等と興味が湧き、つい医療関係にまで広げることになってしまった。現在はそれらを使って話を作っていく「テーマチック」と呼ばれる分野で楽しんでいる。

今まで作った作品には感染症関係のテーマがいくつか

ある。例えばペストの場合は、ヨーロッパに広がった原因やそれに伴って起こった魔女狩りなどのエピソード、終焉に対する喜び、菌の発見、治療法等、関係する切手、はがきなどの郵便物でストーリーを展開していく訳である。しかし、ストーリーにピッタリの切手が必ずしもある訳でもなく、苦しい展開になることが多い。ヨーロッパには様々な病気に関する遺跡が残っていて、それらを巡る旅も興味深い。ウィーンを中心にはペストの塔があり、上にはキリストの三位一体像、周りにエピソードが彫ってある。同種の三位一体柱は各地にあり、チェコのオロモウツには一度見に行きたい。水没の危機に瀕しているベニスにはペスト終焉に感謝していくつかの教会が建てられた。ベルギーのイーペルでは3年に一度猫祭りがあるが、クロネコはペストをバラまいた魔女の手下とされ、塔の上から投げ落とされた。この行事が今に伝えられて、観光客を集めているのは皮肉なことだ。イーペルは第一次世界大戦で毒ガスが使われた場所でもあり、マスタードガスが場所の名前をとりイペリットと呼ばれ

るに至った。ヨーロッパの火祭りには魔女を焼き殺す理不尽な伝統が根底にある場合があり、見直しが行われているらしい。1年で都市人口の約半数近くが死んだとされるペストが如何にインパクトのある病気だったのか窺い知ることが出来る。ハンセン病に関しては日本でも隔離病棟が残っているが、ハンセンが所長を務めた隔離病棟がフィヨルド観光の起点であるベルゲンに残っている。イタリア・アッシジには中世時代にハンセン病患者の救済に尽力した聖フランチェスコの教会がある。聖キアラ（クララ）や聖エリザベートも救済に加わった。

今後テーマに選びたいものが幾つかある。コルベ神父もその一つである。ポーランドに行った時、アウシュヴィッツを見学した。アウシュヴィッツで帰天したコルベ神父は一人の脱走者の連帯責任で10名の飢餓刑に選ば

れた人の身代わりになり殺された。その場所には花が手向けであり、涙を誘う。コルベ神父は長崎で布教をしていたがニエボカラノフ修道院に戻り院長となった。彼の正義感溢れる行いがナチスに睨まれ、アウシュヴィッツに入れられたらしい。近年列聖された。ワルシャワから少し電車に乗った所に立派なその修道院があり、ちょうど結婚式が行われていた。長崎に帰省した際コルベ神父の足跡をたどってみたいと思っている。下村 脩先生（昭26）もいつか取り上げたい1人であるが、切手を探してみたが、見当たらなかった。下村先生の肖像の背景にオワンクラゲを蛍光色素で描き、紫外線を当てるとノードマウスが光って現れる切手などは面白いのではないだろうか。

## S44卒クラス会

広本 淳子（昭44）

長葉近畿支部同窓会の一幹事として、長葉近畿支部同窓会総会100周年を盛り上げるべく、S44年卒（計画途中で気が付いたのですが、ちょうど卒後50年に当たります）のクラス会を計画しました。当初の総会参加者目標150名の1割を目指して15名の出席を願いつつ…。同窓会本部に宛名シールをお願いして、全員に案内を送りました。この形のクラス会は何となく最後かな？なんて考えていました。学年幹事の桑原（旧姓）和子さんの協力もあり、2名以外の方の返信を頂きました。私にとって、

これは感激でした。大田不二夫さんと大和 喬さんの奥様から既に故人となっておられるとお返事を頂きました。欠席に〇があるだけでコメントなしも多かったのですが、体調不良の方、配偶者の看病で欠席の方、働いていて休めない欠席の方（私も含めてですが、意外と働いているんだ！と気を良くしました）この歳になるといろいろある！と。同窓会総会は西村正邦さん（茅ヶ崎市）、藤田立明さん（南島原市）、赤堀（旧姓）好子さん（岡山市）、荒木（旧姓）律子さん（川西市）、内田民子さ



令和元年6月15日 於 定期総会（ホテル阪急エキスポパーク）

ん（大村市）、小坂妙子さん（宮崎市）、田元（旧姓）順子さん（佐世保市）、山口（旧姓）裕子さん（東京都目黒区）と私の9名の参加でした。

翌日は今までに倣って近くに一泊小旅行を計画、7名の参加になりましたが、高野山に行きました。奈良や京都はアジアからの観光客が多くて、敬遠！高野山では何となくお酒は飲めないと途中の紀見峠駅近くの山荘に宿を決め、荷物を置いて高野山へ、少し、ヒンヤリして、気持ちのよい散策になりました。いろいろな宗教のお墓があって、面白い！と…。翌日なんばに戻って帰る時間に合わせて散会。まだまだ別れがたく残った5人で海遊館に。ここも観光客が一杯でした。オワンクラゲに気が

付いた人、気が付かなかった人いろいろですが、オワンクラゲの表示板にノーベル化学賞の下村先生のお名前を是非、載せるべきだと！

その後、なんばに戻ってお好み焼きを食べたいという藤田さんに合わせてお好み焼きを頂いて散会しました。藤田さん！ご馳走様でした。今回は9名の参加でやはり、最後かな？と思ったりしました。長崎から始まったのだから長崎で終わろう！と来年の再会を約束して解散しました。大阪に住んで40年になるのに大阪を知らない！と改めて反省しました。行き当たりばったりの小旅行になってしまいました。

遠くから出席頂いた友人達に改めて感謝です。

## 長薬49年卒及び45年入学同窓会

原田 克己（昭50）

史上最大級の台風19号が直撃の関東地区で、長薬49年卒・45年入学同窓会を翌日の10月13日に無謀にも東京で開催しました。幹事の責任上、テレビとネットニュースを台風当日の12日夜10時まで入念にチェックしていました。台風が目に入ったようで15分近く雨風はピタリと止みました。スーパー堤防東方の自宅12階の眼下「多摩川が氾濫」とフリップが出て映像が写し出されていましたが、間違いで支流の小川（二子玉川と野毛）2か所（世田谷区内）の映像でした。また対岸の川崎市中原区（武蔵小杉）でも同様に氾濫していました。

本流多摩川の水流が強く水位が高いので支流の水が入れなくて逆流する有名なバックウォーター現象で小川が

溢れかえっていました。翌朝6時にカーテンを開けて多摩川を見下ろすと川の水位はかなり下がり昼頃には河川敷も姿を表すほど水位激減して、晴天の秋晴れでした。幸いにもわが大田区では氾濫もなく、行政のインフラ整備の差とハザードマップが顕著に出た結果となりました。JR東日本が山手線のみ運転中だったので、通常運転中の東急から山手線に乗り換え会場に到着すると既に4名がチェックイン済でした。

午前中の九州方面からの空の便欠航、午後便満席、東北新幹線の運休と交通機関の乱れで急遽キャンセルも続出しましたが、在京の子女のところにとりま事前宿泊していた方や、山口、大阪から新幹線に変更し出席されたかたを



2019年10月13日 於 ホテルメルパルク東京



含め10名と開催以来、最少人数でした。在京組を含め3階宴会場に全員集合後、大盛況の2階結婚式場のフォトスタジオで笑顔の記念撮影、宴会前に今回はお亡くなりになられた3名（亀山清廣、木村真知子、馬場美弥子）のご冥福をお祈りして黙祷を捧げた後、乾杯で開始。いつもよりお互いの距離が近く初参加者も含め家族や近況

の詳細個人情報の交換が出来楽しい懇親会となりました。キャンセルを余儀なくされた皆様には、幹事より深くお詫び申し上げます。次回開催は京都の小林節子さんをお願いしゴルフ2組も予定されますので腕前はさておき、道具を磨いておいてご参加ください。2年後の再会を楽しみにしています。

## 台風直撃も、卒後40年に35名が集う

七條 利幸（昭54）

台風17号が九州北部を直撃する真っ只中の令和元年9月22日、ホテルJALシティ長崎において卒後40年を迎える同窓会を開催しました。

当日は、悪天候によりJRや飛行機等の運休が相次ぎ、開催自体が危ぶまれましたが、そんな中を35名の学友が集まってくれました。これは、過去6回の同窓会で最高の参加者数となりました。

会に先立ち、会報などで訃報が確認された柴田（井口）さん・甲斐さん・田島君の3名と菊谷先生（昭15・生物化学：来賓として生前2回ご臨席）の遺影を前に全員で黙祷を捧げました。以後は平田君の進行により、濱崎君の開会挨拶の後、今回を含め7回全ての同窓会に参加の肥田木君と私に“会金賞”が、6回参加の糸永・太田（河底）・玉利・馬場（山内）の4氏に“会銀賞”が贈られました。

しばしの歓談後は『ビンゴゲーム』で楽しみ、近況報告へと移りました。時間の都合で全員の報告は叶わなかったものの、今回初参加の唐津（伊藤）さん・永岡君・真田（松尾）さんに始まり、司会者から指名を受けた人

達がそれぞれの現況を熱く語ってくれました。

近況報告では、還暦を過ぎてもまだまだ現役で活躍している人もあれば、私のように仕事から解放され余生を楽しむ人もちらほらいるなど和やかなムードの中、あっという間に予定時間となり、つくば市から参加の永岡君の一本締めでお開きとなりました。多くはそのままの勢いで2次会、3次会へと流れていきましたが、中には気持ちだけは学生のままに5次会までの強者もいたとか…。

ちなみに今年は、＜改元＞と＜消費税の増税＞が実施された年ですが、昭和から平成へと新たな幕が開け、初めて消費税が導入された30年前に開催した第1回同窓会と時代背景がダブリ、記憶に残る同窓会となりました。

最後に、超最悪な天候の影響で、当初出席予定だった山本（井上）・瀧野・古川の3氏が残念ながら欠席となりましたが、一方で、無理を押してまで遠くは関東・関西方面や四国・九州各地からはるばる長崎まで駆け付けてくれたみんな、本当にありがとう。また、幹事の下永吉（宿輪）・角野・濱崎・濱田・平田・馬場（山内）の各氏



令和元年9月22日 於 ホテルJALシティ長崎

には、諸準備に加え、参加者への長崎銘菓「福〇屋のカステラ」の手配や写真の発送など本当にご苦労様でした。

出席者（以下、敬称略）

唐津（伊藤） なほ	糸永 恵美子
内原 和代	大野 修一郎
太田（河底） 佳子	中村（窪田） 尚子
木本（後藤） 房子	工藤（三宮） 佳子
七條 利幸	下永吉（宿輪） 孝子
田村（竹丸） 多津子	飛永 たまみ
上門（永野） 弘子	島本（宮本） 裕美

江田 昌平	角野 仁美
武石（熊谷） 治子	丸野（俵原） 瑞枝
玉利 一也	池田（徳永） 陽子
永岡 淳作	濱崎 和久
濱田 哲也	原村（馬場） 直子
肥田木 省三	平田 敏男
中村（平野） すみ子	田中（前田） 眞由美
真田（松尾） 清子	森山 耕
馬場（山内） 優子	後藤（山本） 君代
松永（吉岡） 祐子	吉田 正則
野原（若松） 由美	

（ ）は、旧姓

## “田島泰司”君を偲ぶ

七條 利幸（昭54）

『田島泰司』って誰？君が逝ってもう7年余りも経つから無理もないよね。だけど同窓会のご厚意で、昭和50年代『長葉の名物男』として名を馳せた君を偲ぶ機会をいただいたので、多感な青春時代を共に過ごした学友の一人として貴男を少し紹介させて下さい。



君の奇想天外な発想や破天荒な言動に、笑うと細い目がさらに細くなる愛嬌たっぷりの笑顔。君の写真を見て「ああ～この男かあ!!」と思い出してくれる人は多いはず。人の笑いを誘い、驚かせては目立ちたがり屋を自負する君、やがて薬学部先輩・後輩・事務の人達や先生方はもとより、他学部の学生にまでその名前は広く知れ渡っていましたからね。

加えてお騒がせキャラ全開で、一緒にいるととぼっちを受け取ることも多々あって、君は別名「嵐を呼ぶ男」とか、これが重なると「ダブル厄男（マン）」とも呼ばれていましたよね。

一方、君の奇才が発揮された場面では、再試の覚悟を要する河原先生（物理化学）の試験での“粘度”の問題で、美術部だった君はパチンコ玉と釘の関係を例に図解付きで解答。当然「不可」で再試を確信していた大方の予想に反し、結果は見事な「優」という事がありました。

私事では、僕の結婚披露宴での友人代表として挨拶してくれた君のスピーチが超絶で、仲人の故江川先輩（昭22）が君の事を「天賦の才がある。」と絶賛。

なにせこの御仁、滅多に人を褒めない方だったので、いかに君の才が突出しているかを物語っていたのですが、圧巻はやはり哀愁漂う十八番の「指笛」が、会場での君の存在感をMAXに押し上げた事でした。

君が一目置かれた所以は他にもあります。それは、教養課程での受講科目に哲学関連の講座を、しかも複数履修する同級生は皆無なのに、その受講した講座全ての成績が「優」だったことです。ニーチェやショーペンハウエル等の思想観について哲人よろしく熱弁を揮う君に、「哲学ってそんなに面白い？」って僕は一度尋ねたことがあったけど、その時返ってきた君の答えは40年以上経った今も忘れることはありません。

君が哲学に夢中になるきっかけ。それは、君が幼少時に罹った重い喘息が原因で、夜中に激しく襲う発作を度々体験したからだったよね。だから、常に「死」を身近に意識し、故に「生きるって？」を小さい頃から真剣に考えざるをえなかったと言っていたけど、哲学関連分野で秀逸と評された君の才能、それはまさに必死の“下学上達”から育まれたものだったんですね。

卒業後も長く続いた君からの年賀状は、平成22年に届いた近況報告を最後に音信が途絶え、その後、年賀状という時計の針は止まったまま動いてはくれません。

自分に正直で、本当に少年のように純粋な心を持った君と出会えたことへの感謝。最後は、四国松山出身だった君の学生時代の出席番号が28番だったことに掛けて、こう呼ばせてもらってお別れするね。

“ありがとう 坊っちゃん哲人28号”

合掌

## 今年3月無事に長崎県庁を定年退職しました

山口 正広 (昭56)

私たちの学年の同窓会は、卒業20周年記念同窓会から5年ごとに開催することにしていて、次回は卒業40周年記念同窓会を令和3年に開催する予定で、今年度はクラス会も開催していないことから、今回は近況報告などについて書いてみたいと思います。

私は、今年(平成31年)3月、無事に長崎県庁を定年退職しました。36年間の県庁生活を振り返ると、一般的な薬剤師の方々ではなかなか経験しないことを仕事として経験することができたと思います。山あり谷ありでしたが、結果的にはいろいろな体験ができ、充実した36年間だったと思っています。

いくつか記憶に残る仕事を紹介すると、まず思い浮かぶのが、平成3年6月3日に発生した雲仙岳大火砕流です。その当時は、県立島原温泉病院の薬局に勤務しており、午後4時頃に大火砕流が発生、熱傷を負った患者さんが私たちの病院に多数運ばれ、職員が一丸となって対応したのですが、院内は戦場のような状況だったことを記憶しています。次に思い浮かぶのが、平成9年の薬務行政室時代に1年間麻薬取締員に就いたことであり、福岡の九州管区警察学校だったと思いますが、拳銃を持参しそこで拳銃訓練を受けたり、九州地区麻薬取締官事務所(現在の九州厚生局麻薬取締部)との協力捜査で薬物事犯の家宅捜査(ガサ入れ)に同行し、逮捕・検挙の現場に立ち会ったことです。

また、県庁生活の後半に従事した環境行政においては、平成14年から7年間所属していた廃棄物対策課時代には、産業廃棄物の不適正事案について、法律に基づく措置命令や行政代執行を行ったり、刑事訴訟法に基づき刑事告発を行い事件化したことが強く記憶に残っています。退職前の2年間所属していた環境政策課時代には、現在世界の喫緊の課題となっている地球温暖化対策や気候変動適応(※温室効果ガスの排出抑制対策等を講じても回避できない影響を予防・軽減するための対策)に関する取組や計画づくりのほか、中国福建省やベトナム国クアンナム省との環境技術交流など、グローバルな仕事も携わることができました。

このように充実した県庁生活を送れたのは、職場の先



ゴルナーグラート展望台にて  
(背景のとんがった山がマッターホルン)

輩や同僚、後輩の皆様の支援や協力、家族の理解があったからこそであり、感謝の気持ちでいっぱいです。

現在は、今年5月から、福岡に本社がある医薬品卸売販売会社の長崎支店で勤務薬剤師として働いており、毎日、高速道路を利用して、片道約30kmの道のりを車で通勤しています。また、同じ会社の諫早支店には、同級生の石居君が今年4月から勤務しており、困ったことがあったら連絡を取り合うなど、心強い限りです。


そして、今年の7月には、退職を記念して、6泊8日の日程でスイスへのツアー旅行に行ってきました。参加したツアーは『世界遺産とアルプス四大名峰をめぐるスイス』の旅で、ベルニナアルプスと迫力ある氷河を間近にできる『ディアヴォレッツァ展望台』、マッターホルン、モンテローザ、リスカムなど計29の4000m級の名峰が連なる絶景が見られる『ゴルナーグラート展望台』、アルプスの女王モンブランを望む『エギーユ・デュ・ミディ展望台』、ユングフラウやアレッチ氷河の絶景が望める『スフィンクス展望台』などを訪れ、日本では体感することができないスイスの雄大な自然に触れることができ、また訪れてみたいという思いを胸に帰国した次第です。

以上が私の近況ですが、今は、2回目のヨーロッパ旅行を夢見て、少しでも体力を温存するため何か始めないとと思いつつ、嫁と旅行に出かけたり近くの山に登ったりしています。

## 長薬名誉教授 古川 淳先生を囲む会

会長 池田 光政(昭57)

長薬同窓会福岡支部浦陵会では、2019年の新春1月27日の日曜、とてもいいお天気に恵まれた昼間に、筑後川を臨む、篠山城跡有馬記念館のレストランで久留米在住の古川 淳先生(昭25)を囲む会を催しました。

熊本の山本喜一郎さん(院昭55)中津から中島徳子さん(昭59)、行橋から原口桂子さん(昭59)、浦陵会のメンバーでは池田(昭57)、松原 大さん(昭58)、金子富美さん(昭59)に加え、濱本太二さん(平13)で、古川先生を囲んでの新春ならではの懐石料理と日本酒で楽しいひと時でした。

平成30年12月に長崎大学で行われた下村先生のお別れの会の話から下村先生との思い出や、古川先生がフルブライト奨学生でアメリカに留学された際、被爆地、長崎からきた学生ということに興味をもたれ、データが欲しかったのでしょうか、様々な検査をうけたことも語っておられました。

今回最年少の濱本さんは、MSD社のMRさんで、久

留米大学病院のご担当ですが、偶然昨年の同窓会報誌を読み、金子さんが先輩と知ったことがきっかけで、参加して下さったそうです。若く、そしてお酒を飲む機会の多いMRさんの濱本さんもびっくりするような、古川先生の飲みっぷりに参加者一同、喜びながら、代わる代わる先生の盃にお酒を注がせていただきました。

次は焼き鳥の会で、という約束を果たしたいと思っています。これからもこういった機会を通して、長薬の輪が広がることを祈念します。



## 昭和55年入学、昭和59年卒業のクラス会

森藤 由香(昭59)

前回2016年に別府でクラス会を開催してから3年が経ち、次のクラス会はいつ?とあちらこちらで開催を待ち望む声が聞こえておりました。今年の「長薬同窓会定期総会・懇親会」が近畿支部100周年に合わせて大阪で開催されることになり、近畿支部の幹事である伊藤君と私で「せっかくなので長薬同窓会定期総会・懇親会に合わせてクラス会もやっちゃう???」という話をしたのは、確か昨年の近畿支部総会・懇親会の時でした。しかし、その後なかなか打ち合わせをする時間もなく、ふと気づくと「長薬同窓会定期総会・懇親会」の開催日が迫っておりました。クラス会の準備が何もできておらず、慌てて学年理事である中村君、金子さんに助けを求め、みんなの連絡網を駆使して、メール・電話で連絡をしていただきました。みなさま、特に中島徳子さん、あちこちご連絡いただき、ありがとうございました。

今回の「長薬同窓会定期総会・懇親会」の開催場所は大阪万博公園の「ホテル阪急エキスポシティ」で、懇親会終了後に梅田等に移動するにはちょっと遠すぎるため二次会でのクラス会開催は断念し、翌日ランチで開催す



ることにしました。万博公園内には「エキスポシティ」という大きな商業施設があるので、当初そこのお店での開催を考えていたのですが、土日は予約不可とのことで、結局「ホテル阪急エキスポシティ」内のバイキングレストランで開催することとなりました。しかし、前日の「長薬同窓会定期総会・懇親会」終了後何もないのも寂しい...と思いついたのが、万博公園の一駅先にある某有名企業の保養所でした。私が業界活動で一緒させていただいている友人がその企業の病院にお勤めで、いつも業界活動の合宿でお世話になっている保養所です。み

んなで宿泊して、久しぶりに夜通し部屋飲み大宴会をと企画しました。

こんな感じでばたばたと準備をしたにも関わらず、6月15日に開催した「長薬同窓会定期総会・懇親会」には13名、翌日のクラス会には18名の方々にご出席いただきました。「長薬同窓会定期総会・懇親会」当日は、雨が降ったり晴れたりと変なお天気で、特に風が強く、伊丹空港到着の飛行機には軒並み遅れがでており心配していたのですが、とうとう長崎便で欠航がでてしまい、その便で来阪予定であった宮崎さんと三浦さんが急遽来られなくなるというアクシデントもありました。

長薬同窓会懇親会は、学年ごとのテーブルでしたので、ここでもすでに話が花がさいており、久しぶりにお会いする先輩もいっちゃって楽しい時間があっという間に過ぎてしまいました。「長薬同窓会定期総会・懇親会」終了後は、宿泊場所に移動し、「大宴会の始まり!!!」と思いきや、年齢のせい、宿泊組がほとんど女性だったせい（男性は松尾君だけというハーレム状態でした。）アルコールはあまり進まず、松尾君がお土産に持ってきてくれた熊本名物「いきなり団子」を頬張りながらの「宴会」となりました。懇親会でお腹いっぱいお料理を食べていたにも関わらず、その場で「いきなり団子」を頬張り始めた女性軍に松尾君が「えっ!?今食べるの?」と固まっておりましたが、そんなことは全く気にせず美味しくいただきました。松尾君 ごちそうさまでした。学生時代のこと、仕事のこと、こどものこと、親の介護のこと、趣味のこと等々話は尽きませんでした。さす

がにこの年齢になると夜更かしは厳しく、日付が変わるころには解散となりました。

クラス会当日の早朝、万博公園近くの交番で警察官が襲われ拳銃が奪われるという事件が発生し、万博公園のイベントはすべて中止、宿泊場所を出発する際にはフロントの方に注意を促されると言ううちちょっと怖い状況にも関わらず、前日参加できなかったメンバーも加わり、ランチクラス会を開催しました。さすがにランチなのでアルコールはほとんどなしでしたが、バイキングだったのでまたまた食べる食べる…（笑）。2時間という時間制限があったため、話は尽きなかったのですが、次回のクラス会の相談をして終了となりました。終了後は、「もしかして警察官襲撃の犯人がいたりして…」とか言いながら、せっかくなので「太陽の塔」をバックに記念撮影をして、来年も元気で会うことを約束して解散いたしました。

3年ぶりの方、久しぶりに会う方と様々でしたが、やはり学生時代の友人はいつ会ってもすぐに学生時代に戻れ、なんでも話せて最高だとつくづく感じました。

次回のクラス会ですが、来年は「長薬同窓会定期総会・懇親会」が長崎開催なので久しぶりに長崎集合（中村君二次会でのクラス会、よろしくお願ひします）、その次は予定通り幹事を松尾君にお願ひすることになりました。また、以前から話している「祝!!!還暦クラス会inハワイ」も開催の方向で考えることになりました。

最後になりましたが、今回のクラス会は準備不足により全員に連絡をすることができませんでした。この場をお借りしてお詫びいたします。

## 紫陽会 2019のご報告

池田 久美子（平17） 徳永 類子（平1） 金子 富美（昭59）

皆さんこんにちは。福岡県の女性の会の紫陽会を今年開催しましたので、幹事一同からご報告させていただきます。

7月21日日曜日、福岡市中央区のおしゃれなレストラン「フォンタナ」を一部貸し切りにして、おいしいイタリアンを食べながらの楽しい女子会でした。ただ当日朝の大雨で交通手段がなくなり、急に参加できなかった方もおられました。そんな天候の中、新幹線を使って久留米や大牟田から大変な思いをしながら駆けつけてくださった方々には、幹事一同感謝しています。

実はこの紫陽会は存続の危機があり、区切りをつけるためにも、という思いで平成7年卒業のジャズボーカリストでもある、浦上真紀さんにミニライブをしていただきました。ジャズでは珍しい弾き語りのスタイルの浦上さんですが、なんとこの日、あのクイーンの「ボヘミアンラブソディ」を弾き語りで演奏されました。素晴らし

い演奏で、今思い出しても皆さんにお聴かせしたいほどの熱演でした。これには出席者皆感激していました。長薬卒業生の誇りです。浦上さんには、会費まで徴収し申し訳なかったのですが、またぜひお願いしたいと思います。



ところで、この紫陽会の存続についてですが、最年長の安永先輩（昭34）から貴重なこの会の発足の経緯のご紹介があり、参加された方々のご意見もあり、継続することになりました。次回は昭和60年卒業の原田さんを中心に幹事をしてくださることになりました。女子会らしく美味しいお店で楽しくランチする会という気楽なコンセプトで継続していきたいということになっています。

次は数年後でしょうが、皆さんもぜひ気楽に参加してください。我々幹事の行き届かない点が多々あったこともこの場を借りてお詫び申し上げます。

#### 出席者

昭和34年	安永ハルミ	昭和55年	池田千加子
昭和55年	田尻真由美	昭和59年	上村 義子
昭和59年	藤澤 晶子	昭和59年	金子 富美
昭和59年	林 幸恵	昭和59年	中島 徳子
昭和59年	仁田 祐子	昭和59年	白谷 雪子

昭和59年	原口 桂子	昭和59年	中垣 春美
昭和60年	石橋キミ子	昭和60年	原田 朝路
昭和60年	宇佐美めぐみ	昭和61年	竹内 綾子
昭和63年	平塚みゆき	昭和63年	富田 美紀
平成1年	徳永 類子	平成3年	天野 裕子
平成3年	野村 公子	平成3年	渡辺麻紀子
平成7年	浦上 眞紀	平成15年	亀井 緑
平成17年	池田久美子	平成17年	畠山 香菜
平成30年	永野 優	平成30年	白石 亜希

計28名



## 2020年卒後35周年記念同窓会 日程が決まりました。

山口 綾子 (昭60)

令和元年9月14日(土)佐世保の南里裕美子さん宅に、長崎近郊の同窓生が集まりました。

私が4年前に学年理事に選ばれて(?)から、35周年同窓会をしたいと思っていました。

その準備に、毎年長崎在住を中心に集まりを開いてきましたが、今年は、拾い猫の為にマンションを購入した南里裕美子さんに、自宅を提供していただきました。夜遅くまで話し込み、昔の乙女3人は泊まり込む始末でした。

南里裕美子画伯のこころちゃん(猫)の絵をバックに記念撮影です。向かって左より、大山(寺田)さゆりさん、石橋(伊藤)キミ子さん、南里裕美子さん、小田原志朗くん、塩田英雄くん、大木(近藤)薫さん、後列、上林(岩永)知子さん、吉田恵美子さん、前列、塩屋(吉

田)広美さん、山口(村島)です。

さて、本題です。2020年卒後35周年記念同窓会の日程発表します。

2020年8月22日(土)、長崎市で行います。場所は、結婚式場で人気のガーデンテラス長崎ホテル&リゾート(長崎市秋月町2-3)です。18時からを予定しています。世界新三大夜景の長崎夜景をお楽しみ下さい。宿泊も一緒にご案内します。

卒業年次が違ってしまった方もお誘いいたします。皆さん、日程を調整されて、ぜひ、お越し下さい。いろいろあった35年を、一気にタイムスリップいたしましょう。

来年5月に、正式にご案内いたします。



令和元年9月14日 於 南里さん宅

## 昭和61年卒同窓会in大阪

田川 千恵美 (昭61)

平成30年10月13日土曜日、17時30分から20時30分まで昭和61年卒の同窓会が虎連坊ヒルトンプラザウエスト店にて開催されました。南は鹿児島から北は東京まで、31名参加しました。今回は関西在住の古谷さん、近藤さん、藤さんたちの御尽力で大変楽しいひと時を過ごすことができました。幹事の皆さんありがとうございます。昼間は藤さんによる大阪城を含む大阪観光、翌日は中山さんによる神戸観光と盛沢山でした。

最初に一人ずつ自己紹介と近況報告。転職や退職の話、子どもが結婚して孫が生まれた話など、これからの自身に参考になる話もありました。前回の長崎の伊王島の同窓会に参加していたので、2年ぶりの人が多かったのですが、私自身も転職したり、長男が就職したりと変化があったように、皆さんにも変化があって話を聞くのは楽

しかったです。32年ぶりの人も学生時代と変わらない様子を見て、つくづく体型維持の必要性を再認識しました。全員、とりあえず健康で、仕事以外にも趣味やスポーツに打ち込んでいる様子がわかりました。自己紹介の後、食事をしながら近くの席の人たちと仕事の話や家族の話などで、瞬間に時間が経ってしまいました。お開きの後は、ロビーで集合写真を撮ってから2次会の会場である大阪マルビルの最上階(30階)トップサーティーへ移動となりました。夜景が素晴らしかったです。

当初、私は1次会だけ参加の予定だったのですが、2次会の会場が宿泊先のホテルだったので参加することにしました。2次会は、30名の参加でした。私は携帯電話を持っておらず、一人で飛行機に乗って旅行するには不安があり、博多に住む娘と一緒に宿泊していたので、娘



平成30年10月13日 於 虎連坊ヒルトンプラザ

も一緒に参加させてもらいました。娘の相手をしてくださった皆さん、その節は有難うございました。

2次会でも、あちこちで話題は尽きず盛り上がっていました。そのうちゴルフの話になり、宮崎ではゴルフが安くてできるということで、幹事も立候補してあつという間に次は宮崎での開催に決定しました。2次会は、21時に始まって23時でお開きになりましたが、余力のある人

たちは梅田の夜の街へと繰り出して行きました。パンについて語らせると右に出る者がいない山崎さんは、翌日の神戸観光で、おいしいパン屋さんを紹介すると張り切っていました。きっと神戸観光も楽しかったことと思います。

以上、昭和61年卒同窓会の報告とします。

## “近畿7人の侍” & “関東86会”

森川 慎也 (平2)

10月初旬のある日、学年幹事の山本君(稔)から久しぶりに連絡が。今年の長薬同窓会総会(近畿支部主催)に参加した同級生による、プチ同窓会といった体で、会報に記載してくれないかという提案であった。平成2年卒で総会に参加したのはたったの7人、まともな会話は2次会の2時間弱のみであった。話半分に盛って膨らますのは得意だろ?と言われても、さすがに行間が埋まりそうにない。しかしながら、同じ野球部で年に3ヵ月は合宿(集会所)を共にし、自宅生でありながら僕のアパートに入り浸り、おそらくは学生時代最も長い時間を共にしたであろう、他ならぬ稔からの頼みだしということで、しかたなく承知した(笑)。

前置きはこの辺にして、大阪での総会に参加したのは添付の写真の通りです。ランダムにいけますが、母として、(病院)薬剤師として地域医療に貢献する増田さん、浦川さん、大手薬局チェーンで薬剤師指導者として活躍する城戸君、バイオベンチャーで国立機関とのPJ leadも務める下田君、研究テーマがもうすぐがん患者を救うであろう下條君、長崎県薬剤師会専務理事で同窓会副会長でもある秋吉君です。在学中をご存知の方、判別できましたでしょうか?随分と簡単な紹介のみで流したなどお思いでしょうか、当日の細かいことは憶えてなくて…適当でごめんなさい。

僕は現在東京にいますが、昨年の同窓会総会は関東支部による東京開催でした。その折に近畿支部幹事長の伊藤 潔先生(薬品製造工学教室及び野球部OBでもある)から「来年は頼むぞ」と。平成2年卒として、少なくとも①関西在住、②薬品製造工学教室、③野球部は参加できればいいなど、10人の参加を勝手に目標に掲げていました。そのような中、参集した義理堅〜い7人ということで、“近畿7人の侍”と題しました次第です。ちなみに①〜③を延べ人数で数えると12人になり、目標達成となっています。わかる人にはおわかりいただけるかと思いますが!

関東圏の平成2年卒は、ときに出入りはあるものの、学年の1/4を超える20数名が常にいるような状況です。

そこで毎年12月の第1日曜のお昼に会おうと決めており、その会についてもここで紹介したいと思います。直近は昨年12月2日(日)で、参加メンバーは添付の写真の16名でした(今年も12月1日(日)の予定で、この会報が出るころには既に開催済のはず)。東京近郊メンバー中心ですが、柴田さんと狩野君は静岡から、また前出の城戸君も名古屋からやって来ています。

この回のトピックスはまず大澤さんの初参加でした。製薬各社で機能強化が進んでいるメディカルアフターズ部門のリーダーとして福岡からの転勤で、学生の頃と変わらぬパワーとエネルギーは、益々健在です。また、狩野君は千葉マリンマラソン参加後に合流し、僕の知る限り学生時代は一番不健康だったやつが体も顔も絞れて精悍で、今は一番健康的かもしれません(笑)。

実はこの会、もとは2~3年に一度の頻度の会でした。毎年且つ定日開催としたのは3年前からで、その理由には小川君の存在があります。6年前の夏、彼は重度の脳出血に倒れ、ほぼ1年記憶も定かでない状態が続きました。その後車椅子で外出可能なまでになったところで、激励会も兼ねて企画したのが3年前の会となり、以降、「俺たちに毎年回復ぶりを見せろよ!」となったわけです。

そして会うたびごとに、出なかった声、たどたどしかった言葉、硬かった表情に毎年回復を見て、今では車椅子に乗っていること以外ほぼ元通りともいえる奇蹟の大復活を遂げ、職場復帰も果たしています。もちろん小川君自身の精神力の強さとフットワークの軽さに依るところは大きいのですが、傍らには常に、やはり同級生で奥さまの太田さんがいました。彼女は何時も前向きに明るく笑顔で小川君に寄り添い介護を続けながら、なんと整体やカウンセリングの資格を取得するに至り、ついには起業して、同じような境遇にある方々を支援する側に昇華していった姿には、もう言葉が見つからず尊敬しかありません!!(「すまいる・りぼ〜ん」:<https://reborn0724.jimdofree.com/>)

僕たち平成2年卒は、微妙に“理由年組”と呼ばれる



方々が数名いるので、同窓会の際は、あえて入学年である昭和61年度入学生を使います。そこから派生して関東の同級生は、西暦を語呂良く用いて“関東86会”と称しています。

思えば入学したのが1986年4月で卒業が1990年3月、まさに円高不況の真っ只中からバブル絶頂に駆け上がっていった期間でした(諸説あるようですが)。集まればどこか明るい雰囲気時間が流れていくのは、そんな世相の中に学生時代を共にしていたからかもしれません。そ



近畿7人の侍

して来年2020年はオリンピックイヤーであると同時に、僕たちにとっては卒後30年の節目の年になります。いつもの如くきっと何か面白いことありそうな30周年の会に、多くの皆で参集したいですね。稔どの、企画をよろしく!!

追記：勝手に写真と名前を出したこと、女子は旧姓で記載したこと、やや正確さを欠く内容のあること、等々、ご了解ください。



関東86会

## 昭和62年度入学生同窓会 in NAGASAKI

下田(永井)寛子(平3)

令和元年9月14日(土)、長崎の街で、昭和62年度入学生同窓会が開催されました。お忙しいなか、幹事を引き受けて下さった室君、龍さん、成末さん、本当にありがとうございました。鍛冶屋町の鯛の塩釜焼で有名な「長崎和食 草花洛」にて、学年理事の北原君の乾杯で一次会がスタート。写真は一次会参加の32名です。後から羽野さんも参加で、総勢33名でした。

各テーブルで職場、家族の様子などそれぞれの近況を報告。「台風、大丈夫だった?」、「雨ひどかったやろ、どうもなかったね」と、台風・豪雨の心配をする声もありました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早く平穏な生活に戻られることを心からお祈りいたします。

「近く見る時、眼鏡外すよね」、「最近、遠近両用眼鏡に換えたとき」、「五十肩で腕がアガらないのよ」、「20kg増えた!」と半世紀の経年変化の吹きや、「現場では指示出しばかり」、「若い子に指示するのも気つかうよ」、「社長より仕切っているかな」等々、職場での活躍が聞こえ、「受験のことで揉めてるよ」、「学生相手に講義してる」、「子供がその講義を聴き損ねたらしい」、「今日は子供の下宿先に泊まるの」、「子供の赴任地が長崎」、「来週、子供の結婚

式!」とお子さんの成長を知り、時の流れを感じました。長崎名物ハトシも並ぶ美味しいお食事にお酒も進んでくると、「入学当初は近寄るの怖かったな」、「実験パートナーでお世話になった」、「あの時の忘れ物、覚えてる?」等、思い出話に花が咲きました。欠席者の近況も「子供さんが受験生らしいよ」、「今日は地区の運動会の当番らしい」、「テニススクールで元気な姿を見かけたよ」とのこと、繋がりがあつたことを嬉しく思いました。

和CafeBar HONEY8 RETROでの二次会は、流行りのハイボールやお好みカクテルで話も弾み、「部下が連絡も無く出勤しなくて焦った」、「昔、日曜日と思って起きたら月曜の出勤時間過ぎてた」、「中二病って何?」、「男の子は何故、修学旅行で木刀を欲するの」などと、あるある話で盛り上がりました。

三次会のカラオケは、北原君のダンサー付きの「勝手にしやがれ」を皮切りに、明葉ちゃんvs.あいみょん、米米CLUB vs.米津玄師の新旧歌合戦、スピッツ、石川さゆり、浜省に欧陽菲菲と、懐かしの十八番合戦、最後は、もう一人の学年理事の中村達也君の「島人ぬ宝」で締めくくられました。あんなに楽しいカラオケは学生以来で、薬学部集集場でカセットテープを流してSOMEDAYを大

合唱した頃を思い出しました。現在、職場では若者を迎え、家庭ではteenagerの子供と向き合う年代になりましたが、「この子達と同じ歳の頃の自分は何を思って、何をしていたかなあ。そう、集会場でみんなと笑っていたあの頃は…」と振り返える良い機会となりました。

懐かしい笑顔に出会い、昭和、平成、令和と3つの年

号を超えて繋がっていける喜びを感じ、身も心も若返った(?)とても楽しい一日でした。「5年後にまた集合!」と再会を約束してお開きでした。今回参加できなかった皆さんにも是非お会いしたいです。素敵なお縁に恵まれて、皆さんに感謝!



2019年9月14日 於 鍛冶屋町「長崎和食 草花洛」

千代丸 山口(展) 北原 鶴屋 中村(達) 雪竹 野村 溝辺 南  
 渡辺(麻) 本田 成末 辰田 室 古野 下野 堀 林田 中谷 永井 江村 泊  
 家村 甲斐 工藤 杉浦 池田(宜) 江尻

敬称略・旧姓

## 平成5年卒同窓会報告

前田 健次 (平5)

令和になって初めての同窓会が11月23日(土)に長崎市の矢太樓で開催されました。

翌24日は38年ぶりに訪日されたローマ教皇が長崎を訪問され、被爆地から核兵器廃絶を訴えられました。そのため、全国各地から集まった機動隊の方々や多数のミサ参加者が同ホテルに宿泊され、駐車場には多くの機動隊バスが並ぶという例年とは違う雰囲気でした。

幹事の中村さんの挨拶に続き、20数年ぶりに参加された山川さんの音頭で乾杯をし、途中退席しなければならぬ方もいるため、記念撮影を終えてから宴会開始となりました。学生の頃の思い出や家庭・仕事・体調など思い思いの話で盛り上がりあつという間に宴会終了となりました。その後、宴会のみの参加者も一室に集まり2次会が行われ、ホテルから苦情がくるのではないかとと思われるほど大いに盛り上がりました。

毎年、二日酔いで朝食を食べられない方が数名いるのですが、今年はそのようなこともなく美味しくホテルの朝食をいただきました。

この同窓会はこれまで伊王島・小浜・嬉野・平戸・武

雄・博多・二日市・湯布院・別府・阿蘇・玉名など九州各地で開催され参加者が少ないこともありましたが、ここ3年は長崎で行われ多くの方が参加されています。来年も長崎で開催されますので、これまで参加できなかった方も是非お待ちしております。

また、LINEグループを作成しており同窓会の開催だけでなく様々な連絡も出来ますので、まだ参加されていない方はだれにでもかまいませんのでご連絡ください。

最後になりましたが、2年連続で幹事を務められた中村さん、柳原さん、吉田さんには本当にお世話になりました。



した。心より感謝申し上げます。引き続き来年も幹事をしてもらえそうなのでよろしく願いいたします。また来年お会いしましょう。

参加者（本文も含めすべて旧姓）

賀川、川留、木村、倉地、小嶋、佐野、鶴丸、豊嶋、中村、野上、野田、前田、升永、松葉、松原、森（浩）、森本、柳原、山川、山口（幸）、山崎、山田



令和元年11月23日 於 矢太樓

## 近況便り

松永 隼人（平12）

皆様、ご無沙汰しております。久方ぶりに筆をとらせて頂きます。いつのまにか、「不惑」を過ぎてしまいましたねー。日々のお仕事、生活に追われつつも充実した日々をお過ごしのことと思います。

今年の8月の終わりに、大山 要さんと友成正英さんと酒宴を設ける機会がありました。頻繁に会う同級生ではあるのですが、年々、話す内容が大人びてきていることを再確認しました。学生時代は、大学やバイトの不満、そして、もっぱら恋愛話や趣味の話をしていました。それが、6割が仕事の話（これからの薬剤師像や、教育、未来の展望等）、3割がそれぞれの家庭や自分の話、1割がたわいも無い話や異性の話（芸能人も含む清い話であったことを強調しておきます）といった感じです。

皆様もご自身の「生活の姿」の大枠が形作られ、少し息苦しく感じることはありませんでしょうか？僕は今更ながら、高村光太郎の「道程」の心境になりたいなーと改めて思った次第です。

僕の前に道はない 僕の後ろに道は出来る

この心境になるためにも、人生を楽しみたいと思いません。凹んだ時も「明けない夜はない」との気持ちでいたいです。童心に戻れるような熱中できるものが、特に今

の私達の年代には必要ではないでしょうか？皆さんは、何かにハマってますか？僕の今のマイブームは、サウナ・童謡歌唱・オケ鑑賞・仮面ライダー（ゼロワンが始まったぜ！）です。後、私事ですが、昨年に生まれて初めて「腰が抜ける」ということも経験してしまいました。無理は禁物、健康第一ですね。

最後に少し真面目な提言を。医療現場に限らず、何かと細分化されたスペシャリストがもてはやされるご時世です。勿論良い点もあれば、弊害のような点もあるでしょう。だからこそ、ジェネラリストの視点やシームレスなコミュニケーションが必要だと思います。また、異分野業種を繋いだり、社会経験を基にした柔軟な発想の転換ができて、且つ、それなりの実行能力もあるのは、僕らの年代ではないでしょうか？無理ない程度で半歩進んでトライしてみるのが大事かと。みんなで元気に楽しく生きることが、お互いに良い影響を与え合うことと信じます。

いつか、クラス会を開催しなきゃですねー。

松永的には、プチ・プレッシャーです。サポーター求む!!

## 衛生化学研究室 中山 守雄 教授 最終講義および退職記念祝賀同門会

吉田 さくら (平19)

中山守雄教授は、2019年3月31日に定年退職を迎えられました。中山先生は2000年1月に熊本大学薬学部から、長崎大学薬学部へ衛生化学研究室の教授として赴任され、19年間に渡り本学の研究・教育にご尽力されました。この間に先生が指導され、卒業・修了した学生は学士149名、修士42名、博士8名に上ります。中山先生の研究は衛生化学、放射化学、分析化学など多岐に渡っており、日本薬学会、日本分析化学会を含め、多くの学会に所属され、2010年には日本イオン交換学会学術賞を受賞されました。同時に、学長補佐、副学長、理事、薬学部長を歴任され、大学運営においても多大なご貢献をされました。

中山先生のご退職にあたり、2019年3月8日に薬学部の多目的ホールで「旅の途中の回顧録」と題した最終講義が行われました。先生が研究者として歩まれるきっかけとなった水俣病の話から始まり、京都大学における学生時代、熊本大学での教員時代、そして長崎大学赴任から現在に至るまで、90分間の講義では収まりきれないほどの濃密なお話を聞くことができました。最終講義には多くの方々にご出席いただき、学部内だけでなく、他学部、学外から参加された方もいらっしゃいました。翌3

月9日には退職記念祝賀同門会をザ・ホテル長崎BWプレミアコレクション（旧ベストウエスタンプレミアホテル）で開催いたしました。中山先生のご希望で、同門のみの集まりといたしましたが、2013年まで准教授を務められました原武 衛先生、2007年まで助教を務められました小野正博先生をはじめ、職員、卒業生、在生を含めて72名と、多数の出席者の皆様のおかげで盛会のうちに終えることができました。当日はこちらの準備不足もあり、参加者の皆様に多々ご迷惑をおかけしてしまいましたが、多くの方々のご協力によりなんとか無事行うことができましたと思います。中山先生は研究・教育に熱心に取り組まれる一方、研究室の飲み会などでは学生と気さくにお話しされ、多くの学生から敬愛されております。今回の祝賀同門会にこれほど多くの同門生に参加していただけたのは、偏に中山先生のこのようなお人柄によるものと思われました。今後も機会がありましたら、中山先生との集まりを企画したいと思いますので、同門の皆様どうぞよろしく願いいたします。最後に、中山先生の長年に渡るご指導に感謝申し上げますとともに、中山先生が今後とも健康で楽しい毎日を過ごされますよう、祈念いたします。



平成31年3月8日 於 ザ・ホテル長崎BWプレミアコレクション

## 派遣薬剤師としての経験

濱崎 久司 (平27)

平成27年卒の濱崎です。初めての投稿になります。「派遣薬剤師」と聞くと、大手就活サイトなどの広告をイメージされる方が多いかも知れませんが、それとは異なります。卒業以後、長崎大学病院薬剤部にて勤務しておりましたが、本年度は他院へ「派遣」され勤務しています。正確には「派遣」ではなく「出向」です。

さて、その派遣先ですが、本年4月より半年間、長崎県佐世保市にあります、佐世保市総合医療センターで勤務しておりました。学生実習も就職先も同じ病院であった僕にとって、他の病院を体感するのは初めてのことであり、驚きの連続でした。これまで当たり前と思っていたことが否定されたり、逆に、禁止されていたことが平然となされていたりします。なぜこのような違いが発生するのか、自分なりに色々と考えてみました。薬剤師という職業は、医師のように複数の病院で勤務することが基本的にはありません。1度就職すれば、転職しない限りはずっと同じ病院で勤務します。すなわち、1つの病院の勤務経験しかもたない人が多く存在します。そのような状況において、各病院内での“文化”が生まれていきます。新入職員はその“文化”の中で教育を受けていくため、多くの場合はその中に染まります。こうして形成された“文化”の違いこそが、僕が最初に実感した驚きの正体だと思います。しかしながら、各病院において、職員数や地域特性など、様々な違いがあるため、そのような背景を考慮すると、全ての病院において均一の運用で業務を行うことは難しく、差が生まれるのはやむを得

ないことです。ちょうどそのような悩んでいる時に参加した勉強会で、演者の医師が「理想のみを追い求めるのではなく、供給可能な材料で、需要に擦り合わせる必要がある。」と書いていました。その医師も、様々な病院に赴任するたびに“文化”の違いに悩んでいたそうです。他院を体感したことによって、そのような現状があることを学びました。

佐世保市総合医療センターへの半年間の派遣が終了した現在は、長崎大学病院へ戻るのではなく、引き続き他院へ派遣されています。10月から、五島市富江町にあります富江病院にて勤務中です。富江病院は、これまで在籍していた急性期の基幹病院とは病院の役割が全く異なり、また、一人薬剤師での勤務であるため、新たな経験を積むことができています。富江病院へ来る前に佐世保での経験があったため、ここでは“文化”の違いに驚くことはありませんでした。そして、一人薬剤師であるため、新たな“文化”を作ろうと悪戦苦闘する日々を過ごしています。全ての責任が問われる立場になりますが、とてもやりがいを感じています。せっかくの離島生活なので、今後は釣りなどプライベートの充実も図っていきたい所ではあります。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった、佐々木薬剤部長をはじめとする長崎大学病院薬剤部の皆様に感謝申し上げます。今後はこのような取り組みをきっかけに、病院薬局の分け隔てなく、長崎県の薬剤師会の更なる発展を願うばかりです。



佐世保総合医療センターにて

## 近況報告

林田 颯志 (平28)

今年の近況報告です。自分的にはライフイベントや仕事ですごく大きな事は特に何もなかったような気がしますが周りが激動でした。今年は職場のメンバーや環境がかなり変わりました。大好きな上司や先輩達が次々と自分のやりたいことを新しく見つけ転職していきましました(泣)。その代わりに新人さんや中途の職員さんや調剤補助さんが入局しました。調剤補助システムや抗癌剤の監査システムが導入されたり、職場の様態替えも進み、自分の職場なのに「ココも変わったんだ！」みたいな驚きの連続です(笑)。さらに、今年は職場の先輩や後輩が結婚したり、同期が結婚を発表したりと、職場の結婚ブームも到来しました。独身が多く、なかなか結婚しないでお馴染みの薬剤部だったので職場の一番の話題になっています。

私にとっての一番の話題は妹が結婚したことです。すごくいい結婚式でした。普段はだらしない妹も結婚するとなったら結構しっかりしてみえて大人になってるんだなあ、と思ったりしました。妹は現在は長崎県五島市に住んでおり、今年の五島夕やけマラソンでは旦那の応援のついでに応援してくれました。

同じ世代の従兄弟達も次々に子供が生まれ、合計でいうのもあまり良くないかと思いますが今年は合計3人の子供が生まれました。今年の9月に祖父の1周忌で親戚の集まりがあり、今まで1人ずつだった従兄弟達がそれぞれパートナー1人と子供2人を連れてくる立派な4人家族となっていて、大所帯で賑やかになりました。1年しか経ってないのに随分と増えたなと感じます。上の子供達が今流行りの「パプリカ」を踊り、みんなが拍手するから褒めてもらえると味をしめて何回も踊ります。下の子供達は産まれたばかりだからずっと寝ています。私は手拍子をしたり写真を撮ったり、たまに抱っこして泣かれたりしました。やっぱり大人の男は子供にはあまり

好かれないと感じる今日この頃です。そして最終的にはお決まりの親戚からの「次はお前の番じゃぞ」的なプレッシャーを受け帰宅しました(笑)。私自身は親戚達が期待するような話題は持っていきませんでした(私自身の話題は最近ジムに行き始めたことくらい。)が、他のおめでたい話題が多く、祖父の1周忌を明るく過ごすことができ良かったと感じました。

社会人となって早くももう4年が経ちます。学生の頃は社会人4年目なんてすごく大人で尊敬していましたが、自分がその4年目になってしまったことを考えると意外とこんなもんなんだなあと思います。今年も来年ももっと色々な事に挑戦し、後輩から尊敬されるような存在になれるよう頑張りたいなあと思います。

今年と来年の日本医療薬学会年会では発表予定ですのでご参加される方は時間が許せば聞きにきてみてください。発表がなしになったらすみません。

最後に…去年の文章が固すぎると言われたので、今年は緩い文章にしました(笑)。

ではまた来年。



2019年8月26日 於 五島市

## チャレンジ精神

谷口 隼輔 (平30)

長崎大学病院薬剤部で薬剤師2年目をしております谷口です。薬剤部の製剤室という部署で、院内で行われる抗がん剤治療のレジメンチェックを主な業務としているのですが、翌日、翌々日の準備を進める本業務に携わっていると、カレンダーの先々をよく見るようになります。そんなものだから、月の変わり目や月末を一步先に味わっているような感覚に陥り、あっという間に1年が

過ぎて行こうとしています。自分が薬剤師になってから初となる後輩ができましたが、新人だけで11人もいるととても賑やかです。ひたすら教わる立場だった昨年から、教える場面の多い本年となり、自分の教え方で合っているか、嘘を言っていないかと慎重になる日々です。

ところで、この原稿を書いている頃は、消費税が8%から10%に引き上げられてから1ヶ月経とうかとしてい

るところで、なんとなく落ち着いたかなあと感じています。キャッシュレス決済も最初はいくつもアプリやらがあつて、敷居が高いというか、使いこなせる気がせずにやや敬遠していたのですが、半年ほど前から遠ざけるばかりだといよいよ置いていかれそうだな、と少し怖くなり、おそろおそろ利用しております。小銭を探す手間は省けるけど、代わりにアプリを開く手間と、ポイントカードをカードの山の中から探し出す手間で、結局同じじゃないかと愚痴を頭に浮かべながらも、還元などで多少お得ではあるのでなんとか納得している感じです。一番大きいのが、目に見えにくい形でお金が動いていくことで、これまでになかった感覚で使い心地が悪いというか、ただ自分の頭が固いだけなのか判断がつきません。皆様はいかがでしょう。

1年を振り返ってみると、こういう新しい体験というものを最近していなかったような気がします。落ち着いた毎日を過ごしている証拠なのでしょうが、あまりガチガチに固まってしまうと新しい風潮を受け入れにくいというか、自分の考え方が固くなってきたかなという思いが過ります。思えば学生の頃はwebサイトを自作した

り、動画の編集技術を身につけたりと、欲張って多方面に手を伸ばしていました。そのたびに同級生や後輩から将来何になるのかと問われたのを思い出しますが、先に述べたキャッシュレス決済の話も、学生の頃のように、自分にはできないこと、知らないことがあれば自分の中に取り入れる事に積極的でいたいという思いからです。これを機に、改めて新しいことには出来るだけチャレンジするような姿勢でいたいと思っています。

もちろん、これまでになかった技術を身につけるのは苦勞が付きものですが、ごく最近、やっていたよかったなと思うことがありました。動画編集ができるという話をどこかで知ったのか、友人に結婚式のプロフィールムービーの作成を頼まれ、結果、素人の作りではありますが喜んでもらえるものをお渡しできました。これがきっかけとなり新郎の方と仲良くなり、今度トレイルランニングを始めないかと勧誘を受けています。上の文に書いたとおり、新しい事にはチャレンジ。ということでぜひ誘いに乗ろうとしています。まとまりのない文章となってしまいましたが、近況報告はこのあたりで。また次の一年で何か始めたらご報告させていただきたいと思います。

## 卒業アルバム

岡見 和哉 (平31)

同窓会の皆様。いつもお世話になっております。昨年のアルバム制作委員長をさせていただきました岡見和哉です。昨年、長崎大学薬学部同窓会からアルバム制作の

援助をいただき、非常にきれいなアルバムを作ることができました。この場をお借りしてアルバム制作委員会一同より感謝申し上げます。アルバムを2冊、長薬同窓会



事務局へ献上致しましたので機会がありましたらぜひご覧になっていただきたいと考えております。

昨年も薬学科6年制、薬科学科4年制の4年生全員で卒業アルバムの制作を行いました。研究室ごとに趣向を凝らした演出があり、研究室ごとの色が出ていて、ページをめくる手が止められません。天候不良や度重なるスケジュールの調整があり、アルバム制作は苦勞しましたが、先生方のご理解とご協力があり、完成させることができました。ありがとうございました。

アルバムの表紙には「咲」という一言を添えさせていただきました。「咲」には「笑う」という意味があり、周

囲を明るくしてくれる言葉であります。同期には在学、進学、就職した者がいますが、つらいときやふっとさみしくなった時にアルバムを見て明るく元気に前に進めるようにというアルバム制作委員一同の思いが込められています。私たちがまだお会いしたことがない先輩方も笑顔にできるようなアルバムになっていると思いますので繰り返しにはなりますがぜひ1度ご覧になっていただきたいです。

最後に、今後とも長薬同窓会員の皆様には様々な面でお世話になるとと思いますが、何卒よろしく願い致します。

## グビロが丘下の薬専防空壕跡地の慰霊碑周辺の清掃活動

海江田 雄哉 (平31)

令和元年8月4日(日)、今年で18回目となるグビロが丘下の薬専防空壕跡地の慰霊碑周辺の清掃活動を行いました。令和初の慰霊碑の清掃活動でしたが、平成時代と同じく、たくさんの学生、卒業生、長薬同窓会の役員、事務局の皆様が参加してくださいました。猛暑の中での活動でしたが、約一時間程度、草むしりや落ち葉拾い等の作業を行いました。その後慰霊碑へ焼香し、原爆で亡くなられた先輩方を追悼しました。

私自身この清掃活動は学部1年生以来の2回目の参加になりました。この活動に参加すると、夢半ばで原爆の犠牲者となった先輩方の無念を感じます。また、この防空壕を作るためにどれほどの労力が必要であったか、勉強ができる時間をどれほど奪われたか容易に想像できま

す。しかし、現代の私達には先輩方の無念を汲み、日々精進するしかできません。これまで先輩方が築き上げてきた長崎大学薬学部の伝統を守り、更に発展させることが私たちの使命だと感じました。

昭和から平成に変わり、そして令和になりましたが、1945年の出来事は今も変わらず語り継がれています。亡くなられた先輩方の灯火を絶やさないう私達も更に次の世代へと語り継ぎ、またこの清掃活動も末永く続くことを願っています。

末筆ではございますが、ご多忙の中参加してくださいました皆様ありがとうございました。参加者の皆様、長薬同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げ活動報告とさせていただきます。





## 近況報告

棚原 悠介 (平31)

こんにちは、修士1年の棚原です。今回初めてこのような学年理事の仕事をしていただき、この機会に今年私自身がどのようなことに取り組んできたのかなど振り返りの良い機会となりました。今年とはとてもお世話になった先輩方のご卒業され、少し寂しい思いもありましたが、バイト先や沖縄県人会などで1年生と接することもあり、また新たな年が始まったことを切に感じるスタートとなりました。いざ新年度、大学院生としての研究室生活が始まると、やはり学部生の頃とは違い研究に関して自分自身で積極的に勉強していかなければいけませんし、幹事学年でもあるため研究室の行事の企画や雑務もこなしてとなかなか充実した生活となりました。

5月に行ったキス釣りでは研究室の皆や今年3月に定年退職された中山先生らと共にお互いの近況報告などさせていただきました。

また、7月には大学院生研修プログラムとしまして、長崎大学・九州大学・熊本大学の学生や先生方が九重の研修所で一堂に会し、ディスカッションや飲みにケーションなど積極的に交流いたしました。私はまだ学会に参加したこともなかったため、他大学の学生らと研究に関するまじめな話からお酒の場での話などコミュニティを広げる場となりとても有意義な研修でした。加えて、他大学の学生の質問や指摘の鋭さ、積極性など自分にはない部分をまざまざと見せつけられ、今後見習うべき姿勢を学ぶ場ともなりました。幸いなことに研修最終日には優秀者に選んでいただいたことから、参加前にはなかった積極性など少しは学び、発揮できたのではないかと考えております。九重合宿で出会った学生とはその後にもインターン

などで福岡へ行った際などに連絡を取り、何人かで飲み会をしたりもしましたし、今年は薬学会の九州支部会が長崎で行われることから、何人か友人が来るだろうとまた会えることを楽しみにしております。

9月は私自身初となるタイへの短期留学に参加させていただきました。タイのチュラロンコン大学との交流をしたのですが、チュラロンコン大学では授業はすべて英語で行っているらしく、あちらの学生の英語レベルの高さには驚かされました。その点私はほとんど英語を話すことができずとても悔しい思いをいたしました。ポデランゲージと片言の英語と微々たるリスニングスキルをもって対抗しましたが惨敗でありました。今回は私達がタイの方へと赴きましたが、来年の1月にはタイの学生が長崎へ来るようなので、それまでには英語でスマートな会話ができるように精進してまいります。

今年は夏ごろから予定が重なり、いろいろと勉強不足が目立つような場面が多くあったように感じました。そういった中で自分のスケジュール管理能力やタスクの優先順位のつけ方など改善できる箇所も数多く気づくことのできる瞬間でもありました。忙しい毎日を過ごしているからこそ自分の足りない部分や伸ばすべき部分が見つかることがあると思います。就職すればその傾向もより顕著にあらわれるでしょう。自分を甘やかしてきたツゲがだいふたまってききましたので、これからより一層、研究・私生活・就職活動等励んでいきます。褒めて伸びるタイプですのでどうか皆さん私を見かけた際はぜひ褒めちぎっていただきますようよろしくお願い致します。



令和元年7月 九重研修所



令和元年5月 キス釣り

## チュラロンコン大学への短期留学を終えて

池水文香・岡見和哉・末廣 彩・棚原悠介・堤 智寛・西川 恵・野田万鈴（平31修1）

私たちは9月10日から19日までの10日間、タイのチュラロンコン大学への短期留学プログラムに参加させていただきました。本プログラムでは、大学内外の施設の見学や現地の学生との交流を行いました。



まず、初日はチュラロンコン大学内のキャンパスを案内して頂いた後、スキンケア・化粧品に関するワークショップに参加しました。日本国内の薬学部では特に薬に特化した研究を行っているような印象をもっていました。タイでは幅広い分野に渡って研究活動を行っていたことに驚きました。別日には分析系や生物系などの研究室も見学させて頂き、現地の学生が取り組んでいる実験と一緒に行いました。また、大学内には、大学で実際に開発された薬を市販している薬局や、動物、植物、ヒト、虫に関連したコレクションが展示されている博物館などもあり、大学を歩き回るだけでも様々な発見があって新鮮でした。

翌日はバンコクにある赤十字社を訪問しました。こちらは国内唯一の赤十字社で本施設の主な研究テーマとなっているヘビ毒についてお話を頂きました。付属の博物館にはヘビの臓器や卵など多数のコレクションが展示されており、ヘビ毒の恐ろしさを感じるとともに有用性についても学ぶことができました。



さらに、タイの大手製薬企業であるBerlinを見学しました。Berlinは主に循環器疾患や胃腸疾患に対する治療薬を精力的に研究している製薬会社で、施設内の広大な研究所をバスに乗りながら案内して頂きました。施設

内を見学する際は、マスクや帽子、シューズカバー、白衣のようなものを常に身につけ、衛生面に対してとても気遣っているのが理解できました。また私たちの質問にも非常に丁寧に回答して頂き、創薬に携わっている方々の研究に対する誇りや熱意を肌で感じました。

週末は、現地の学生にグランドパレス、アユタヤ、有名なマーケットを案内して頂きました。グランドパレスはタイの中で最も格式高い寺院で、観光客のほかにもたくさんの方々が参拝をしていらっしゃいました。彼らの参拝を見ていると日本と同じ仏教国でも参拝方法が異なっていてとても勉強になりました。アユタヤはタイの古都として知られており、そこにはミャンマー軍に破壊され頭が切り落とされた仏像や、木の中に埋められた仏石があって、タイの歴史を垣間見ることができました。マーケットは水上マーケットやメークロンマーケットに案内して頂きました。水上マーケットは文字通り、ボートに乗りながら川の上でショッピングを楽しむこともできるようなマーケットで、メークロンマーケットはよく日本のテレビや雑誌でも目にする、電車が通過する線路のすぐ両脇で行われるマーケットでした。どちらも日本の常識では考えられないタイ独特の文化で、異文化理解を深める良い機会となりました。その他にも食文化やナイトマーケット等を通してタイの文化を思う存分堪能することができました。

チュラロンコン大学の先生方や学生、ドライバーさんや施設のスタッフの方々など携わって下さった多くの



方々のお陰で、何事もなく無事に交換留学を終えることができました。研究面や語学力など各々の課題も見つけることができました。来年1月にはタイより交換留学生が来日されるとのことで、学生一同楽しみにしています。

#### 【感想】

私にとって短期留学はこれが初めてで、初めて訪れるタイで初めて出会う現地の方々と行動を共にし、とても刺激的な10日間でした。チュラロンコン大学の学生はとても親切な人達で、彼らのおかげでタイの薬学や文化など楽しく学べました。ぜひまた機会があればタイに行つて会いたいです。この度、このような貴重な経験をさせて下さったチュラロンコン大学の先生方、学生の皆さん、並びに長崎大学薬学部学務の方、引率の淵上先生、その他留学に関わって下さった皆さんに感謝申し上げます。(池水)

タイでは非常に密な1週間を過ごすことができました。特に朝から晩までタイの教員及び学生と時間を共にし、研究テーマ、将来の選択、タイの衣食住について話し合えたことが貴重な経験でした。また、今回はチュラロンコン大学のVipaporn先生がベルリン製薬の中を見学する機会を作ってくださいました。海外の製薬企業の中に入り、製薬企業の歴史を学び、研究所や生産工場を見学することができました。実際に薬が打錠になり、箱に詰められるまでを見学できました。休日にはチュラロンコン大学の学務のPanさんがアユタヤに連れて行ってくださり、ミャンマー軍に切り落とされた仏像の見学など歴史を学びました。アユタヤは日本人の観光客が多く、日本語ばかり聞こえてきたため不思議な感じがしました。(岡見)

タイでの経験は全てが新鮮でした。現地の方々の優しさに触れ、勤勉さに感化され、自分自身について深く考える良い機会となりました。今回の留学に関わって下さった皆様に心より感謝いたします。(末廣)

今回の留学は私自身初めての海外留学であり、言語など不安も多くありましたが、実際にタイに到着すると、タイの学生をはじめとして皆さんとても親身にお世話してくださり、また不安だったコミュニケーションに関しても、最後の方は気兼ねなく話せる友人ができました。タイの文化に触れ、またタイの薬学生の研究生活や日常生活を知れたことは日本に在るだけでは知る機会は無かったと思います。この留学制度は今後も続いてほしいですし、後輩たちにも積極的に勧めようと思っています。最後にこの留学に関わって下さった全ての方に感謝いたします。(棚原)

タイへの留学は、海外の創薬研究や異文化交流といった普段の日常生活では味わうことのできないことを経験する素晴らしい機会となりました。今回できた繋がりを大切にしながら、留学で学んだことをこれからの実生活にも生かしていきたいです。本プログラムを支えて下さった淵上先生、薬学部学務の方々、同窓会、現地で共



に学んだ学生、この留学に関わって下さった皆様に心より感謝致します。(堤)

今回、タイへ渡航するのも短期留学自体も初めてだったため、戸惑うことはありましたが、特に大きな問題も無く無事にやり遂げることができました。外国の学生と触れ合う機会はなかなか無いため、短い期間ではありましたが、大変良い経験となりました。今回留学して感じたことや経験を忘れず、今後の学生生活に生かして過ごしたいです。最後に、淵上先生をはじめ、この留学の開催を支援して下さった学務の方、その他スタッフの方、学生のメンバー皆様に感謝申し上げます。(西川)



今回の留学は、タイの創薬について学び、文化を肌で感じることができる貴重な経験になりました。研究室見学をする中で1番興味深かったのがCosmetic Chemistryの分野です。実際に現地の学生と自分のたちの手でリップスティックを作りました。化粧品が出来るまでのプロセスを知ることができ、大変興味深かったです。また、タイの観光地にも足を運ぶことができ、とても楽しかったです。最後になりますが、今回の留学に関わっていただいた全ての方に感謝申し上げます。(野田)

最後になりましたが、私たちが今回このような貴重な経験をすることができたのは薬学部創立125周年記念事業の寄附金(同窓会のご支援)のおかげです。ここに改めて感謝と御礼を申し上げます。そしてこれからも本留学プログラムが次の世代へ、そのまた次の世代へと継続されていき、両校の親睦がさらに深まっていくことを心から願っております。

# 台北医学大学薬学部の臨床薬学トレーニングプログラムコースへの参加

相沢里佳・押川友紀・土井絹華・中原美南海・照井海人・陣林幸紀（学4）

2019年8月18日から8月25日の約1週間にかけて、薬学部薬学科4年次生6名が、台湾にある台北医学大学薬学部の臨床薬学トレーニングプログラムコースに参加しました。

本プログラムは学長裁量経費（充実分）「長崎大学日本人学生海外短期派遣プログラム等支援事業」に加え、薬学部125周年記念事業寄附金の支援を得て実施することができました。貴重な経験をする機会を与えていただき、長薬同窓会会員の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

本プログラムは、台北医学大学薬学部が毎年夏季に開催している短期研修コースで、本学からは薬学科の学生が毎年1～2名参加しており、台北医学大学附属病院の薬剤部見学と薬学部の研究室での実験体験や学生との交流が主な内容となっています。今回は、6人の学生をそれぞれの希望に応じて、研究内容が異なる4つの研究室に分け、それぞれの研究室で行われる研究内容に関連する実験方法を約一週間で習うと共に、学生や先生と交流を深め、さらに、市中の漢方薬局や大学付属病院の薬剤部（導入した最新の調剤システム等）を見学しました。

## <参加者の感想>

### ●相沢里佳

台北医学大学薬学部では薬品分析化学研究室に参加させていただきました。この研究室で行われている実験内容などの説明や、実際の実験も少しだけさせてもらいました。台北医学大学の学生はとても英語のレベルが高



く、教授とも中国語だけではなく英語でもコミュニケーションをとっていました。初めの数日間は説明される英語を聞き取り、理解することで精一杯でしたが、途中からは自分からも説明に対して進んで質問することができました。

中国の伝統的な薬局の見学では、たくさんの生薬が形ある状態で陳列されていました。日本では使用が禁止されているサソリなども置いてあり、実物は見たことがなかったのととても興味深かったです。台湾の方によると、こういった伝統的な薬局は今までは親から子へと継承式であったが、現在では薬剤師になるためにはライセンスが必要であり、昔と比べて薬局の数が減少しているそうです。陳皮をお湯に入れたものを飲まさせていただいたのですが、オレンジの風味はほとんどなく、とても甘い飲み物でした。台湾では、生薬が処方箋なしで買うことができ、人々の生活にとっても密着していました。日本では、体調が悪いと病院にまず行きますが、台湾では最初に薬局に行く人が多いそうです。日本は、医療費による財政負担が大きいので医療費削減のためにも台湾のように薬剤師に気軽に相談できるような環境があるといいなと思いました。

一週間の台北医学大学薬学部への短期留学を通して、今まで経験したことのない体験をたくさんすることができました。また、改めて英語の大切さを認識することもできました。日本では英語を聞いたり、読んだりする機会はあったのですが、自分から文章を組み立てて英語を発することはなかったため、とても良い経験ができました。このプログラムに参加できてとてもよかったです。

### ●押川友紀

研究室では、短期だったため基礎的な実験操作のみさせていただきました。しかし、大学で私がやっている研究に近く、視野を広げることができました。院生とのコミュニケーションはすべて英語だったので、大学の基礎実習でやったような内容でも、難しく感じました。自分の研究を院生に紹介するのも英語だったので、思うように伝えられず、論文を読む力だけでなく、リスニング力と話す力のどちらも研究を行っていく上で大切なのだと気づきました。

また、病院見学では施設が台湾の中枢に位置しお金持ちが多いため、保険外の治療も多く行われているらしく、とても設備の整った病院だと感じました。他の病院の薬剤部を見たことがないので比較ができませんが、薬剤部自体はコンパクトで色んな薬品が所狭しと並んでいる印象だった。全自動の分包機を導入しており、多くの患

者の処方箋をミスなく調剤するには、機械化が必要だと思いました。薬剤保管庫は回転式であり、欲しい薬剤を取るまでに回転する待ち時間があるため一見効率が悪そうに感じました。しかし、「1人1人に必要な薬をその都度作る」という今の処方スタイルから、「一日にこの薬をどれだけ使うから用意しておく」というスタイルに変更しようとしているという説明を受けたあとでは、回転式の方が在庫管理も調剤もしやすいのだと納得できた。海外の病院薬局を見学できる機会はほとんどないので、貴重な経験ができたと思います。



#### ●土井絹華

台北医科大学の近くにある漢方の薬局に連れてってもらい、様々な漢方を実際に見せてもらいました。

台湾(中国)では、漢方はひとつの医療として成り立っているため実際に漢方医が診察を行い、その人に合った漢方が処方される。基本的には日本と同じ生薬が配合されているが、台湾ではその配合量が個人によって異なります。また、日本では使われていない生薬も台湾では使われていた。サソリや鹿の角に分泌腺など日本では規制されているものもあり、台湾の生薬数は日本の10倍近くあると言われていました。

日本では体調が悪いときに漢方を飲むイメージであったが、台湾では漢方がもっと身近にあり、実際に私たちの指導をしてくれた博士課程の方も訪れた薬局で陳皮を買って飲ませてくれた。初めて陳皮を飲んだが、甘くなく苦くもなく不思議な味がした。台湾では会話が全て英語であったため、最初は全然理解ができなかった。毎日



聞くことでだんだん慣れていき、少しずつ分かるようになってきました。それがとても楽しかったです。しかし、同時に自分の英語力の無さを痛感しました。もっと英語がわかるようになりたい、もっと英語が話せるようになりたいと感じました。

また、薬学の面でも非常に勉強になったと思います。たとえば、私は普段HPLCを研究室で扱っていないため、操作の仕方やどのような原理なのか一度勉強していたもののすっかり忘れていました。しかし、再度勉強し実際に操作を見ながら説明を受けることで前よりも定着したと思います。他にも、研究室での生活は普段やっていないことばかりだったのでとても刺激になったし、これからきっと自分の知識として役に立つと思います。

台湾と日本の漢方の違いについてももしっかり学びました。私は1年生の時に病院や薬局の見学に行っていないため実際に日本の臨床現場はまだよくわからないのですが、実習にいったときに見比べてみようと思っています。

今回の留学は1週間と短い期間ではありましたが、様々な事が学びました。またこのような機会があればぜひ参加したいと思っています。

#### ●中原美南海

海外に行くのも初めてだったので不安でいっぱいでしたが、台北医学大学の先生や学生はとても親切にしてくださって、台湾の文化に触れながら楽しく学ぶことができた。研究室では英語でコミュニケーションを取らなければならなかったが、自分の言いたいことがなかなか言葉にできなかったり、相手の言葉が聞き取れなかったりしがしばしばあり、英語力を伸ばさないといけないと感じた。しかし、3日目くらいからは少しずつ英語を聞くことに慣れてきて、積極的にコミュニケーションをとれるようになってきたので、やはり英語は使うことが大切だと思った。

研究室で行っていた実験は、論文で読んだことのあるものや自分の研究につながるものもあり、基礎知識が少しあったため理解しやすかった。私は修士1年の学生さ



んに主に教えていただいたが、とても実験の手際が良く、説明も上手で刺激を受けた。

台北医学大学病院も見学することができ、薬剤部を隅から隅まで見せていただいた。かなり自動化が進んでおり、やはりこれから薬剤師は調剤ができるだけではいけないのだということを感じた。また、日本の病院薬剤部の状況についてもっと知りたいと思った。

最初は不安もあったが、貴重な経験をしてかなり充実した一週間を過ごすことができ、参加して本当に良かったと思った。

#### ●照井海人

私は薬学部・卓爾婕先生の自然マテリアル研究室にて実験に参加しました。私が特に参加したのは研究室の学生とほかの留学生たちが行っている、新規領域の抗がん剤や太陽光パネルの防汚物質をはじめとした物質（ナノマテリアル）の効果を細胞培養や細菌の生育度合いなどの観点から評価する研究です。私は普段薬物治療学研究室での動物実験を多くしているので、今回の研究では論文でしか見たことがない、または全然聞いたことのない実験方法を知ることができたことが勉強になりました。自然マテリアル研究室には、ほかのプログラムで実験に参加している学生もおり、英語と中国語が飛び交う光景が多くみられ、面白かった。僕は趣味で中国語を、いつの間にか6年勉強しているが、ネイティブのペースにはついていけない時が多い。そういう時には相手に漢字を見せて合っているか確認を取ったり、引率の北里先生に説明していただいたりして、コミュニケーションをとった。英語だけの場所では、相手の話が分からなかったら確認を取るのも一苦勞で、質問したり訂正したりするのが億劫になってしまうだろうが、今回は積極的に質問出来、やり甲斐があった。

台北医学大学附属病院は台北市の比較的中心部に位置するおかげで裕福な患者による好意により設備投資が充実しているとの説明があったが、そのとおり、薬剤の一包化や薬品倉庫の情報管理、医薬品管理が地上と地下で連携が取れるように統合されているなど、まるで工場のようなようであった。薬剤師は地上一階の調剤室では流動的に薬棚だったり冷蔵庫から必要な薬を取り出しては、外来用に受付へ送り込んでいる。一方、地下一階は医薬品の



在庫管理や情報管理が行われているようで、薬剤師は蛍光灯の明るい照明の下、機械化された倉庫の操作盤やコンピュータに向きあっていて、一階に比べると無機質な淡々とした様子で業務にあっていた。以前長崎市の「みなとメディカルセンター」の薬剤部を見学させてもらったときにも、薬品情報室はやはり同じように無機質な、淡々とした雰囲気が印象的であった。薬局や薬剤部と聞くと真っ先に思い浮かぶのは調剤室のほうであるが、特にこうした大学病院や市民病院ともなれば、裏方の医薬品情報管理が重要になってくるという事なのだろうかと思った。

#### ●陣林幸紀

研究面では配属先された研究室は幸いにも自分の卒論内容と似たことをしていました。しかしタンパク質を同定するという目的やMS解析を使うという手法は一緒でしたが、そこに至るまでのプロセスが違って、一つの結果を求めるだけでもいろいろなアプローチの方法があることを実際に経験できました。今回の方法は基礎実習で既に習っているもので、自分の研究がうまくいかない時に今回の方法でも行なって、比較するのも面白いと思いました。また基礎実習で習った操作を英語でどう説明されるのかを知れましたし、その説明を実習をまだ行っていない他大学の子に日本語で教えるときの難しさも感じました。受け身から能動的に実習の内容を振り返って行うことで一つ一つの操作が何のためにあったのか分かって、理解が深まったと思いました。

留学面では研究室の院生同士は留学生が多いため英語でのコミュニケーションでした。話の輪にうまく入れなかったり、実験の内容理解にも時間がかかったりと、生活面だけでなく学習面でも英語力習得の必要性を身をもって感じました。

大学病院の見学自体が初めてだったので日本にある病院の環境と比較することはできませんが、私立病院ということだけありとても設備が整っていました。最新機器を用いることでより効率のよい調剤業務ができているのか薬剤部には余裕はあるように感じました。特に記憶に残っているのが、「将来的には患者に対する処方をするのではなく、処方量に対する患者への処方をする」という言葉でした。患者中心でなく薬剤中心にすることで、さらに薬剤師の仕事が調剤以外にも広げることできるという、今までの考え方と正反対の考え方をしていました。効率化だけに先走ってはいけませんが、保守的な日本の経営ではなかなか実践できない革新的なことだと思いました。

## 第55回薬学祭について

薬学部自治会 橋口 啓吾 (学3)

2019年11月2～3日に第55回薬学祭が開催されました。運営に際し、長薬同窓会から多くのご支援をいただき充実した学祭となりました。ご協力いただいた方々に深く感謝申し上げます。以下、各種企画の様子をお知らせいたします。

### 2日 (土)

- ・サークル模擬店:多くの方に訪れていただくことができ、すべてのサークルが成功を取めました。各サークルとも面白く、例年出店している商品があつて目を引きました。
- ・お茶会:薬学茶道部が薬学棟エントランスで開催し、学部生をはじめ卒業生、外部の方にもたくさん来ていただき、伝統を感じることができました。
- ・Bluemountainライブ:懐かしい曲から最近の盛り上がる曲を演奏して、会場を大いに盛り上げてくれました。
- ・球技大会1日目:球技大会としてバスケットボール、バレーボール、ソフトボール、フットサル、の試合が行われました。研究室チーム、学年チームが入り交じり、各種目で白熱した試合となりました。

### 3日 (日)

- ・1年生バザー:1年生が8班に分かれて出店しました。企画から準備や片づけを通して、1年生同士はもちろん、2年生以上の上級生とも交流を深め楽しむことができました。
- ・お笑いライブ:各種サークルから精鋭が集い、練り上げたコントで会場を大いに沸かせました。
- ・自治会出し物:お笑いネタの披露、ビンゴゲームを行いました。ビンゴゲームは多くの方に参加していただき、盛り上がりました。
- ・球技大会:2日と3日の二日間にわたって行われ、1日目の試合を勝ち進んだチームが決勝トーナメントに挑みました。前日よりさらに盛り上がり、目が離せない試合ばかりでした。結果は以下の通りです。

バスケットボール	
優勝	薬品分析化学研究室
準優勝	医薬品合成化学研究室
3位	ゲノム創薬学研究室
バレーボール	
優勝	1年生チーム
準優勝	薬剤学研究室
3位	薬化学研究室
サッカー	
優勝	薬剤学・治療薬剤学合同研究室
準優勝	1年生チーム
3位	細胞制御学研究室
ソフトボール	
優勝	細胞制御学研究室
準優勝	医薬品合成化学研究室
3位	医薬品情報学研究室



## 白衣贈呈式

安河内ゆうと（学1）

夏期休暇を終え、薬学部1年生一同気持ちを新たに臨んだ後期初日の令和元年9月26日、いまだ残暑が続くなか、長薬同窓会のご支援のもと白衣贈呈式を執り行って頂きました。1年生を代表し、深く感謝申し上げます。

長崎大学薬学部は2008年にノーベル化学賞を受賞された下村 脩博士をはじめとする、多くの卒業生を輩出し、日本医薬界の発展に尽力されていることと存じます。また、長薬同窓会は長い歴史をもち日本の医薬界の第一線でご活躍されている先輩方が籍を置き、白衣贈呈以外に

も講演会など様々な形で御後援頂いております。

今回頂いた白衣の左袖には月桂樹と柏の葉があしらわれております。古くはローマ帝国で闘技会の卓越した者に与えられたのが起源とされる月桂冠。将来日本の医薬界の中で「卓越者」となり、長崎大学薬学部卒業生のご功績、ご活躍に追随できるよう1年生一同学問に精進し還らざる学生生活にしたいと思っております。また、いただきました白衣は実習等で活用させていただきます。本当にありがとうございました。



## 旧小野島校舎跡記念碑清掃

池田 朝美（平28）

令和元年11月25日、小野島校舎跡記念碑の清掃を実施しました。小野島記念碑周辺は、諫早市により清掃されていましたが、記念碑の清掃と、周辺の落ち葉等の掃除を、長薬同窓会役員平成28年卒業の池田が行いました。





# 研究室だより

## 細胞制御学研究室

准教授 谷村 進

現在、当研究室は武田弘資教授と谷村進准教授の2名のスタッフが率いています。2019年3月に、博士後期課程1名、博士前期課程1名、薬学科1名が修了、卒業して、企業の研究開発や病院薬剤師として活躍しています。4月には、薬科学科の卒業生2名が博士前期課程進学し、10月には3年生(薬学科1名、薬科学科4名)が新しく配属され、博士後期課程3名、博士前期課程5名、薬学科生9名、薬科学科生7名、総勢26名が所属しています。

研究室のテーマは、これまで一貫して細胞内シグナル伝達機構の研究を行っています。具体的には、「ミトコンドリアのストレス受容・応答機構」、「炎症制御におけるミトコンドリアの機能」、「マクロファージ系細胞の炎症誘導性細胞死の機構」、「細胞運動の分子機構」の4つの研究課題について、グループに分かれ、お互いに協力し合い、また刺激を受け合いながら、日々研究に打ち込んでいます。

また、近年では武田教授が先端創薬イノベーションセンターの創薬探索部門長を兼任し、長崎大学独自の海洋微生物抽出物ライブラリーを活用した創薬スクリーニングの支援業務を研究室で担当しています。ここでは、海洋微生物抽出物ライブラリーの拡充を進めると同時に、活性成分産生微生物の大量培養、抽出物の大量調製、活性成分の精製を進めながら、学内外のたくさんの研究者の方々にライブラリーを提供し、アカデミア創薬の基盤

整備と、長崎大学発の創薬を目指して頑張っています。これに関連して、博士後期課程3年の本田詩乃さんが、9月に長崎県庁大会議室にて開催された「長崎学生ビジネスプランコンテスト2019」でKabuK Style賞を受賞しました。このコンテストは、長崎県内学生の起業マインドを高め、将来の県内企業創出を図ることを目的としたもので、「長崎の地域特性を生かした医水連携海洋資源活用型創薬」というテーマで受賞し、非常に高い評価を受けました。また、研究室の博士前期課程1年の学生が他学生6名と引率教員1名とともに、2019年9月10日から19日にかけてタイ王国のチュラロンコン大学薬学部を訪問し、科学技術体験コースを体験しました。このように、研究室内での活動にとどまらず、研究の視野を広げるために積極的な活動をしています。

研究室のイベントでは、長大祭の期間に開催されるスポーツ大会に参加し、ソフトボール2位、バレーボール3位、フットサル3位と3部門でベスト3に入る快挙を成し遂げました。夏の研究室旅行では、阿蘇周辺の大自然を満喫しました。また、子々川の臨海研究所で毎年恒例のバーベキューをやりましたが、今年もOB、OGの皆さんにも参加していただくことができ、ラボメンバーの交流を図ることができました。

ワクワクするような研究成果を挙げるために、日々のたゆまぬ努力を惜しまず、時には息抜きをしながら、ラボメンバー一同、頑張っています。



## 創薬薬理学 ～植田弘師先生のご退職記念シンポジウム 「長崎サイエンスフォーラム」の開催～

准教授 塚原 完

平成31年3月31日に、創薬薬理分野（旧分子薬理学分野）の植田弘師教授がご退職されました。京都大学時代から始まり、長崎大学薬学部での22年間にわたるご研究・教育活動でのご功績を讃え、平成31年3月2日（土曜日）に、植田弘師前教授の退職記念シンポジウム「長崎サイエンスフォーラム」を開催いたしました。

文教スカイホールで開催されたフォーラムには、卒業生をはじめ植田先生にご縁の深い学内外の先生方を含め約120名の聴講者にご来場いただき盛会となりました。式は、宮前文明先生（国際スズキメソード音楽院フルート科, Levine Music Suzuki and Traditional Flute, ピッツバーグ大学病院精神医学研究部門）によるフルート演奏から始まりました。宮前先生は、植田先生が横浜市立大学に在職された当時の学生で、現在は米国で医学研究と音楽活動を両立して世界的にご活躍され、素晴らしい生演奏とスピーチを頂きました。その後、植田先生に所縁のある次の4名の先生方からご講演を賜り、最後に植田先生による最終講義を拝聴しました。

五嶋良郎先生（横浜市立大学大学院医学研究科）は、「シナプス前受容体から成長円錐制御へー浦舟町事始め」と題して、横浜市立大学で植田先生の厳しい指導のもとに昼夜を通して実験に邁進され多数の論文をご発表されたことを教えて下さいました。吉原良浩先生（理化学研究所脳神経科学研究センター）は、「はじめはKyotorphin：痛覚から嗅覚、意識への研究展開」と題して、京都大学で植

田先生とともにされたご研究から現在のご研究までの展開についてご紹介下さいました。植田先生と奥様との馴れ初めの話題もあり、会場は大変盛り上がりしました。さらに、井上誠先生（イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校）から、「植田研で培った研究基盤と神経免疫研究」と題して、長崎大学で教授となられた植田先生から学ばれたご研究と、研究マインド、そして現在の米国での独立した研究生活についてお話を頂きました。最後に、植田先生との京都大学時代からのご友人であり、共同研究者でもある渡辺恭良先生（理化学研究所生命機能科学研究センター）から、「生体イメージングを中心とした健康・病態科学研究」と題して、ご自身の最先端の研究についてご講演を頂きました。

植田先生による最終講義「研究者人生・これまでの思い出」では、京都、横浜、米国留学、そして長崎と、長きにわたる植田先生のご研究・創薬活動の成果についてわかりやすくお示し頂き、その社会貢献度の大きさもよくわかるご講演に感銘を受けました。現在も、京都大学にてご研究を続けておられ、この最終講義の時にも、終わりではなくこれが「始まりである」と仰っていたことが大変印象的でした。

その後の懇親会（料亭二見）ではご家族を含め学内外の先生や卒業生計86名の参加を賜り、中盤では「変面ショー（姜鵬伝統文化事務所）」などの催しもあり、大変盛り上がりしました。ご来賓挨拶として石原淳先生（長崎大学薬学部）、金井好克先生（大阪大学医歯薬）、川尻慎一先生（日本医療研究開発機構）にスピーチを頂戴し、さら



には、清水康博先生（長崎大学工学部）、小澤寛樹先生（長崎大学医歯薬）、三澤日出己先生（慶應義塾大学薬学部）、山川富雄先生（日本ケミファ）にも、植田先生との楽しいエピソードをご紹介頂きました。最後に吉田明先生（日本医療研究開発機構 国際事業部; 発起人代表者）よりご挨拶を頂き、惜しまれながら閉会となりました。植田先生は終始穏やかな笑顔で過ごされ、参加者との歓談

を心から楽しんでおられました。特にお子様からのサプライズの花束に、甚く感激しておられたのが印象的でした。

植田先生を囲んで参加者間の交流も大いにでき、終始和やかな雰囲気の大変良い会となりました。ご参加くださいました先生方ならびに、ご寄付や心温まるお祝い電報、お花束、等を頂戴しました皆様方には心から感謝申し上げます。大変有難うございました。

## 薬化学

博士前期課程2年 久壽米木直弥

平成最後の3月までの薬化学研究室は26人と大所帯でデスクも共用で使っていましたが、学生・院生の卒業・修了により4月には残ったのが13人と半減し広々としたデスクを楽しむ日々を過ごしていました。10月の新配属では、フレッシュな3年生が新たに6人加わり研究室もまた賑やかとなりました。3年生たちは新たな環境に戸惑うこともありましたが、とても生き生きとしており日々熱心に勉強や実験をしています。さらに現在、中国から留学生の謝君がおり、英語でコミュニケーションをとることも多くなっています。現在は、4年生、6年生、M2が卒論と修論発表会に向けて忙しい日々を送っています。

毎年行われている研究室対抗ボウリング大会では薬化学研究室はここ数年上位の成績でしたが、ボウリングの上手い先輩方がいなくなったため、今年は10位と悔しい結果となりました。しかし、M2の池田さんが個人賞をとり、とても盛り上がりました。景品にお酒をもらい皆でおいしくいただきました。最近は隣の研究室の方と合同で飲みニケーションを行うことも多く、行事の2次会などではとても良い交流をしています。また、学祭への

取り組みも活発で、スポーツ大会ではここ数年多くの種目に参加しています。薬化学研究室はチームワークを活かした総合力で勝負し、どの種目でも盛り上がりを見せています。特にバレーは毎年上位で、今年も3位入賞という結果となりました。研究室行事としては、今年もキス釣りやクリスマス会なども行っており、おいしいごはんやお酒をいただきよい気分転換となっています。今年の研究室旅行では、太宰府天満宮、吉野ケ里遺跡に行ったり、リンゴ狩りをしたりと非常に楽しい思い出を作ることができました。

また去年は、D3の梅野さんが薬学会九州支部大会で「配座自由度を制限したペプチドフォルダマーによる不斉触媒反応の開発」で優秀発表賞を受賞されました。さらに、今年は大庭先生が有機合成化学協会九州山口支部奨励賞を受賞されました。私的には、梅野さんの結婚式が行われたり、助教の上田先生のお子さんが生まれたりと非常にめでたい年となりました。

来年も様々な良い報告ができるように努めてまいりますので、どうぞよろしくお祈りします。



## 薬品製造化学

博士前期課程2年 川崎則彦

現在、薬品製造化学研究室は石原教授を含め教員3名、大学院生7名、学部生11名の総勢21名の大所帯となっています。近年の大きな出来事としては、平成30年1月に福田隼准教授が北海道大学より赴任され、さらに、平成30年10月には当研究室の卒業生である小嶺敬太助教(平24)が来られたことで、教員3人体制となりました。なお、今年度5月には前教授の畑山 範 教授が長崎の地を離れ、仙台の方へ移住されました。

薬品製造化学研究室では、特異な生物活性や構造を有する天然物の合成を研究の柱としており、近年では、創薬を目指した合成品の活性評価を目的に、本学部の他研究室や他学部との共同研究も行っています。

M2の大森君、岡君、川崎君、福島君、山本君は博士前期課程も終盤に差し掛かり、修論発表会も控え、各研究テーマに精力的に取り組んでいます。M1の堤君もまたターゲット分子の全合成達成に向け、日夜努力しています。学部4年生では、菊岡君、岸本君、久保田君、坂田君、佐藤君が卒業研究に精を出しています。朝ゼミや土曜日セミナーも継続しており、昨年からは大学院生を対象としたゼミも始まり、有機化学の実力向上のために努力しています。また今年度10月から新しく5名の学部3年生、大橋君、岡野君、片柳君、古賀さん、二宮君が仮配属されました。慣れない研究室生活で日々の生活リ

ズムも様変わりし、大変そうですが、先輩から知識や技術を学ぼうと熱心に作業を続けています。

研究室行事としては、つい先日行った新3年生の歓迎会である「芋煮会」を始め、例年同様に研究室旅行や忘年会などを企画し、ハードな研究室生活の中での良い気分転換の機会となっているものと思います。今年の旅行は熊本県人吉市に行き、鍾乳洞探検やラフティングなどいつもの生活では体験できない非日常を思う存分楽しみました。

本学で開催している招待講演では昨年度からの一年間で砂塚敏明先生や鈴木啓介先生といった御高名な先生方を講師の先生にお招きし、普段中々聞くことのできない非常に深いお話を拝聴し、多くのことを学べる機会となっています。

ここ数年、九州及び長崎で多くの学会が催されており、特に長崎での開催としては平成30年複素環討論会、テルペン討論会が挙げられます。当研究室からも複素環討論会では1件の口頭発表と5件のポスター発表、テルペン討論会では1件の口頭発表で参加しました。また、今年度11月には日本薬学会九州支部会が久方ぶりに長崎大学で行われます。当研究室の5名のM2も口頭発表でエントリーしているため、現在忙しい日々を送っています。



## 医薬品合成化学

博士前期課程1年 海江田雄哉

本年度の医薬品合成化学研究室は、尾野村教授、栗山准教授、山本助教のご指導のもと修士2年生5名、修士1年生4名、学部6年生1名、学部5年生1名、学部4年生4名、学部3年生4名の計22名で研究を積み重ねています。研究テーマは、複素環化合物や含フッ素化合物の合成に関する方法論の開発をはじめとして、環境に優しい合成手法や触媒的な不斉合成法を追求するなど多岐にわたって展開されています。昨年には尾野村教授がご還暦となり、同窓会が行われました。今年度からは薬学部長に就任され、お忙しい日々を過ごしておりますが、学生に対する丁寧な指導はいつも変わりません。また、栗山准教授が第2研究室を中心に、山本助教が第1研究室を中心に学生の指導を担当されています。

学生は、日々集中して実験に取り組んでいますが、時には先生や先輩と熱くディスカッションする声も聞こえてきます。食事の時間になると同級生や先輩方と楽しく会話を楽しむなどして「オンとオフ」を切り替えて研究生生活を送っています。10月には、3年生4名が卒業研究生として仮配属され、新しい顔ぶれが加わりました。3年生は、これまでとは異なる学生生活に四苦八苦しながら有機化学の知識や実験技術を学んでいます。指導を担当する古参の学生も、新人の実験指導にあたり忙しく過ごしています。このような指導に加えて、修士2年生は修士論文、修士1年生は学会発表、6年生と4年生は卒業論文をより高いレベルにすべく日夜奮闘しております。

す。当研究室は学会にも積極的に参加しており、11月中旬に長崎大学で開催される第36回日本薬学会九州支部大会では、修士課程の学生全員が口頭で発表を行う予定です。

当研究室は元気のある学生が多く、研究活動はもちろんですが、イベントも非常に盛り上がります。例えば、5月に行われた研究室対抗ボウリング大会では、先輩方の伝統を引き継ぎ、どの研究室よりも力を入れて挑みました。新歓コンパ、忘年会、追いコンなどの飲み会に加えて、キス釣りや研究室旅行などの恒例イベントは現在も引き続き行っており、私達学生にとっては息抜きとなる至福のひと時です。直近では、11月上旬の学園祭で行われた薬学部スポーツ大会においてソフトボールとバスケットボールで準優勝を果たしました。どの競技も未経験者が多くはありましたが、チームで団結して戦うことで好成績を収めることができました。

この様に当研究室ではメリハリを意識することで研究活動もイベントも全力で取り組み、充実した研究生生活を送っています。今後も各々がより良い研究成果を真摯に追求し、論文発表や学会活動において活躍できるよう努力して参ります。末筆ではございますが、長薬同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げ、近況報告とさせていただきます。

2019年11月6日



## ゲノム創薬学

博士後期課程3年 八田大典

当研究室に配属されてから早6年が経ち、学生として過ごす日々も残り僅かになりました。配属当時から現在に至るまで、人員の出入りに伴い研究室の雰囲気も移り変わってきましたが、どの時代にも、それぞれの魅力があったと懐かしく回想しています。一方、時代を越えて受け継がれている伝統もあり、その一つがスポーツ大会に向けて全員で練習に取り組みワンチームになることです。2018年11月に行われたスポーツ大会では、フットサル優勝、バレー準優勝を果たしましたが、成績以上に研究室員同士の絆が深まるのが最大の収穫だと感じています。

2019年3月には、文武にわたり大活躍した3名（博士前期課程：沖田啓、藤本康平；薬学科：永井大己、敬称略）が修了・卒業し、当研究室を巣立っていきました。4月からは薬学科6年の於久祐己と長井京介が中心となって、研究室の活動を盛り上げてくれています。5月には毎年恒例のバーベキューが子々川の臨海研修所で行われ、炭火を囲んで、楽しい時間を過ごしました。6月に行われた研究室対抗のボウリング大会では、昨年に引き続き、2位という悔しい結果に終わりましたが、優勝はまさかの学務係チームでしたので、その後の打ち上げの時に、研究室の中では1位だよねという結論で一致しました。個人の部では博士後期課程3年の堀祐真が見事優勝を果たしました。8月には研究室旅行としては初めて上五島を訪れました。行きのフェリーが想像以上に激しく揺れ、その中でトランプを強行したせいで、私を含め多くの人が船酔いになり、到着時にはゲッソリとしていましたが、今となっては良い教訓であり、素敵な思い出です。上五島では、世界遺産の教会を真面目に見学した後、夕食では、今年2度目のバーベキューを楽しみました。2日目には綺麗な砂浜で海水浴を楽しんだ後、濡れたままレストランに行くと、店員さんに怒られました。全力で楽しみながらも、学ぶべきことの多い研究室旅行だったと思います。9月には博士前期課程1年の池

水文香がタイのチュラロンコン大学に短期留学し、学んだことを皆の前で面白く発表してくれました。留学先で肌年齢を測定したそうですが、結果は教えてくれませんでした。10月からは6名の3年生（薬学科：濱田麻希、藤井美里；薬科学科：石井豪、岩元史織、奥田泰生、米須拓也）が新たなメンバーとして加わり、研究室の活気がより一層増しました。

研究に関しては岩田修永教授、城谷圭朗准教授の指導の下、研究室一丸となって取り組んでいます。先輩が後輩に実験操作や論文の読み方を教えたり、知識や技術、汎用試薬を皆で共有したりなど、良き伝統を受け継ぎながら、協力して研究を進めています。毎週のディスカッションや年に2回の中間報告会、年に3回の文献紹介にも精力的に取り組んでいます。研究業績も上がってきており、2019年3月に開催された長崎大学薬学部分野横断型卒業研究ポスター発表会において、博士前期課程1年（受賞時、薬科学科4年）の太田遼佑が優秀ポスター賞を、同年7月に開催された令和元年度大学院生合宿研修（九州薬科学研究教育連合主催）において、博士前期課程1年の永田健太郎が優秀者賞を、同年9月に開催された第3回育薬研究教育センター若手シンポジウムにおいて、私が優秀発表賞を受賞しました。また、2019年5月には城谷准教授を筆頭著者とする論文が英文雑誌Scientific Reportsに掲載され、2019年10月には私を筆頭著者とする論文が英文雑誌FASEB Journalに受理されました。私自身、5年以上に渡って試行錯誤を繰り返しながら進めてきた研究を論文にできたことを嬉しく感じると共に、これまで研究をサポートしてくれた方々への感謝の気持ちでいっぱい입니다。

このように過去も現在もゲノム創薬学研究室は文武両道の精神のもと、チームとして団結しながら何事にも真摯に取り組んでおり、その努力が成果として現れてきていると思います。今後も研究室員一同、力を合わせて頑張っていきたいです。



## 天然物化学

博士課程4年 若松初実

薬学部4年 山本崇太郎

現在、天然物化学研究室は、田中隆教授、齋藤義紀准教授、松尾洋介助教（平15）のご指導のもと、博士4年（1名）・博士後期1年（1名）・博士前期1年（3名）・学部6年（3名）・学部5年（2名）・学部4年（4名）、そして今年9月に学部3年（5名）が新しく加わり、計19名で日々、研究に邁進しております。

3月にそれまで一緒に切磋琢磨して研究に取り組んできた学生が卒業し、寂しい思いをしておりましたが、4月からまた新たなメンバーで様々なイベントを体験し、よりいっそう研究室に活気が満ちてきているように感じます。そのきっかけとなったのが、毎年恒例5月に開催される当研究室と薬用植物学研究室合同の植物観察会で、今年はながさき県民の森を散策しました。季節の植物を観察することにより植物の知識が増えると同時に、研究室の仲間との絆を深める良い機会になりました。さらに6月には基礎実習があり、後輩たちに知識や技術を伝える難しさや楽しさを感じると共に、自身の知識や技術の習得にも繋がりました。

また、当研究室は学会に積極的に参加しており、日本薬学会第139年会（3月、千葉）、第61回天然有機化合物討論会（9月、広島）、日本生薬学会第66回年会（9月、東京）、第63回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会（9月、秋田）、第8回食品薬学シンポジウム（10月、静岡）等で多くの学生が研究結果を発表しております。さらに、第8回食品薬学シンポジウムにおいては、特に優秀な発表を行った発表者に送られる優秀発表賞を、川副里菜さん（博士前期課程1年）が受賞しました。

9月には3年間研究室に貢献してくれた Joanna Orejora

さんが博士号を取得してフィリピンに帰国され、入れ替わりに新しく学部3年生が研究室に仮配属されて、若くフレッシュな風を運んで来てくれています。メンバー間の親睦を深めるために、歓迎会も兼ねて日帰り研究室旅行（10月、西海市）に行きました。始めは緊張した面持ちの3年生でしたが、旅行が終わる頃には研究室のメンバーに溶け込んでいました。

11月には6年生の卒業論文発表会および第36回日本薬学会九州支部大会が長崎大学で開催されます。論文作成や学会発表では先生方からの厳しい指導のもと自分の言葉で伝える事の難しさを感じ、試行錯誤しながら各々が懸命に取り組んでいます。

（敬称略順不同）

2018年度3月修了・卒業生：江良 真名美（博士課程）・森川 仁美（博士後期課程）・片山 滉平（学士）・山崎 新平（学士）・廣谷 真優（学士）

2019年度9月修了生：Joanna Orejora（博士後期課程）  
2019年度在学生：若松 初実（博士4年）、胡 一鳴（博士後期1年）、清水 健吾（学部6年）、田中 純怜（学部6年）、宮城 知佳（学部6年）、川副 里菜（博士前期1年）、末廣 彩（博士前期1年）、山下 貴子（博士前期1年）、柴田 翔生（学部5年）、高橋 龍磨（学部5年）、宮上 桐豪（学部4年）、山本 崇太郎（学部4年）、河崎 友昭（学部4年）、坂本 健太（学部4年）、福田 智志（学部3年）、藻利 翔（学部3年）、安松 美保（学部3年）、高吉 樹里（学部3年）、橋口 啓吾（学部3年）



## 機能性分子化学

薬学部4年 大山将大

当研究室に仮配属されてから今年の10月で1年を迎えました。昨年9月より様々なことがあったこの1年を時系列に沿って振り返ります。

2018年9月1日付で、山本剛史先生が米国国立衛生研究所より准教授として着任されました。1か月後の10月1日には私含む3年生6名が仮配属されました。オリエンテーションとして研究テーマや研究室のシステムの説明を受け、いよいよ始まるのかと結構緊張していたことを今も覚えています。

11月5日～20日の期間には2年生の基礎実習の担当が当研究室へ回ってきました。当研究室では「酢酸エチルの加水分解における反応速度論的解析」, 「アミノ酸のpKa, pI測定」の2種の実験を前後半に分けて行っています。2018年度は山吉麻子教授が着任され、新しい機能性分子化学研究室発足の1年目でしたので、とにかく人員不足でした。研究室配属から約1ヶ月の薬科学科3年生も駆り出され、色々と慌てふためきながらの実習補助となりました。しかし今年は主戦力としての参加になるでしょう。

11月20日には薬学科6年生の成田明寛さん、宗初枝さんの卒業論文発表が行われました。研究室新体制の直後かつ発表前の忙しい時期にもかかわらず、ご丁寧な様々なことを教えて下さったお二方に、この場を借りて厚く感謝申し上げます。

12月21日には研究室全体の大規模な大掃除を行いました。至る所から見つかる様々なサンプルや試薬が堆く積まれる様は圧巻で、まるで化石発掘現場のよう。古びた瓶に怯え、幾度も手袋を換え、大掃除終盤にはいささかハイテンションでした。無事に大掃除を終えた後は、いなか屋にて忘年会を執り行って一年のメとしました。

年が明けて2019年、平成最後の年です。1月17日には第1回機能性分子化学セミナーとして、国立循環器病研究センター研究所生体医工学部の山岡哲二先生をお迎えし、「脱細胞化スキャホールドによる再生医療」と題してご講演いただきました。ダチョウの頸動脈を素材とした小口径人工血管の開発というテーマで、研究の過程にしっかりとPDCAサイクルが回っており改めてその重要さを感じました。山岡先生は、山吉教授が学生時代に配属されていた研究室の助教授をされていた先生で、バイオマテリアル分野で現在でもアクティブに研究をされておられます。

3月7日に日本薬剤学会・超分子フォーカスグループの英語のセミナー(APSTJ Global Education Seminar 2018-3rd)が本学で開催され、山本准教授が研究成果を発表され、APSTJ Global Education Seminar Presentation Award 2018を授与されました。その堂々たる話し方を見ていて、読めてもまだまだ喋ることの出来ない私はもっと勉強しないとなあと思いました。

3月25日、この日は薬科学科4年生および薬学科6年生の卒業式でした。薬科学科の櫻井宏樹さんは引き続き博士前期課程へ進学され、薬学科の成田さん・宗さんは薬剤師国家試験に無事合格されました。今後のご活躍をお祈りしています。

令和の時代に突入し、5月31日には薬学部研究室対抗ボウリング大会が行われました。機能性分子化学研究室は6位の成績を収めました、おめでとうございます！私に関しましては、指の爪が割れたという痛々しい記憶がまざまざとまぶたに思い浮かびます。指に負担のかかるボウルを選ばないようにしましょう。

7月20日には高校生対象のオープンキャンパスが全学





で行われました。薬学部のオープンキャンパスは全体説明のち2つの研究室を見学・模擬実験を行うというものでした。まさかの台風5号強風域の最中のオープンキャンパスとなりましたが、特段被害も無く無事に終わりました。担当した高校生の中に同郷の方がおり一方的な親近感を感じました。

9月1日～2日には、京都府亀岡市にて遺伝子デリバリー研究会・第19回夏期セミナーを、当研究室と樋口ゆり子先生（京都大学薬学部）とで共同開催しました。当研究室からは6名（山吉教授、山本准教授および4年生4名）が参加しました。京都大学大学院理学研究科 杉山弘先生の招待講演、大阪大学大学院工学研究科 松崎典弥先生の依頼講演をはじめとして、全国の遺伝子デリバリーに関わる研究をされている先生方や企業の方が議論を交わされました。

9月26日には第2回機能性分子化学セミナーとして、東京工業大学生命理工学科 丸山厚先生をお招きし、「人工シャペロン高分子; 核酸, ペプチド, 脂質の構造・

機能強化」と題してご講演いただきました。核酸を用いた演算処理ができるというパートが個人的に最も興味深かった点でした。この機構によってこのタンパク質が出来て、と当たり前のように説かれることも一歩引いて見ると、生物とは機械以上の緻密さで制御されておりただただその完成度に感嘆するばかりです。

10月1日には博士前期課程を修了された小嶋厚弘さんが同博士後期課程へ進学されました。現時点で当研究室にはD2以上の学生は居ないため、私はじめ学生一同これからも色々尋ねることがあろうかと思いますが、この場を借りてよろしく願い申し上げます。そして同日付で新たに3年生が6人配属されました。皆さん元気です、どこからその体力が湧いてくるのでしょうか、おじいさんにも分けていただきたいです。

こうして振り返ると様々なことのある1年でした。これからも充実した1年を積み上げていきたいですね。それでは主戦力としての基礎実習が始まりますのでこれにて擱筆します。

## 衛生化学

博士後期課程1年 中家真理

衛生化学研究室の近況報告をさせていただきます。

2019年3月には当研究室の中山守雄教授が御退職されて、3月8日に最終講義、3月9日に退職記念祝賀同門会が行われました。また、2019年5月には名誉教授の称号を授与されました。退職記念祝賀同門会は、同門の方々の中山先生に対する想いの深さが伝わり、とても温かな会でした。また、退職記念祝賀同門会では、就職されている先輩方、同級生と久しぶりに再会したり、初めてお会いした先輩方と会話をしたり、多くの刺激を受けることができました。中山先生には、実験がうまくいかないときに助言をしてくださる

など、私が研究室に配属された時から大変お世話になりましたので、中山先生が御退職されて、とても寂しいです。

2019年3月20日の学位授与式では博士後期課程3年生3名、3月25日の学位授与式では薬科学科4年生3名、薬学科6年生2名、博士前期課程2年生3名の計11名が長崎大学を卒業・修了し、就職または大学院に進学しました。博士後期課程3年生の方々は、私が研究室に入ったばかりで何もわからないときから色々なことを優しく教えていただき、とても頼りになる存在でした。また、卒業・修了した同級生たちは、とても明るく、研究



室でのイベント、研究室が終わった後の飲み会、また、皆と過ごした毎日はとても楽しかったです。

2019年9月には当研究室の技能補佐員である成富洋子さんが御退職されることになりました。成富さんは、試薬注文・管理をしてくださるだけでなく、研究室の皆を温かく包んでくださるお母さんのような存在でした。まだまだ成富さんとお話したいことがたくさんあり、御退職されて寂しいです。当研究室は、最近、中山先生、成富さんの御退職や多くの研究室のメンバーの卒業・修了があり、研究室のメンバーが少なくなっていました。2019年10月には3年生5人が当研究室に仮配属されました。笑い声がよく響き、とても明るい3年生で、研究室がますます明るい雰囲気になりました。今年度も当研究室は新しいメンバーで頑張っていきたいと思います。

また、当研究室では研究室のメンバーと交流するために、研究だけでなく様々なイベントを行っています。5月

には恒例となっている、子々川でのキス釣りを行いました。今年は雨天だったので、皆で雨に濡れながらの釣りにりましたが、釣りの後のBBQも含めて研究室のメンバーの親睦を深める良い機会になりました。当研究室では、夏に毎年、研究室旅行にも行っています。今年は台風が多く、研究室旅行を計画してくれた幹事は大変だったと思いますが、今年の研究室旅行は佐賀へ行きました。研究室旅行も雨でしたが、某複合エンターテインメント施設でスポーツをしたり、忍者村で忍者のコスプレをするという新鮮な経験ができたり、とても楽しかったです。

最後になりましたが、当研究室の過去1年間の受賞歴をご報告します。淵上先生が2018年11月に平成30年度日本薬学会九州支部学術奨励賞、2019年3月に長崎県科学技術奨励賞を受賞されました。また、博士前期課程1年生の棚原君が2019年度大学院生合宿研修（九州薬科学研究教育連合主催）において優秀者賞を受賞しました。

## 薬品分析化学

博士後期課程3年 福田瑞穂

早いもので研究室に配属されてから7回目の秋を迎え、すっかり先輩歴が長くなってしまいました。今回は同窓会報の場をお借りして、研究室の近況を報告させていただきます。

薬品分析化学研究室は現在、黒田教授、岸川准教授（平10）のご指導の下、学部生8名と大学院生11名、計19名の学生が日々研究に取り組んでいます。さらにエジプトからの客員研究員やバーレーンからの留学生も在籍しており、日々慣れない英語に四苦八苦しながら異文化コミュニケーションを楽しんでいます。

薬学部は6年制の薬学科と4年制の薬科学科と二つの

コースに分かれますが、薬科学科の学生の多くは修士課程に進学するため、大方の学生が3年秋の仮配属から卒業・修了までの3年半を研究室で過ごすこととなります。分析では4年生から実験テーマを頂くとともに土曜セミナーへの参加が始まり、本格的な研究室生活が始まります。セミナーでは論文紹介や進捗報告を行っており、直前はバタバタとその準備に追われますが、数年前の自分と比べると人前で話す度胸は身についたように思います。また学会へ参加する機会も多く、九州分析化学若手の会（7月）では学部4年生の清野くんがベスト質問賞を、次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマ



フォーラム（9月）では修士2年の佐藤くんが若手研究者奨励賞をそれぞれ受賞しました。

8月には毎年恒例の研究室旅行があり、今年は1泊2日の日程で呼子と佐世保へ行ってきました。当日は朝からあいにくの雨で当初の予定は大幅に変更となりましたが、タイミングよく雨が止んだ七ツ釜でのクルージングや、突然の土砂降りですぐにテンションが上がってしまった花火、延々と最下位を決め続けた深夜のトランプ大会が特に思い出に残っています。いろいろとハプニングもありましたが、研究室の親睦を深めるいい旅行になりました。

10月からは2年生の学生実習が始まり、分析は今年もトップバッターを務めました。初めての実習に臨む2年生に実験の基礎を一から指導するのは何年目になっても若干の緊張感がありますが、2年生の分かった！という表情にやりがいを感じながら毎年頑張っています。今年も無事に8日間の全日程を終えることができ、打ち上げ

のお酒がおいしかったのは言うまでもありません。2年生にとって何かひとつでも印象に残る実習になっているといいなあと思います。

最近はというと直前に迫った長大祭のスポーツ大会に向けバレーの練習に励んでいます。数年前まではあまりスポーツが得意な研究室ではなく、私自身あっちやこっちにボールを飛ばしていた記憶がありますが、ここ数年で運動部出身が増え、ついに昨年はバレーで優勝を飾るほどになりました。今年も優勝を目指して、運動音痴の私は応援席から全力で声援を送ろうと思います。

最後になりますが、分析出身の皆様にも少しでも懐かしい気持ちを感じていただければ幸いです。特に私をご存知の近年の卒業生の皆様、ついに私も卒業年度です（笑）しばらくお会いできていない先輩方、同期、後輩たちにまた会えますようにと願いを込めて、終わりの言葉とさせていただきます。

## 薬物治療学

薬学部6年 本田依子

薬物治療学分野は現在、塚元和弘 教授、稲嶺達夫 准教授（平18）、社会人大学院生1名、学部生19名が所属しています。当研究室の最近の様子についてご報告したいと思います。

2018年3月に、准教授の近藤新二先生が退職されました。フランクながらも、時に厳しく指導されることもありましたが、たくさんの知識や考え方を教えてもらいました。近藤先生が行われていた「口唇口蓋裂の遺伝子異常」の研究は終了しましたが、分子生物学実験の手技は他の研究でも引き継がれています。さらに、2017年10月

より、塚元和弘 教授が長崎大学理事・副学長に就任され、教授職と兼任となりました。大学本部のお仕事、研究、学部教育と超多忙な様子で、なかなか研究室でゆっくりお話しする機会もとれなくなっています。塚元先生がほとんどご不在のなか、稲嶺先生と学生で研究活動を行なっています。

研究について紹介すると、遺伝子多型と疾患の相関解析の研究班は主に「クローン病のインフリキシマブ治療の治療効果」、「萎縮性胃炎の発症および進展」をテーマに研究を行なっています。また、疾患の発症・進展にお



ける遺伝子多型の機能解析の研究班は細胞を用いて、相関解析で同定した遺伝子多型のタンパクおよび細胞表現型への影響を明らかにしています。また、アメリカに留学していた稲嶺先生が復帰後、新しい研究テーマとして「腸内細菌と生活習慣病」の研究がスタートしました。これまでなかったマウスを使った実験に最初は戸惑いましたが、徐々に体制ができていきます。新しいテーマ、なくなったテーマ、色々ありますが、常に新しいことにチャレンジしながら頑張っています。

研究の他にも、研究室のメンバーで旅行に行ったり、ボウリング大会に出場したりして仲を深めています。今年の研究室旅行では、福岡県に行きました。マリナー

ルドに行き、糸島でバーベキューを楽しみ、芥屋の大門公園にあるトトロの森を散策するなどして、リフレッシュすることができました。計画してくれた4年生は大変だったと思いますが、思い出に残る、いい旅行となりました。また、今年のボウリング大会では、予想外の最下位という結果となりましたが、みんなで楽しんで盛り上がる事ができたので良かったです。

9月にはOさんがついに卒業されました。10月からは新しい室員（女子4名、男子1名）が加わり新体制となります。今後もみんなで協力しながら研究を進めていきたいと思えます。最後になりましたが、OB・OGの皆様のご健康とますますのご活躍をお祈り申し上げます。

## 医薬品情報学

博士課程3年 小川昂輝

医薬品情報学（旧医療情報解析学）分野は現在、川上茂教授（平7）、萩森政頼准教授（平13）のご指導のもと、8名の博士課程、5名の博士前期課程、19名の学部生が日々研究に励んでおります。博士課程のうち2名は日本学術振興会・特別研究員（DC2）に採用されております。2018年度には、6名の学部生、2名の博士前期課程学生、2名の博士課程学生が卒業・修了されました。そして、今年の10月には、6名の3年生が新たに加わりました。また最近では、海外からのメンバーも増え、1名の客員研究員と、3名の留学生が所属しています。それに伴い、英語を使う機会が増え、研究室内では英語でディスカッションしている風景が目につきます。

本研究室では、Drug delivery system (DDS) と臨床に関する幅広い研究を行っています。具体的には、1) 機能性ペプチドを利用した標的指向型DDSの開発、2) 超音波や吸引圧を利用した外部刺激応答性DDSの

開発、3) 組織内環境の多色深部イメージングによる空間分布制御型DDSの開発、4) エクソソームを基盤としたがん治療・再生医療への応用に関する研究、5) 医薬品適正使用のための、ジェネリック医薬品注射剤の配合変化に関する研究を行っています。DDSの技術は核酸/遺伝子医薬品、再生医療などの次世代医療の成功には必要不可欠と言われ、これらの医療が台頭してきた近年、当研究室での研究は非常に重要であると実感しています。また、当研究室は、企業や大学病院、他大学の先生との共同研究も積極的に行っており、学生も実験に参加する機会をいただくこともあるので、幅広い研究に携われ、多くの実験スキルを習得することができます。

医薬品情報学分野では、学部生・大学院生とも、実験を頑張ることで自分の研究に関して学会発表を行う機会をたくさん頂けます。2018年度は、日本薬学会、日本薬剤学会、日本DDS学会、日本バイオマテリアル学会、遺



伝子・デリバリー研究会などの様々な学会において、発表を行いました。研究活動の中で2018年には、研究室の学生が発表賞や学長賞など計11件の賞を獲得したことから、研究成果に関して高い評価をいただいております。

現在の研究体制は、学部学生ひとりに対して、大学院生のメンターがついて、実験計画・実験手技などの指導を行うという体制をとっております。学部学生と大学院生メンターは頻繁にディスカッションを行うことで些細なことでも気軽に相談できる環境づくりを心掛けております。また、2週間に1回、実験グループごとに集まって、川上先生と実験データや今後の実験に関してディスカッションを行います。

また現在、研究室内での論文紹介（セミナー）は夏休みや冬休みに集中して実施しております。特に大学院生は単報ではなく複数の論文について自分の力で系統的にまとめて発表しなければいけません。通常の実験と並行してセミナーの準備を進めなければならず、直前は大変で、発表では先生や先輩から、「ダメ出し」をたくさんされますが、その中で学ぶことは非常に多く、i) データの正確な解釈、ii) 周辺の研究の中での自分の研究の新規性、iii) 論理的に発表する力などを一回のセミナーで

学ぶことができます。

こうした研究活動の一方、研究室イベントにも盛んに取り組んでいます。5月の研究室対抗ボウリング大会、10月の新メンバー歓迎会、学園祭でのスポーツ大会、薬剤学分野との合同忘年会、3月の卒業生送別会の他、およそ月1回のペースでランチ会を行い、研究室の親睦を深めております。今年の研究室対抗ボウリング大会では3位、学園祭のバスケットボール大会では1位に輝きました。新メンバー歓迎会は、浦上の割烹ひぐちで行い、初々しい3年生が研究室での抱負を語ってくれました。その際、昨年度博士課程を修了され、現在PMDAで働かれている三浦雄介さん（平27）が偶然、卒業生講演会で長崎にお越しだったので、歓迎会にも来ていただき、仕事の内容や東京での生活に関してお話をさせていただきました。

このように、当研究室では、皆仲良く、何事にも熱心に取り組む、充実した研究生活を送っております。卒業生の先輩方、お時間がありましたら是非研究室にお立ち寄りください。また研究室の様子や近況をホームページにアップしておりますのでご覧ください。

最後になりましたが、長薬同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

## 薬剤学

博士前期課程1年 岡見和哉

本年度の薬剤学研究室は、西田教授、麓准教授、宮元助教（卒20）のもと、博士6名、修士2名、中国からの研究生1名、6年生3名、5年生5名、4年生6名に加えて、10月からは3年生5名が加わり、計31名で構成されています。3月には、にぎやかで後輩思いの素晴らしい先輩方が8名卒業され、非常に寂しい思いをしました。6月にはトルコからのインターンシップ生が、日本での研究生

活を1か月間体験されました。非常に勉強熱心な留学生で我々は刺激を受けました。10月に加入した3年生もまたエネルギーで研究室を盛り上げてくれています。

当研究室は生物薬剤学を中心として、物理薬剤学および臨床薬剤学を強く意識した研究を展開しており、体内の特定臓器や病巣などの標的部位に、薬剤を選択的かつ持続的に運ぶ研究を行っています。そのためには、薬剤



の体内における挙動を把握する必要があり、様々な角度から解析しています。研究班は大きく3つに分かれており、腹腔内の肝臓表面からの薬物吸収を利用した薬物ターゲティングを研究する「表面投与班」、遺伝子治療実現に向けた遺伝子デリバリーを研究する「遺伝子班」、病態時および各種治療時における薬物療法の個別化を研究する「動態班」があります。本年度は博士学生および修士の研究成果が、Journal of Controlled Release, Journal of Pharmacy and Pharmacology, Xenobiotica誌に受理されました。さらに、6年生の松本さんが薬学部主催の第3回若手シンポジウムで優秀発表賞を受賞しました。なお3月には、岡見君（現在は修士）が薬学部卒業研究ポスター発表会優秀ポスター賞、卒業した平井さんが学部長賞を受賞しました。

毎週火曜日の全体セミナーにおいては、文献紹介・研究報告・英語セミナーが行われ、学生による積極的な質問が飛び交っています。また、全体セミナーとは別に班セミナーが行われています。より濃密なディスカッションの中で、学生は教員の研究姿勢、豊富な知識量に触れ、研究とは何たるかを学んでいます。最近、歯学部2階に医療薬学系研究室の合同居室ができ、学生はデスクを頂くことができました。より充実した環境の中、今後の活気ある研究遂行から画期的な成果が得られることが期待されます。

研究・学習面以外では、お花見、子々川キス釣り、薬学部ボウリング大会、暑気払い・大学院試験激励会、ビール電車、研究室旅行、3年生歓迎会、卒論打ち上げ、忘年会、新年会、送別会など非常に多くのイベントがあります。今年の研究室旅行では、福岡でフォレストアドベンチャーとアサヒビール園を楽しみました。また、お昼休みには西田教授と学生のテニスによる交流が行われており、薬学祭にも積極的に参加し、学生はスポーツを通して体力の維持・向上だけでなく、コミュニケーション能力、継続力やストイックさを身に付けています。

卒業生の皆様、毎年お中元、お歳暮などたくさんの方の支援を頂き有難う御座います。皆で美味しくいただいており、大変感謝しております。直接会ってお話したいことがたくさんありますので、長崎・研究室へぜひお立ち寄りください。来年度の秋には、開講60周年の同門会を予定していますので、薬剤学研究室OB・OGの皆様のご参加を心からお待ちしています。当研究室のWebサイトはスマホ対応でリニューアルいたしました (<http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/lab/ddc/>)。学術情報、各種イベント、お知らせなど、研究室のニュースを随時更新していますので、ぜひご覧ください。

最後になりましたが、長崎大学薬学部同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

## 実践薬学

教授 中嶋幹郎（昭57）

「実践薬学」研究室の中嶋です。長薬卒業生の皆さんお元気ですか。私の研究室の卒業生は「病院薬学」研究室時代の方が多いと思います。実は平成27年4月に医療薬学系4研究室（薬剤学、薬物治療学、医薬品情報学、実践薬学）が薬学部のある文教キャンパスから大学病院のある坂本キャンパスへ移転した折に、研究室の名称が「実践薬学」へと変更になりました。当研究室は、薬学部にて平成17年8月に新設された研究室で、私が初代教授として着任し、今年度で15年目を迎えています。実践薬学には、私も含めてこれまで10名の教員（文部科学省補助事業担当の有期雇用教員を含む）が在籍しましたが、名称が変更された平成27年4月には、大山要准教授（平12）が学部内の異動で薬品分析化学より着任し、ようやく他の研究室と同様、大学院教育を担当する教員が2名体制の研究室になりました。現在、当研究室には、私と大山准教授に加えて大学病院薬剤部に常駐している黒崎友亮助教（平17）の3名の薬剤師実務経験のある臨床系教員が所属しています。学部教育では、いわゆる改訂コアカリの「(F) 薬学臨床」の領域を任されており、主として薬剤師実務実習に関連する科目を担当しています。

さて、令和元年12月の時点で研究室に配属されている学部生・大学院生は、博士課程大学院生2名（社会人1名を含む）と学部生16名の計18名です。学部6年生は卒業論文の発表会も終わり、今は薬剤師国家試験受験のための準備に集中する毎日を過ごしています。これまでの模試の成績も良好で、今年も全員が無事に合格するものと確信しています。学部5年生は2～8月までの半年間に渡った薬局・病院での実務実習も終わり、今は卒業研究に取り組んでいます。また4年生は薬学共用試験（OSCE・CBT）の真っ只中です。10月からは3年生も入ってきています。一方、博士課程の3年生は疾患特異的な免疫複合体抗原の探索と新たな治療法の開発に関する研究に取り組んでおり、この研究面での素晴らしい実績が評価され、今年から2年間、日本学術振興会の特別研究員（DC2）に採択されました。生命科学である薬学はもちろん理科系の学問領域ですが、医療人である薬剤師は、理科系の専門性（教養・知識・技能）を備えた文科系の専門職能人であると考えています。「実践薬学」研究室の在学や卒業生の皆さんには、これからの未来の社会を切り開いていける社会人に育ってほしいと願っています。

# 薬用植物学

博士前期課程2年 永江将太

薬用植物学研究室のこの1年の主な出来事です。

- 2019年1月 Redaさんがエジプトに帰国（写真Redaさんの送別会）
- 2019年3月 小林愛さんが薬学部薬学科，池本瑞季さんが薬学部薬科学科を卒業  
Anwarさんが博士前期課程を修了
- 2019年4月 池本さんが博士前期課程に入学
- 2019年5月 Mohamedさんが留学を終えエジプトに帰国
- 2019年5月31日 研究室対抗ボウリング大会が開催され，当研究室は9位となる
- 2019年7月 Amaさんが休暇を利用して研究室に戻ってくる
- 2019年7月8日 山田先生54歳の誕生日パーティーを研究室で開催
- 2019年9月 張さんが留学生として研究室に配属される

2019年10月 白川まゆこさん，上原みかこさんが研究室に新配属される

Amaさんが休暇を終えガーナに帰国

山田先生の誕生日パーティーでは，そうめん流し機と似顔絵の入った誕生日ケーキをプレゼントし，非常に喜んでいただきました。また，各学生の誕生日には誕生日パーティーを開催しました。

クリスマスにはクリスマスパーティーを開催したり，夏にはかき氷やそうめんを研究室で食べるなど，研究室員一同，仲良く過ごしております。

また，11月16, 17日に長崎大学で開催された日本薬学会九州支部大会において，薬学科6年生の香田沙羅さんが発表しました。

それぞれの研究はもちろんのこと，病院・薬局実習や事前実習，就職活動，国家試験やCBTに向けての勉強など日々精進しております。



## 臨床研究薬学

薬学部5年 吉村浩明

私たちは臨床研究薬学研究室です。この研究室は平成31年4月1日から感染分子薬学研究室から臨床研究薬学研究室へと名前を変え、臨床系の研究室の仲間入りを果たしました。その際、新たに教授として都田真奈先生(平9)を迎えました。研究室名は変わりましたが、研究している内容はみんな変わっていません。

当研究室では2つのテーマで研究しています。都田教授の方では既存代謝調節薬による感染免疫制御機序の解明とドラッグ・リポジショニングによる免疫調節薬の探索を目的としています。北里准教授の方では乳酸菌代謝物に含まれる抗アレルギー活性物質の探索、乳酸菌代謝物の免疫調整機序の解析を目的としています。

令和元年現在、学生は5年生1人、4年生4人、3年生1人の6人となり、研究室名が変わってからはますます賑やかになってきたように感じます。10月には仮配属生と都田先生の歓迎会を兼ねた研究室のメンバーでの親睦会を行いました。人数も増えてきたので今後は花見やバーベキューもできたらいいなと思っています。また、毎年行われるボウリング大会においては、昨年最下位の16位から今年は7位に入り健闘しました。次のボウリング大会では3位以内入賞を目指します。

他の研究室に比べて人数は少ないですが、少人数だからこそ強く結束してよりよい研究室にしていきたいと思っています。





## 治療薬剤学

薬学部3年 水口俊弥

治療薬剤学研究室は、長崎大学病院の薬剤部に併設されている研究室で、大学の研究・講義棟ではなく、実際に臨床業務を行っている薬剤部のすぐ隣の部屋で研究を行っています。このため、薬学部の他の研究室とは少し離れた立地になっているものの、病院の薬剤部の先生方と接する機会が多く、病院薬剤師として臨床にも立たれている方々と一緒に研究できることが大きな特徴です。2010年頃までは治療薬剤学研究室は地下にあり、一部の先輩方のデスクは薬剤部の薬務管理室や薬品情報室などにあったと伺っています。現在は、病院1階の佐々木先生の教授室のすぐそばにあります。長崎大学病院にいらっしゃる機会がありましたら、ぜひ研究室にもお越し頂ければ幸いです。

現在の治療薬剤学研究室のメンバーは、佐々木均教授(昭53)、兒玉幸修准教授(平13)、博士課程の学生が1名、学部6年生、5年生、4年生、仮配属の3年生がそれぞれ3名ずつ、研究補助員2名の、計17名です。他にも、里加代子先生(平17)などの大学病院薬剤部の先生や治療薬剤学研究室出身で今は実践薬学分野で助教をされている黒崎友亮先生(平17)が薬剤部業務を行いながら、本研究室で研究もされています。また、同じく治療薬剤学研究室のご出身で長崎大学病院薬剤部にお勤めの原澤仁美先生(平10)や岸川礼子先生(平19)、藏本悠先生(平27)、山下祐未先生(院平23)、小林瑞希先生(平

29)、加藤由佳先生(平30)などともお会いする機会があり、色々な苦勞話やアドバイスを聞かせて頂いています。

今年度は、新たに学部3年生の馬場玲花、本田みさ、水口俊弥の3名が、10月に仮配属という形で研究室に加わり、年度末には、学部6年生の片淵勇貴さん、前永朱理さん、松田輝翔さんの3名が卒業されます。また、佐々木均教授が、来年度末でご退官となります。来年度には記念パーティ等も開催されることと思いますので、その際はぜひご参加ください。

本研究室では、佐々木均先生のご指導の下、核酸医薬品を臨床へ応用するための薬物デリバリーシステム(DDS)の開発研究を活発に行っています。その研究の中で、学生にもさまざまな手技・知識が要求されるため、指導内容も*in vivo*や*in vitro*における実験技能の習得に特に力が入れています。現在、私たちも先輩方に指導して頂きながら、これらの実験技能の習得を行っています。今後も、卒業生の皆様のご期待に応えられるよう、研究活動に努めてまいりたいと思います。

最後に、2019年10月10日に長崎大学薬学部で開催された2019年度卒業生発表会で治療薬剤学研究室卒業生の原田文香(平12)さんをご講演されました。その時の懇親会の写真を掲載いたします。



# クラブOB会だより

## 第35回薬学硬式庭球部OB会

東 泰之 (学5)

今年は11月23日に35回目を迎える薬学硬式庭球部OB会を開催いたしました。

松山町の市営庭球場にてOB対現役生の対抗戦を行いました。対抗戦には当部活の創設者である山本先輩(院昭55)をはじめ、松下先輩(平2)、古賀先輩(平8)、小嶺先輩(平24)、辻田先輩(平24)、松本先輩(平25)、矢野先輩(平26)、山元先輩(平26)、新藤先輩(平26)、岩高先輩(平26)、吉崎先輩(平27)、秋武先輩(平27)、森本先輩(平28)、児玉先輩(平29)、田川先輩(平30)、平戸先輩(平30)、木村先輩(平31)、井上先輩(平31)、永井先輩(平31)といった先輩がお忙しい中参加してくださいました。今年、男子・女子両方ともOBが現役生に大きく勝ち越すという結果となりました。試合後、現役生は対戦したOBの方々からご助言を頂き、大変良い経験になりました。来年はより良い試合ができるように現役生にはより一層練習に励んでもらいたいと思います。またOBも現役生との試合で大きな刺激を受け、OB、現役生の両方にとって大変有意義な時間となったのでは

ないでしょうか。

対抗戦後には懇親会を松山町の宝来軒別館にて行いました。参加者はOB、現役生合わせて50名以上にのぼり大盛会となりました。新旧幹部のあいさつ、1年生の自己紹介、OBの方々のお話と進み、現役生にとってはテニスの話のみならず、普段聞くことのできないようなお仕事の話などを聞くことのできた貴重な時間となったと思います。続く二次会、三次会も多くの方が参加してください、充実した時間となりました。

長崎大学薬学硬式庭球部OB会も今年で35回を迎え、今後さらに発展していくことと思われます。今年残念ながら出席できなかった先輩方もご都合がつかましたら、来年のOB会に是非ご参加ください。現役一同、心よりお待ちしております。

また今回35回目と区切りの良い会ということで、OBの方々よりテニスボール120球と、ラケット6本を贈呈品として頂きました。今後大切に使用させていただきます。この場をお借りしてお礼申し上げます。



令和元年11月23日 於 市営庭球場

# 庶務報告

岸川 直哉 (平10)

## ○定例理事会

平成31年4月21日(日)13時00分より薬学部第1講義室で開催されました。佐々木 均同窓会長(昭53)の挨拶の後、平成30年度事業報告および決算報告、監査報告、庶務報告、会則変更案、2019年度事業計画案および予算案が討議されました。

続いて、近畿支部伊藤 潔幹事長(昭59)よりホテル阪急エキスポパーク(大阪府吹田市)で開催される2019年度長薬同窓会定期総会について説明がありました。また、中嶋副会長(昭57)より下村先生胸像設置に関する寄附についての引き続きのお願いがなされました。

## ○2019年度長薬同窓会定期総会

2019年6月15日(土)16時00分より、大阪府吹田市のホテル阪急エキスポパークにて開催されました。開会の後、物故者への黙祷、校歌斉唱が行われ、佐々木同窓会長よりの挨拶が行われました。引き続き、小池正博氏(昭47)を議長に選出して議事に入り、平成30年度の事業報告ならびに決算報告、それに対する監査報告がなされ、承認を得ました。また、会則変更案についても承認されました。次に、2019年度事業計画案ならびに予算案が示され、こちらも原案どおり承認されました。続いて、来年度の定期総会(長崎市)について長崎支部グビロ会澤勢瑞城会長(平15)より説明がありました。さらに、川上 茂同窓会副会長(平7)より、下村先生の胸像についての寄附のお願いがなされた他、長崎大学学長特任補佐江村 遵氏から長崎大学西遊基金についての説明がありました。

総会后、「薬局薬剤師の日常業務をエビデンスに～COMPASSプロジェクトの経験から」と題した岡田 浩先生(平17・京都大学講師)による講演、ならびに「ビッグデータから見える薬の評価」という演題での高田充隆先生(昭52・近畿大学教授)による講演の2件の特別講演会が開催されました。講演会終了後、引き続き開催された懇親会では、スライドを用いた近況報告やドイツの薬局事情の紹介、豪華景品が当たるくじびき大会が催されるなど、たいへん和やかで盛大な会となりました。

## ○長薬同窓会関連施設の維持・管理

2019年8月4日(日)に、グビロが丘防空壕跡慰霊碑周辺の清掃を同窓会本部役員・同窓生・事務局および現役大学院生・学生で行ないました。また、11月25日に小野島校舎跡記念碑周辺の清掃を同窓会本部役員を代表して池田朝美氏(平28)他で行ないました。

## ○寄贈

下記の通り、平成30年8月から2019年7月までの間に同窓生の皆様より寄附金合計11万円が寄せられ、同窓会特製(校章入り)白衣が返礼品として贈られました。

昭41	伊豫屋偉夫様	20,000円
昭44	内田 民子様	50,000円
昭59	林 幸恵様	10,000円
昭60	角 明子様	10,000円
平7	川上 茂様	10,000円
院平14	福地 弘充様	10,000円

## 物 故 者 氏 名

前会報(58号)に発表の後亡くなった方、及び死亡が判明した方(敬称略)

氏 名	卒年次	死亡年月日	氏 名	卒年次	死亡年月日	氏 名	卒年次	死亡年月日
岩 崎 晴 一	昭13	平30.7.22	松本(玉丸)康裕	昭24	令1.11.21	棚 橋 力	昭39	令1.5.30
河 内 敬 朝	昭13	平28.9.14	宇野(向井)光次	昭24	平30.12.9	五弓(河村)明枝	昭42	平29.11.-
小笠原 正 己	昭16.3	令1.7.8	伊 東 安 衛	昭26	令1.9.26	夏 木 令 子	院43	平31.3.12
河 野 信 助	昭17	平31.2.13	佐 藤 昭二郎	昭26	平30.11.8	大 和 喬	昭44	平29.-
矢 野 堯 夫	昭18	平29.12.23	永 江 喜一郎	昭26	平30.8.-	大 田 不二夫	昭44	平27.11.17
斎 能 正 則	昭18	平29.9.30	馬 場 宏 治	昭28	令1.6.26	田 中 重 雄	昭45	令1.7.11
四 元 保 夫	昭18	平31.3.17	岸 本 昭 夫	昭30	平30.12.8	木村(氏家)真知子	昭49	令1.2.-
池 田 英 明	昭19	平30.4.7	近 藤 淳 子	昭30	平31.2.22	馬場(本多)美弥子	昭49	令1.8.26
石 崎 克 弥	昭19	平31.3.-	山 下 和 昭	昭34	令1.6.17	亀 山 清 廣	昭50	平31.2.4
中 村 敏 郎	昭19	平29.3.3	林 田 匡 代	昭36	令1.11.15	本 川 靖 政	昭57	令1.8.18
田 中 敏 雄	昭22	平28.7.28	瀬 崎 了 一	昭37	平31.1.5			
田 崎 和 之	昭22	令1.11.8	生地(大野)典子	昭38	平30.12.16			
麻 生 忠 介	昭24	令1.5.16	渡 辺 浩 二	昭38	平29.8.9			
吉田(筒井)俊造	昭24	令1.5.14	黒 田 邦 洋	昭39	平29.11.19			
							計	38名

# 長葉同窓会会則施行細則変更について

今年度定期総会において、以下のとおり会則が変更になりました。

長葉同窓会会則施行細則 新旧対照表

新	旧
第三条 本会は <u>五年</u> 一回「長葉同窓会名簿」を作製する。	第三条 本会は三年一回「長葉同窓会名簿」を作製する。

従って次回の名簿発行は5年後（2024年）の予定になります。

# 長薬同窓会 寄附のご案内

皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、平成28年6月に開催された平成28年度長薬同窓会定期総会において、長薬同窓会への寄附金を受け付けることが承認されました。寄附金につきましては長薬同窓会の運営に活用させていただきます。

つきましては下記の通り寄附金を受け付けさせていただきますので、本会の趣旨にご賛同いただき、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

なお、ご賛同いただける方は、次ページの寄附金申込書・白衣希望確認書をE-mail, FAX, または郵送でお送りくださるようお願い申し上げます。

寄附対象者	長崎大学薬学部同窓生 長崎大学薬学部教職員 本会の趣旨に賛同する個人、法人、団体など
寄附金の単位	個人による寄附金については1口1万円を単位とします。 法人・団体等による寄附金については1口の金額は定めません。
寄附金納入方法	<u>郵便振替</u> 口座番号：01860-3-4125 口座名：長薬同窓会 <u>銀行振込</u> 十八銀行大橋支店 普通預金 口座番号：0517453 口座名：長薬同窓会 恐れ入りますが振込手数料は各自ご負担願います。また、振込人名義には寄附者名と同じ名前でのご入力をお願いします。 <u>現金</u> 申込書を添えて現金書留でお送りいただくか、同窓会事務局へご持参ください。 ※申し訳ございませんが、長薬同窓会への寄附金の場合、税控除はありません。代りにお礼の品として白衣を贈呈いたします。
お礼の品	ご希望の方は1万円の寄附につき長崎大学薬学部の発端となった第五高等学校の校章入り白衣を1着贈呈させていただきます。 サイズは男女別のS, M, L, LL, XL (3L) となっております。 <u>次ページの白衣希望確認書</u> によりE-mail, FAX, または郵送でお知らせください。 毎年7月末までにご寄附いただいた方へ10月初旬ごろを目安に贈呈させていただきます。 贈呈数の例：10万円の寄附→0～10着まで選択可能

長薬同窓会 会長 佐々木 均

問い合わせ先：長薬同窓会事務局

〒852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学薬学部柏葉会館内  
TEL&FAX：095-844-6383 E-mail：jimukyoku@choyaku.jp

.....年 月 日

長 薬 同 窓 会 会 長 殿

寄附者 郵便番号 .....

住 所 .....

ふりがな

氏 名 .....

(※法人にあつては、法人名及び代表者の職・氏名)

卒年 ..... 会員番号 .....

(※同窓会会員の方で会員番号がわかる方はご記入下さい。)

電話番号 .....

(※電話番号は必ず記入して下さい。)

寄 附 金 申 込 書

1. 寄附金額 ..... 円

2. 納入予定日 ..... 年 月 日

3. 納入方法 銀行振り込み 郵便振替 現金

(※いずれかに○をお願いします)

白 衣 希 望 確 認 書

1. 白衣の希望 あり なし

2. 白衣のサイズと枚数

男性用	枚数	女性用	枚数
S		S	
M		M	
L		L	
LL		LL	
XL		XL	

(※1口1万円につき1枚、最大10枚まで)

※この申込書は長薬同窓会のホームページからダウンロードできます。

## 学 内 記 事

### (海外渡航)

種別	職名	氏名	渡航先国	期間	渡航目的
出張	教授	植田 弘師	台湾	2018/11/25～ 2018/11/27	慢性疼痛とLPAについての情報収集と研究打ち合わせ
出張	教授	山吉 麻子	中国	2018/11/27～ 2018/12/2	China-Japan Joint Symposium on Biomaterials 2018
出張	准教授	淵上 剛志	中国	2019/5/25～ 2019/5/31	23rd International Symposium on Radiopharmaceutical Sciencesにおける研究発表
出張	准教授	萩森 政頼	フランス	2019/6/11～ 2019/10/16	科研費国際共同研究加速基金A（国際共同研究強化A）に関する研究
出張	准教授	大庭 誠	カナダ アメリカ	2019/6/21～ 2019/6/30	The 26th American Peptide Symposiumでの情報収集
出張	准教授	山本 剛史	アメリカ	2019/6/22～ 2019/6/30	Gordon Research Conference on Nucleosides, Nucleotides and Oligonucleotides meetingへ参加のため
出張	准教授	齋藤 義紀	中国	2019/7/28～ 2019/8/6	研究材料の植物に関する実地調査と採集
出張	准教授	北里 海雄	台湾	2019/8/18～ 2019/8/25	台北医学大学薬学部との学生交流の引率教員として
出張	准教授	齋藤 義紀	中国	2019/8/20～ 2019/8/26	二国間交流事業による中国茶製造視察
出張	助教	上田 篤志	アメリカ	2019/8/24～ 2019/8/31	ACS Fall 2019 National Meetingに参加・成果発表・情報収集を行う
出張	准教授	山本 剛史	台湾	2019/8/29～ 2019/8/29	ジョイントシンポジウム，第19回夏期セミナー
出張	教授	黒田 直敬	台湾	2019/8/29～ 2019/8/31	Japan-Taiwan Joint Symposiumへの参加
出張	准教授	大庭 誠	台湾	2019/8/29～ 2019/8/31	The 5th Japan-Taiwan Joint Symposium for Pharmaceutical Sciencesでの情報収集
出張	准教授	淵上 剛志	台湾	2019/9/10～ 2019/9/19	創薬研究・教育のための学術交流
出張	准教授	大山 要	オーストリア	2019/10/15～ 2019/10/22	6th Annual European Congress on Clinical & Translational Sciences (EUSTM-2019)での発表

### (異 動)

異動年月日	異動内容	職	氏名	所属研究室	備 考
H31.2.19	任期満了	助教	上田 篤志	薬化学	テニュアトラック期間満了・ 2/20テニュア助教へ
H31.2.20	採用	助教	上田 篤志	薬化学	テニュアトラック助教より
H31.3.31	定年退職	教授	植田 弘師	創薬薬理学	
H31.3.31	定年退職	教授	中山 守雄	衛生化学	
H31.3.31	任期満了	助教	春山 貴弘	感染分子薬学	テニュアトラック期間満了・株式会社AVSSへ
H31.3.31	任期満了	助教	吉田 さくら	衛生化学	テニュアトラック期間満了・ 4/1テニュア助教へ
H31.4.1	採用	助教	吉田 さくら	衛生化学	テニュアトラック助教より
R1.8.1	採用	助教	福田 瑞穂	薬品分析化学	大学院医歯薬学総合研究科生命薬科学専攻博士後期課程より（社会人学生として在学中）

## (学位授与)

学位記番号	学位の種類	氏名	学位授与年月日	学位記番号	学位の種類	氏名	学位授与年月日
博甲第1124号	博士(薬学)	シライワ ケン 白岩 健	平成31年3月6日	博甲第1156号	博士(薬科学)	ヤマグチ アヤネ 山口 文音	平成31年3月20日
博甲第1145号	博士(薬学)	ネヤマ ヒロユキ 根山 広行	平成31年3月20日	博甲第1157号	博士(薬科学)	エトウ リョウ 江藤 諒	平成31年3月20日
博甲第1146号	博士(薬学)	ハラグチ アヤナ 原口 綾奈	平成31年3月20日	博甲第1158号	博士(薬科学)	フルカワ 古川かほり	平成31年3月20日
博甲第1147号	博士(薬学)	ミウラ ユウスケ 三浦 雄介	平成31年3月20日	博甲第1159号	博士(薬科学)	モリカワ ヒトミ 森川 仁美	平成31年3月20日
博甲第1148号	博士(薬学)	エラ マナミ 江良真名美	平成31年3月20日	博甲第1160号	博士(薬科学)	イシカワ ナツミ 石川 夏海	平成31年3月20日
博甲第1149号	博士(薬学)	マツモト ヨウヘイ 松本 洋平	平成31年3月20日	博甲第1161号	博士(薬科学)	イワタカ ミホ 岩高 美帆	平成31年3月20日
博甲第1150号	博士(医学)	クマガイ アスカ 熊谷 飛鳥	平成31年3月20日	博甲第1162号	博士(薬科学)	ウエハラ ワタル 上原 渉	平成31年3月20日
博甲第1151号	博士(医学)	モハミード シュリマン オマー タゴッド Mohammed Suliman Omer Tagud	平成31年3月20日				



# 長 薬 同 窓 会 役 員

(令和1年6月)

## 本部役員

会 長 佐々木 均 昭53年 長大病院教授, 薬剤部長	幹 事 中村 忠博 昭59年 長大病院副薬剤部長
副 会 長 七種 均 昭56年 諫早記念病院	〃 本多 雅幸 昭62年 長崎県福祉保健部薬務行政室長
〃 山口 正広 昭56年 翔薬長崎支店	〃 梶島 力 平4年 長崎国際大教授
〃 中嶋 幹郎 昭57年 薬学部教授	〃 山口 拓 平8年 長崎国際大教授
〃 秋吉 隆治 平3年 どりいむ薬局	〃 都田 真奈 平9年 薬学部教授
〃 藤島さとみ 平3年 つばさ薬局	〃 藤田和歌子 平11年 医歯薬学総合研究科准教授
〃 川上 茂 平7年 薬学部教授	〃 福地 弘充 院平14年 鍵屋薬局
監 査 高良 真也 昭57年 みどり調剤薬局	〃 手嶋 無限 院平15年 アイビー薬局
庶務幹事 岸川 直哉 平10年 薬学部准教授	〃 澤勢 瑞城 平15年 さわせ薬局
会計幹事 松尾 洋介 平15年 薬学部助教	〃 里 加代子 平17年 長大病院助教
編集幹事 鶴丸 雅子 平5年 長大病院薬剤部	〃 池田 朝美 平28年 長崎県福祉保健部薬務行政室
〃 稲嶺 達夫 平18年 薬学部准教授	顧 問 山中 國暉 昭43年 あおかた調剤薬局
〃 宮元 敬天 平20年 薬学部助教	

## 学年理事

学部

昭23年	中原 潜	昭47年薬	上田 孝子	昭59年薬	金子 富美	平8年	駒田 由美	平20年	向江 桂
昭24年		〃 製	松本 逸郎	〃 製	中村 忠博	〃	山口 拓	〃	筒井 翔一
昭25年	塚崎 邦彦	昭48年薬	山内 茂樹	昭60年薬	塩田 英雄	平9年	平良 文亨	平21年	森田 拓也
昭26年	峰 唯信	〃 製	井手 清	〃 製	山口 綾子	〃	八木 洋一	〃	原 陽介
昭28年	寺田 洋子	昭49年薬	金崎 勝代	昭61年薬	本多 隆	平10年	岸川 直哉	平22年	測上 由貴
昭29年	野見山季治	〃 製	馬場 満輝	〃 製	谷口 智子	〃	八幡 弘樹	平23年	中本 義人
昭30年	帆士 辰雄	昭50年薬	橋間真理子	昭62年薬	森川 隆	平11年	今村 朋史	平24年学	大塚 早紀
昭31年	中尾 保敏	〃 製	松田 米人	〃 製	池田能利子	〃	水野 和美	〃 科	只能 郁也
昭32年	長田 雅子	昭51年薬	中村 珠江	昭63年薬	小田 賢一	平12年	大山 要	平25年学	黄 智剛
昭33年	西脇金一郎	〃 製	原田 均	〃 製	神山 朝光	〃	松永 隼人	〃 科	原口 綾奈
昭34年	松尾 幸子	昭52年薬	江良 浩子	平1年薬	嶋田 美樹	平13年	兒玉 幸修	平26年学	渡邊ありさ
昭35年	木下 敏夫	〃 製	北村 良二	〃 製	白川奈奈子	〃	萩森 政頼	〃 科	石川 夏海
昭36年	武田 成子	昭53年薬	森田 桂子	平2年	小山 季之	平14年	河内 亮	平27年学	濱崎 久司
昭37年	青木 昇	〃 製	町田 毅	〃	山本 稔	〃	小西 宏規	〃 科	菅 忠明
昭38年	岡 邦彦	昭54年薬	七條 利幸	平3年	北原 隆志	平15年	原田 周平	平28年学	林田 颯志
昭39年	鈴木 隆治	〃 製	濱田 哲也	〃	中村 達也	〃	松尾 洋介	〃 科	松本 啓秀
昭40年	松村 祐子	昭55年薬	七條 和子	平4年	梶島 力	平16年	大神 正次	平29年学	川淵 有佳
昭41年	伊豫屋偉夫	〃 製	大田 佳史	〃	藤田 靖之	〃	牟田 響	〃 科	加藤 直也
昭42年	井上 一顕	昭56年薬	立花 寿子	平5年	森本 仁	平17年	黒崎 友亮	平30年学	谷口 隼輔
昭43年	山中 國暉	〃 製	山口 正広	〃	津田 由佳	〃	三宅 秀明	〃 科	杉本 友里
昭44年	中村 和子	昭57年薬	中嶋 幹郎	平6年	岩永 真理	平18年	稲嶺 達夫	平31年学	赤城 友章
昭45年	中村 博	〃 製	高良 真也	〃	金村 隆則	〃	永井 潤	〃 科	棚原 悠介
昭46年薬	大西 裕子	昭58年薬	宮崎 幹雄	平7年	土井 健志	平19年	細井 雄仁		
〃 製	田中 秀二	〃 製	松本 秀樹	〃	南 義人	〃	向江 俊彦		

大学院

昭和42年～昭和46年	富永 義則 (院昭46年)	平成9年～平成13年	川上 茂 (院平9年)
昭和47年～昭和51年	高橋 正克 (院昭49年)	平成14年～平成18年	手嶋 無限 (院平15年)
昭和52年～昭和56年	大木 豊 (院昭54年)	平成19年～平成23年	吉田さくら (院平21年)
昭和57年～昭和61年	中嶋 幹郎 (院昭59年)	平成24年～平成28年	村山 彩香 (院平24年)
昭和62年～平成3年	本多 雅幸 (院平1年)	平成29年～平成31年	小川 昂輝 (院平29年)
平成4年～平成8年	富田 守 (院平4年)		

## 長薬同窓会支部一覧

(令和1年7月)

長崎支部ぐびろ会	会 長	澤 勢 瑞 城 (平 15)
長 崎 県 北 支 部	支部長	相 川 康 博 (昭 48)
島 原 支 部	支部長	織 田 堅 一 郎 (平 6)
長 崎 県 央 支 部	支部長	西 村 昇 (昭 50)
佐 賀 支 部 若 楠 会	会 長	藤 戸 博 (院昭52)
福 岡 支 部 浦 陵 会	会 長	池 田 光 政 (昭 57)
北 九 州 支 部	支部長	増 田 和 久 (昭 50)
大 分 支 部	支部長	石 橋 眞 (昭 49)
宮 崎 支 部 日 向 浦 陵 会	会 長	
鹿 児 島 支 部	支部長	森 昭 雄 (昭 28)
熊 本 支 部	支部長	山 本 喜 一 郎 (院昭55)
山 口 支 部 抜 天 会	会 長	今 村 明 久 (昭 49)
広 島 支 部	支部長	青 野 拓 郎 (昭 52)
岡 山 支 部	支部長	歳 森 三 千 代 (昭 49)
山 陰 支 部	支部長	橋 本 覚 (昭 52)
四 国 支 部	支部長	井 上 智 喜 (昭 54)
近 畿 支 部	支部長	末 澤 克 己 (昭 47)
東 海 支 部	支部長	
関 東 支 部	支部長	原 正 朝 (昭 60)
沖 縄 支 部	支部長	
北 海 道 支 部	支部長	

平成30年度長薬同窓会収支決算報告

平成31年3月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前 年 度 繰 越 金	4,832,561	通 信 費	1,038,857
会 費 (延1981名)	5,943,000	総会案内・会報発送料	670,440
入 会 金 等	1,152,000	振替加入者負担金	186,190
預 金 利 息	45	事務連絡郵便料	134,104
寄 附 金	110,000	電 報 電 話 料	48,123
雑 収 入	19,779	印 刷 費	839,405
		会 報 他 印 刷 費	839,405
		会 合 費	48,980
		理 事 会 そ の 他 会 合 費	48,980
		旅 費	1,210,860
		役 員 そ の 他 出 張 費	1,210,860
		補 助 費	1,431,600
		総会および支部会補助金	600,000
		そ の 他 補 助 金	831,600
		維 持 管 理 費	96,804
		原 爆 慰 霊 碑	91,804
		小 野 島 記 念 碑	5,000
		事 務 費	245,188
		事 務 用 品 費	9,082
		電 算 機 費 用	236,106
		人 件 費	2,950,352
		雇 員 給 料 手 当	1,030,000
		雇 員 交 通 費	36,800
		臨 時 雇 員 手 当	1,883,552
		雑 費	383,342
		会 員 見 舞 弔 慰 金	75,000
		そ の 他	308,342
		次 年 度 繰 越 金	3,811,997
合 計	12,057,385	合 計	12,057,385

会計幹事、松尾洋介氏立会のもと、平成30年度に関する帳簿及び預金通帳を詳細に監査した結果、記帳及び計算は妥当かつ正確なものであり、上記の通り相違ありません。

令和 1 年 5 月 31 日

監 査

高 良 真 也 (高良)

2019年度長薬同窓会予算案

平成31年4月1日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前 年 度 繰 越 金	3,811,997	通 信 費	1,220,000
会 費 (延2000名)	6,000,000	総会案内・名簿・会報発送料	720,000
入会金等(薬学40名+薬科学42名)	1,552,000	振替加入者負担金	280,000
預 金 利 息	50	事務連絡郵便料	160,000
雑 収 入	50,000	電 報 電 話 料	60,000
名 簿 広 告 代	450,000	印 刷 費	2,140,000
		名簿・会報他印刷費	2,140,000
		会 合 費	60,000
		理事会その他会合費	60,000
		旅 費	790,000
		役員その他出張費	790,000
		補 助 費	1,120,000
		総会および支部会補助金	600,000
		そ の 他 補 助 金	520,000
		維 持 管 理 費	110,000
		原 爆 慰 霊 碑	100,000
		小 野 島 記 念 碑	10,000
		事 務 費	270,000
		事 務 用 品 費	20,000
		電 算 機 費 用	250,000
		人 件 費	3,069,000
		雇 員 給 料 手 当	1,030,000
		雇 員 交 通 費	39,000
		臨 時 雇 員 手 当	2,000,000
		雑 費	440,000
		会 員 見 舞 弔 慰 金	120,000
		そ の 他	320,000
		同窓会名簿発行準備金	2,000,000
		予 備 費	645,047
合 計	11,864,047	合 計	11,864,047

## 編集後記

まず始めに、今回の同窓会報へ寄稿していただいた皆様に心より感謝申し上げます。皆様のご協力のおかげで、今年も内容の充実した会報を発行することができました。

さて、皆様は今年どのような1年でしたか？私は一念発起し、日本医療薬学会認定・指導薬剤師を取得するため、春から必死に勉強をしておりました。久々見てみる国家試験の参考書は自分が受験した時とは比べ物にならないくらい内容が増えており、薬学の進歩を感じるとともに生涯にわたり勉強し続ける必要性を感じた次第です。無事、認定・指導薬剤師となったので、次は学生指導に役立てていかねばと思っております！

今回の会報には平成卒の方々からも多く寄稿いただきました。そして次の卒業生は「令和初」になります。今回の会報には昭和卒、平成卒、令和卒の各世代からの記事を掲載できるといいなと考えながら、多くの皆様にご協力いただけるよう活動していきます。

宮元 敬天 記

令和元年12月20日印刷

令和元年12月25日発行

## 長薬同窓会報

編集 鶴丸雅子、稲嶺達夫、宮元敬天

発行 長薬同窓会

(郵便番号852-8131)

所在地 長崎市文教町1-14 長崎大学薬学部内

TEL 095-844-6383 (直通)

095-819-2471 (ダイヤルイン)

FAX 095-844-6383

メールアドレス jimukyoku@choyaku.jp

(郵便番号870-0913)

印刷所 大分市松原町2丁目1-6

小野高速印刷株式会社

TEL 0120-58-3002



長崎大学薬学部 長薬同窓会